

県単路整備事業(3.3.2 龍港線)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

金沢市

普正寺高畠遺跡

2009

石川県教育委員会

(財) 石川県埋蔵文化財センター

ふ しょう じ たか ばたけ
普 正 寺 高 畠 遺 跡

2 0 0 9

石 川 県 教 育 委 員 会
(財) 石川県埋蔵文化財センター



D～F区俯瞰（東から）



D～F区俯瞰（北から）



F 区SK14遺物出土状況（西から）



F 区SD4遺物出土状況（東から）

例　言

- 1 本書は普正寺高畠遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は金沢市普正寺町地内である。
- 3 調査原因は県単街路整備事業(3.3.2臨港線)であり、同事業を所管する石川県土木部都市計画課が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 発掘調査の内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。
- 5 調査に係る費用は、石川県土木部都市計画課が負担した。
- 6 現地調査は平成2(1990)年度に石川県立埋蔵文化財センターが実施した。期間・面積・担当者は下記のとおりである。

期　間 平成2(1990)年4月26日～平成3(1991)年2月6日

面　積 5,300m²

担当者 主査 中島俊一、主事 泉谷ゆかり

- 7 出土品整理は平成3・4(1991・1992)年度に実施し、石川県教育委員会が社団法人石川県埋蔵文化財保存協会に委託した。

- 8 報告書の刊行は平成20(2008)年度に実施し、石川県教育委員会が財団法人石川県埋蔵文化財センターに委託した。執筆分担は下記のとおりである。編集は岩瀬由美(調査部係主査)が行った。

第1章 湯尻修平(センター所長)・藤田邦雄(調査部グループリーダー)

第2章 坂下博晃(調査部嘱託調査員)

第3章・第4章 第1節 岩瀬由美

第4章 第2節(漆器以外) 三浦純夫(調査部長)

　　*　　*(漆器) 藤田邦雄

- 9 調査には下記の機関・個人の協力を得た。

石川県土木部都市計画課、石川県県央土木総合事務所(旧金沢土木事務所)、池田 拓、寒川 旭

- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。

- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。

水平基準は海拔高であり、T.P.(東京湾平均海面標高)による。単位はm。

目 次

第1章 経緯と経過	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 発掘作業等の経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 遺構	5
第1節 遺構	5
第2節 小結	9
第4章 遺物	35
第1節 土器	35
第2節 木製品・漆器・石製品・金属製品・土製品・錢貨	73

挿図目次

第1図 調査区位置図 (S=1/4,000)	2
第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (S=1/25,000)	4
第3図 A～C区遺構全体図 (S=1/300)	10
第4図 F-1区遺構全体図 (S=1/200)	11
第5図 G～II区遺構全体図 (S=1/200)	12
第6図 F-1・G・H区噴砂位置図 (S=1/200)	13
第7図 D～F区平面図 1 (S=1/80)	14
第8図 D～F区平面図 2 (S=1/80)	15
第9図 D～F区平面図 3 (S=1/80)	16
第10図 D～F区平面図 4 (S=1/80)	17
第11図 D～F区平面図 5 (S=1/80)	18
第12図 D～F区平面図 6 (S=1/80)	19
第13図 D～F区平面図 7 (S=1/80)	20
第14図 D～F区平面図 8 (S=1/80)	21
第15図 D～F区平面図 9 (S=1/80)	22
第16図 D～F区平面図 10 (S=1/80)	23
第17図 F区基本土層図 (S=1/80)	24
第18図 F区遺構実測図 1 (S=1/60)	25
第19図 F区遺構実測図 2 (S=1/60)	26
第20図 F区遺構実測図 3 (S=1/60)	27
第21図 F区遺構実測図 4 (S=1/60)	28
第22図 F区遺構実測図 5 (S=1/60)	29
第23図 F区遺構実測図 6 (S=1/40)	30
第24図 E・F区遺構実測図 (S=1/60) · G区基本土層図 (S=1/80)	31
第25図 II区遺構実測図 1 (S=1/60)	32
第26図 II区遺構実測図 2 (S=1/60)	33
第27図 II区遺構実測図 3 (S=1/60)	34

第28図	土器・陶磁器実測図1 (S=1/3)	37	第44図	土器・陶磁器実測図17 (S=1/3)	53
第29図	土器・陶磁器実測図2 (S=1/3)	38	第45図	土器・陶磁器実測図18 (S=1/3)	54
第30図	土器・陶磁器実測図3 (S=1/3)	39	第46図	土器・陶磁器実測図19 (S=1/3)	55
第31図	土器・陶磁器実測図4 (S=1/3)	40	第47図	土器・陶磁器実測図20 (S=1/3)	56
第32図	土器・陶磁器実測図5 (S=1/3)	41	第48図	木製品実測図1 (S=1/3)	74
第33図	土器・陶磁器実測図6 (S=1/3)	42	第49図	木製品実測図2 (S=1/3)	75
第34図	土器・陶磁器実測図7 (S=1/3)	43	第50図	木製品実測図3 (S=1/6)	76
第35図	土器・陶磁器実測図8 (S=1/3)	44	第51図	漆器実測図 (S=1/3)	77
第36図	土器・陶磁器実測図9 (S=1/3)	45	第52図	石製品実測図1 (S=1/3・1/6)	78
第37図	土器・陶磁器実測図10 (S=1/3)	46	第53図	石製品実測図2 (S=1/3・1/6)	79
第38図	土器・陶磁器実測図11 (S=1/3)	47	第54図	石製品実測図3 (S=1/8)	80
第39図	土器・陶磁器実測図12 (S=1/3)	48	第55図	石製品実測図4 (S=1/8)	81
第40図	土器・陶磁器実測図13 (S=1/3)	49	第56図	金属製品実測図 (S=1/3)	82
第41図	土器・陶磁器実測図14 (S=1/3)	50	第57図	土製品・銭貨実測図 (S=1/1・1/3)	83
第42図	土器・陶磁器実測図15 (S=1/3)	51	付図	D~F区遺構全体図 (S=1/200)	
第43図	土器・陶磁器実測図16 (S=1/3)	52			

表 目 次

第1表	周辺の遺跡	4	第13表	土器・陶磁器観察表12	68
第2表	土器・陶磁器観察表1	57	第14表	土器・陶磁器観察表13	69
第3表	土器・陶磁器観察表2	58	第15表	土器・陶磁器観察表14	70
第4表	土器・陶磁器観察表3	59	第16表	土器・陶磁器観察表15	71
第5表	土器・陶磁器観察表4	60	第17表	土器・陶磁器観察表16	72
第6表	土器・陶磁器観察表5	61	第18表	木製品観察表	84
第7表	土器・陶磁器観察表6	62	第19表	漆器観察表	84
第8表	土器・陶磁器観察表7	63	第20表	石製品観察表	85
第9表	土器・陶磁器観察表8	64	第21表	金属製品観察表	86
第10表	土器・陶磁器観察表9	65	第22表	土製品観察表	86
第11表	土器・陶磁器観察表10	66	第23表	銭貨観察表	86
第12表	土器・陶磁器観察表11	67			

図 版 目 次

巻頭図版1	D~F区俯瞰		写真図版10	F区遺構8・G区遺構・H区遺構1	
巻頭図版2	F区遺物出土状況		写真図版11	H区遺構2	
写真図版1	A・B区遺構		写真図版12	I区遺構1	
写真図版2	C・D区遺構		写真図版13	I区遺構2	
写真図版3	E区遺構・F区遺構1		写真図版14	I区遺構3	
写真図版4	F区遺構2		写真図版15	遺物1	
写真図版5	F区遺構3		写真図版16	遺物2	
写真図版6	F区遺構4		写真図版17	遺物3	
写真図版7	F区遺構5		写真図版18	遺物4	
写真図版8	F区遺構6		写真図版19	遺物5	
写真図版9	F区遺構7		写真図版20	遺物6	

第1章 経緯と経過

第1節 調査の経緯

普正寺高畠遺跡は、金沢市普正寺町の西方約100mに位置し、水田の標高約15m、畑地の標高約2m通称「たかばたけ」に所在している。当該地は砂丘の微高地で、遺跡の存在は明治・大正期の耕地整理の際に土器の出土により明らかとなっていた。『大徳郷土誌』を編纂された地元の福田弘光氏は、郷土史家であり農業の傍ら故郷の歴史や伝承を調べられ、荒木繁行氏らの石川考古学研究会員とともに普正寺、畠田、戸水など現在の金沢港から県庁付近に広がる区域で多くの遺跡を発見している。また、『大徳郷土誌』の中に資料編として、松村遺跡などの12遺跡を紹介されている。

同遺跡は、古墳時代後期と中世～近世の集落遺跡であるが、昭和42年10月に福田氏と石川考古学研究会員によって1週間程度の発掘調査が行われた。おおよその調査位置を第1図に示したが、「遺構は竈をともなう堅穴住居跡と考えられる。また北西に接して土器とともに鉄鎌が発見された。」とあり、「出土遺物は須恵器の杯身3・杯蓋2・高杯2・高杯蓋2・壺片1等、土師器の杯4・高杯4・壺4・壺1・瓶1・ほかに長頸壺や塙の破片、土製支脚1等をふくむ破片多数である。破片より推計した数量は土師器約500点、須恵器約13～4点と見られる」と報告されている。吉岡康暢氏は、後年この出土品を整理され須恵器は5世紀後半から6世紀前半の所産で、陶邑編年のTK47期に下らないもの、同期新相～MT15期古相のもの、MT15期の三区分できることを指摘された。この須恵器と土師器は、該期の資料が増加した現在にあっても一括資料として良好な資料である。

福田弘光 1970 「資料編 遺跡と考古資料」『大徳郷土史』 大徳公民館 923-966頁

吉岡康暢 1991 「古墳後期の土師器と須恵器－石川県普正寺高畠遺跡の土器－」『日本海城の土器・陶磁 [古代編]』 200-216頁

第2節 発掘作業等の経過

県単街区整備事業に伴い、県立埋蔵文化財センターに土木部都市計画課長から調査依頼があったのは、平成2年度(1990)であった。臨港線は金沢港外周を巡る幹線道で、港の整備とともに交通量も増加しており、事業は金石本町金沢西署前で金石往還と交差し、普正寺町の西側を迂回して犀川橋に繋ぐルートとなっていた。県立埋蔵文化財センターでは、同年4月26日から5,300m²の調査を計画し、調査区は水田の区割りを目安に北側からA～Iの10区を設定した。グリッドは10m四方、路線軸に沿って東からA、B、C…、A以東はイ、ロ、ハ…、北から0、1、2、3…と呼称した。南側の県道沿いの調査区は、湧水、崩壊対策に加えて安全確保の条件も重なり、調査の完了は平成3年2月6日となった。

D～I区では並行する地震に関係した噴砂の痕跡が縞状に認められ、地震研究家の寒川旭氏に現地確認を依頼した。噴砂は土層の観察によって中世から近世初頭の遺構が埋まつた後に発生した地震によるものと見られ、これら遺構内覆土をも切った砂脈が多数検出された。このことから加賀藩資料に収録されている「政隣記」の寛政11年(1799)5月26日の記事にある金沢地震による可能性が高い。

寒川 旭 1992 「地震考古学—遺跡が語る地震の歴史—」 中公新書 中央公論社

寒川 旭 1993 「遺跡の地震跡を用いた古地震研究」「第四紀研究」第32巻第5号

前田育德会 1936 「加賀藩史料 第拾編 自 寛政元年 至 寛政貳年」 清文堂出版

寛政十一年五月廿六日。金澤に強震あり。として「政隣記」など文書等に記された地震の記事をまとめてある。880-902頁



第1図 調査区位置図 (S=1/4,000)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

普正寺高畠遺跡は石川県金沢市普正寺町地内に所在する。石川県は本州中央部の日本海側に位置し、富山・福井両県とともに北陸三県を構成している。金沢市は県庁所在地で市域は46,777km²、人口は456,653人の中核市である（平成21年1月1日現在）。北は河北郡内灘町、同郡津幡町、南は白山市、石川郡野々市町に接し、東は砺波山系を擁し、西は日本海に面している。地形は東から奈良岳、医王山などの山地、卯辰山や戸室山などの丘陵地、犀川・浅野川・金腐川などによってつくりだされた平野部、海岸部は砂丘となっている。

普正寺町は、金沢市域の西部で、白山山系奈良岳を源流とする犀川の河口部に位置しており、海岸部は内灘砂丘の南端である安原海岸砂丘が発達している。遺跡はその砂丘後背の沖積平野に立地している。この沖積平野は現在、平坦な地形であるが、これは耕地整理の結果であって、もとは島状の微高地や日本海に流れ込む小河川が複雑に入り組む変化に富んだ地形であった。また、現在の犀川の流路は、江戸時代前期に改修されたもので、もとは普正寺町地内の東線を弯曲しつつ、大野湊神社の西側付近を流れて、安原川と合流して日本海に注がれていたようである。このようなことから本遺跡は、現在では犀川右岸に位置しているが、安原川と犀川に挟まれたところに立地していたことが復元されている。

第2節 歴史的環境

本遺跡周辺における縄文時代の遺跡については非常に少なく藤江C遺跡（37）で後期後葉の集落跡を検出している。弥生時代は、前期から中期前葉までは明確な遺跡は知られていないが、中期には寺中遺跡（8）、戸水C遺跡（18）などがあげられる。後期から終末期には遺跡数は格段に増加する。畝田遺跡（20）では農耕具をはじめとした大量の木製品や土器が出土している。

古墳時代に入ると畝田寺中遺跡（19）、藤江C遺跡（37）があげられる。また戸水C古墳群、藤江C古墳群には周溝が検出されたことで判明した前期古墳群がある。

古代では、金石本町遺跡（6）、畝田・寺中遺跡（19）、畝田ナベタ遺跡（27）、戸水C遺跡（18）などがあげられ港湾関連施設の遺跡と考えられている。畝田・寺中遺跡では「津」、「津司」などの墨書き土器や木簡、南北に列をそろえて並ぶ倉庫群などから加賀郡津と想定されている。戸水C遺跡は、加賀国立国時の国衙関連施設と想定され、計画性の高い配置の建物群や港湾機能を示す「津」をはじめとする多数の墨書き土器・施釉陶器・漆紙文書が出土している。また、畝田ナベタ遺跡では中国製の金箔張帶金具が出土している。このような、金沢平野臨海部の港湾遺跡は渤海使などの重要な对外施設と考えられている。

中世では、普正寺遺跡（5）や無量寺遺跡（14）などが確認されている。普正寺遺跡は中世大野莊湊の一角と考えられている。遺跡は15世紀の半ばに砂丘の移動によって埋没してしまうが、犀川・大野川河口部は近世以降も湊町として機能を保ち続ける。近世には、金石本町遺跡（6）や佐奇森遺跡（39）が確認されているがまだまだ不明確なところが多く、今後の調査が期待される。

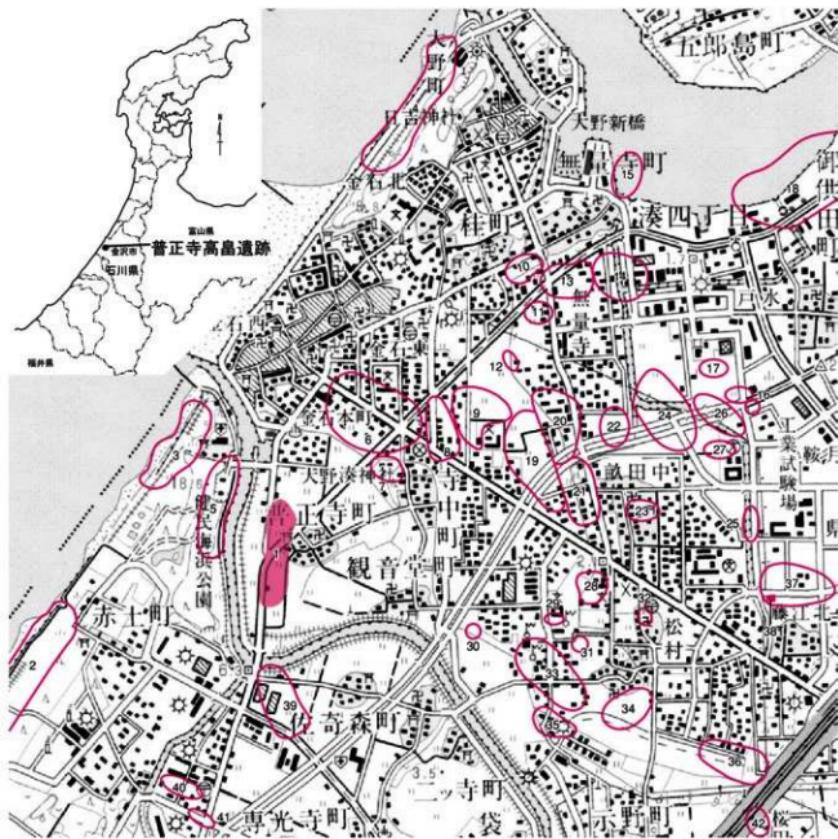
参考文献 福田弘光 1970『大徳郷土史』 大徳公民館

吉岡康暢^著 1970『普正寺』 石川考古学研究会

垣内光次郎^著 1984『普正寺遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター

金沢市史編さん委員会 1999『金沢市史資料編19 考古』 金沢市

2004『金沢市史通史編1 原始・古代・中世』 金沢市



第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (S = 1/25,000) 國土地理院発行 1 : 50000「金沢」を改変

第1表 周辺の遺跡

No.	遺跡番号	遺跡名	立地	時代	No.	遺跡番号	遺跡名	立地	時代
1	01255	普正寺高畠遺跡	平地	古墳・平安・中世～近世	22	01263	赤田B遺跡	平地	出生～平安
2	01038	下安坂海岸跡	砂丘地	弥生	23	01264	赤田御台場遺跡	平地	近世
3	01253	普正寺香取砂丘遺跡	砂丘地	绳文・奈良・平安	24	01265	赤田C遺跡	平地	绳文～平安
4	01277	金谷北遺跡	砂丘地	不詳	25	01266	赤田D遺跡	平地	弥生
5	01254	普正寺遺跡	砂丘地	奈良	26	01266	赤田E量寺遺跡	平地	弥生・奈良・平安
6	01256	金石本町遺跡	平地	弥生～平安・中世・近世	27	01267	赤田Fベタ遺跡	平地	奈良・平安
7	01257	寺中御台場遺跡	平地	近世	28	01268	松村西の城遺跡	平地	古墳・平安
8	01258	寺中遺跡	平地	弥生	29	01269	觀音堂遺跡	平地	出生
9	01259	寺中B遺跡	平地	绳文・平安	30	01270	觀音堂D遺跡	平地	出生
10	01278	桂遺跡	平地	弥生・古墳・奈良・平安・中世	31	01270	松村平田遺跡	平地	出生
11		桂南遺跡	平地	中世	32	01271	松村寺の前遺跡	平地	奈町
12		桂・寺中遺跡	平地	弥生～中世	33	01066	松村A遺跡	平地	绳文・弥生・中世
13	01279	無量寺B遺跡	平地	古墳	34	01097	松村B遺跡	平地	绳文・弥生・近世
14	01280	無量寺遺跡	平地	古墳・中世	35	01095	松村Cのまえ遺跡	平地	弥生
15	01281	無量寺金沢港遺跡	平地	绳文・古墳	36	01098	松村高木遺跡	平地	出生
16		無量寺C遺跡	平地	弥生～平安	37	01272	藤江A遺跡	平地	出生～中世
17		無量寺D遺跡	平地	弥生～平安	38	01273	藤江B内堀跡	平地	古墳
18	01282	川口C遺跡	平地	绳文・中世	39	01094	佐吉森遺跡	平地	出生・平安～近世
19	01260	赤田・寺中遺跡	平地	古墳・中世	40	01093	幸光寺山古墳群遺跡	平地	古墳
20	01261	赤田遺跡	平地	绳文～平安	41	01092	幸光寺魚池遺跡	平地	古墳～平安
21	01262	赤田大黒川遺跡	平地	绳文～奈町	42	01099	桜田・小野中遺跡	平地	出生・平安

第3章 遺構

第1節 遺構 (第3~27図)

A区凹地 A区のほぼ全域に広がる落ち込みである。B区まで続いているのか、A・B区を隔てる農道下で急角度に曲がるのかは不明である。最下層は砂層との記録があるためおそらく水流があったとみられる。12~19世紀の遺物が多量に出土していることから、完全に埋没したのは19世紀代であろう。A区ではこの凹地の他には近世以降とみられるはざ穴状のピットが検出されたのみである。

B区 A区から続くはざ穴状のピットや耕作溝と推定される細溝が検出された。

C区 はざ穴状のピットや耕作溝の細溝が検出された他、弧状の溝と肥溜めが1基検出された。弧状の溝からは17世紀代の遺物が少量出土しているためそれ以降の遺構であろう。

D区大溝 大溝又は南北大溝と呼称された溝である。幅は305~330cm、深さは90cm前後で北北西~南東に走る。北西部はE区に続いておりE区SD1と合流する。調査区南端部で流路が東西方向に変化している。滯水・流水の有無は不明である。古手の遺物も出土しているが、主体となる遺物から掘削は15世紀後半頃、埋没は16世紀代であろう。

E区SK1(SH1) 一辺315~335cm、深さ20cm前後、覆土不明の略隅丸方形土坑である。調査所見では古墳時代中期頃の竪穴建物が1棟検出されたとあり、(SH1)の遺構名から本遺構を指すとみられる。土師器や須恵器が出土しているが、珠洲焼等中世の遺物も出土しており、古墳時代の竪穴建物とするには疑問がある。遺構が切り合っていたのであろうか。

E区SK2 一辺135~150cm、深さ46cmの方形土坑である。中世陶磁器他が出土した。

E区東西方中世溝・SD1 東西方中世溝、SD1と二つの名称があるが同一遺構とみられる。D区大溝から続く。幅220~310cm、深さ35~44cmの北東~南西の溝であるが、土層断面図では深さが約1mあるため平面図測量時に完掘していない可能性がある。南東側の肩には25~90cmの幅でテラス状の面を持つ。覆土が粘質土であるため水流があったとは考えにくい。覆土中に噴砂が観察された。

E区SD2 幅50~90cm、深さ8~20cmの北西~南東の溝である。出土遺物からすると18世紀代の遺構であろう。

F区SK1・SK2 短径210cm、長径240cmの不整形土坑SK2の北西部に径75cm、深さ54cmの円形ピットSK1が切り合っている。SK1は近世、SK2は中世の遺構である。

F区SK3・SK4 SK3は265×450cmの長方形土坑内部に190×230cmの小長方形土坑を持つ二段掘りを呈する。切り合い関係の有無は不明であるが、壁面近くにピットが並んでいることから建物跡の可能性もある。南側の4層がSK4とみられるが、大きさ等は不明である。SK3の覆土には噴砂が観察される。SK3は15世紀以降の遺構とみられる。

F区SK5 一辺175cm、深さ25cmの略方形土坑である。

F区SK6・SK7 方形土坑が切り合っている。SK7は一辺180~200cm、深さ40~47cm、SK6は一辺140cm以上、深さ40cmである。新旧は不明であるが、出土遺物からすると16世紀の製品が出土したSK6が新しいとみられる。

F区SK8・SK9 SK8は短径77cm、長径135cm、深さ9cmの長楕円形土坑である。SK9は一辺150~160cm、深さ20cmの方形土坑である。東側が一段低くなっているのは切り合う溝であろう。

F区SK10・SK10B・SK11 3基の土坑が切り合っており、北西部はSK10、北東部はSK10B、南半部はSK11である。SK10は短辺110cm、長辺200cm程度の長方形、SK10Bは一辺200cm以上の方形土坑とみられる。

SK11は約350×430cmの隅丸方形土坑である。出土遺物や切り合い関係から、SK10B→SK10→SK11の順で掘削されたとみられる。

F区SK12・SK13 SK12は一辺210～220cm、深さ23cmの略方形土坑で、底面に小ピットがみられる。SK13は長辺295cm、短辺180cm以上、深さ22cmの隅丸長方形土坑で、東側をSK11に切られている。

F区SK14・SK15 SK14は350×440cm、深さ10～25cmの長方形土坑である。南半部がやや深くなっている、その部分を中心に底部からやや浮いて碟や石塔が密集して検出された。碟は崩れているが、意図的に集石されたように見受けられる。鉄滓を始め鋳型様のものや羽口なども出土していることから鍛冶関連の作業場として使用されたのかもしれない。混入の可能性もあるが、近世遺物が1点出土しているため18世紀代の遺構と考えておきたい。SK15は340×510cm、深さ14～31cmの長方形土坑とみられるが、SK14に切られており全形は不明である。

F区SK16～SK18 SK16は350×450cm、深さ16～27cmの長方形土坑で、東辺はSK15に近接し、形態等も類似する。SK17は330×130cm以上で東側はSK16に接し、西側は調査区外のため全形は不明である。両者の切り合い関係は不明。SK16は16世紀代の遺構とみられる。SK18は150×180cmの長方形土坑で深さは37cm。SK16・17を切っている。

F区SK19・SK20 SK19は455×725cmの大型長方形土坑で深さは30～50cmを測る。東端部付近に碟がまばらに検出された。SK20・21に切られた15～16世紀の遺構である。SK20はSK21、SD4に切られており形状は不明。土層図によると東西方向は280cm、深さは16cm。共に鉄滓が多く出土した。

F区SK21・SK22 SK21は155×175cm、深さ28cmの方形土坑で、底面で碟が多く検出された。碟と共に砥石、石臼、鉄滓、フイゴ羽口等が出土し、覆土に炭や灰が確認されることから、鍛冶関連遺構とみられる。SK19・20・22を切っている。16世紀後葉～17世紀初頭頃の遺構とみられる。SK22は245×180cm以上の方形または長方形土坑とみられる。深さは29cm。SK19・21・42に切られている。

F区SK23 160×110cm以上の隅丸長方形土坑とみられる。深さは25cm。西部は調査区外となる。釘や鉄滓等が出土していることからSK21と同様の性格が想定される。

F区SK24 径165cm、深さ84cmの円形土坑で内部に碟が検出された。石組井戸の崩れたものとの見方もできるが、約3mの深さを持つSE1に対して浅く、井戸とすれば溜め井の可能性が高い。

F区SK25 113×190cmの長方形土坑で深さは35cm。

F区SK26 175×185cmの方形土坑で南西部はピットが切り合う。深さは19cm。

F区SK27 335×610cmの長方形土坑であるが、西部は二股に分かれ、底部が段掘りになっていることから2基の土坑が切り合っている可能性もある。底面では径215cm、深さ70cm、断面袋状の円形土坑が確認された。貯蔵施設であろうか。近世の遺構とみられる。

F区SK28 37×233cm以上の溝状を呈し、深さは41cmを測る。古墳時代の遺物が多く出土しているが、中世遺物も出土しているため中世以降の遺構と判断される。

F区SK29・SK30 SK29は360×525cmの大型隅丸長方形土坑で、深さは40cm。南東部をSK30に切られる。SK30は径290cmの円形土坑で深さは60cm。径約160cmの籠が検出されたことから肥溜めと判断される。18世紀末以降の遺構とみられる。

F区SK31～34 SK31は143×174cmの隅丸長方形土坑で深さは5cmと浅い。SK32は78×90cmの梢円形ピットで深さは16cm。SK33は67×90cmの梢円形ピットで深さは52cm。SK34は径70cmの円形ピットが2基接した形態をとる。深さは68cm。SK33・34は柱穴の可能性もある。

F区SK35 115×215cm、深さ28cmの隅丸長方形土坑で底部に径65cmの浅いピットを持つ。

F区SK36～SK38 SK36は短辺160cm、長辺190cmの不整形土坑で深さは24～37cmを測る。SK37は230×

150cm以上の方形又は長方形土坑とみられ、深さは35cm。西部は調査区外となる。SK38は200×190cm以上の方形又は長方形土坑とみられ、深さは20cm。西部は調査区外となる。SK36・38はSK37に切られている。

F 区SK39～44 SK39は75×85cmの楕円形ピットで深さは15cm、SK40は135×169cmの長方形土坑で深さは39cm。共に底部で礫が検出された。SK41は径35cm、深さ25cmの円形ピットである。SK42は120×160cmの略長方形土坑でSK22を切っている。深さは52cm。SK43は径34cm、深さ18cm、SK44は径28cm、深さ15cmの円形ピットである。

F 区SK45 径300～320cmの円形土坑で深さは117cmを測る。SK46、SD6・7を切っている。土層断面に枠の痕跡が残っており、SK30との規模の類似から肥溜めの可能性を考えている。18世紀以降。

F 区SK46 580×300cm以上の大型土坑で、東方は調査区外、北西はSK45に切られる。深さは40cm。

F 区SK47 465×190cm以上の方形又は長方形土坑とみられ、深さは27cm。西側は調査区外。

F 区SK48・SK49 SK48は245×200cm以上の方形又は長方形土坑とみられ、深さは11cm。SK49は110×280cm以上の溝状遺構で深さ15cm。共にSD 9 内側に平行する矩形の落ち込み中に位置するため、SD 9と同時期の遺構であろう。

F 区SK50 290×285cm以上の不整形土坑でSD10に切られる。深さは33cm。

F 区SK51・SK52 SK51は45×385cm以上の不整形土坑で深さは34cm、北西部は土坑に切られる。16世紀前半の遺構か。SK52はSK51内で検出された径約105cmの略円形土坑で深さは80cm。SK51との切り合いの有無は不明である。

F 区SK53・SK54 SK53は190×85cm以上の楕円形土坑で深さは55cm。SK54は190×85cm以上の楕円形土坑で深さは58cm。形態・法量とも類似し、共に東側は調査区外に延びる。16世紀代の遺構か。

F 区SK55 径85cmの円形土坑で礫が検出されている。深さは不明。

F 区SK56 210×160cm以上の隅丸方形又は長方形土坑とみられる。深さは37cm。東側は調査区外。

F 区SK59～63 SK59は95×130cmの長方形土坑で深さは不明。SK60は径50cmの段掘りのピットで深さは37cm。SK61は110×175cmの略長方形土坑で深さは26cm、底部には深さ30cmのピットがある。SK62は83×135cmの楕円形土坑で深さは10cm、SK63は180×240cmの不整形土坑で深さは15cmを測る。

F 区SK65 103×130cmの楕円形土坑で深さは60cm。底部に礫が検出された。

F 区SK66 95×128cmの長方形土坑で深さは21cm。

F 区SD1 幅205～270cm、深さ80～90cmの南東—北西方向の直線的な溝で、南壁の一部に狭いテラス状の面を持つ。底面のレベルは東西端であまり変わりないが、最下層にやや粗い砂質土が堆積していたため多少の水流があったのかもしれない。E区から続く噴砂が東半部の覆土を割っており、土層断面でも確認されている。本溝を境として以南は遺構密集地となっているため居住域を区画する溝とみられる。埋没は16世紀末～17世紀初頭か。

F 区SD2 幅40cm、長さ465cm、深さ7cmの浅い溝で、これに平行する同規模の溝が他にもあるため耕作溝かもしれない。

F 区SD3 幅30～77cm、深さ27～34cm、北東—南西方向の溝で、南西端はSK10B付近で終わっているが、新旧関係は不明である。北東端は調査区外へと伸びる。

F 区SD4 幅35～53cm、深さ24cmで、すぐ南側を走る類似の溝に切られている。西部は調査区外に続く。板碑などが出土した。

F 区SD5 東西方向に併走する2本の溝を合わせてSD5と呼称されている。北側の溝は幅68～85cm、深さ22cmで東側はSK29・30に切られている。南側の溝は幅67～90cm、深さ13cm。両溝共に西側は調査区外へ延びる。

F区SD6 幅100cm、深さ26cmの東西方向の溝である。西側はSK45に切られ、東側は調査区外へ続く。

F区SD7・SD7'（新） 幅140～160cm、深さ14～23cmの南北溝SD7の東壁に沿ってSD7'（新）が掘削されている。南北端は不明瞭である。共に15世紀代の遺構とみられる。

F区SD8～10 SD8は幅62～85cm、深さ50～69cmの南北溝で、北端で東西方向に屈曲し、調査区外へ延びる。SD7より新しい。SD9は幅72～100cm、深さ31～49cmの南北溝で、南端で東西方向に屈曲してSD10となり、幅を50cm前後に減じて調査区外へ延びる。SD8とSD9はやや方向がずれるため切り合い関係を有するのであろう。切り合っているとすれば、出土遺物からSD8が17世紀後半以降、SD9が18世紀以降で後者が新しい。SK47～49を開むような配置からすると、これらと関連する遺構の可能性が高い。

F区SE1 石組み井戸で、掘り方は径200cm、井側の内径は上部で約80cm、下部で60cmとややすばまっている。主に直径15cm程度の川原石を組んでいるが、石臼や五輪塔地輪なども使用されている。内部には五輪塔火輪や宝瓶印塔笠が投棄されていた。石側は210cmの高さで組まれており、その下部には径55cm、高さ約90cmの桶が埋設されていた。検出面から底面までの深さは295cmである。

F区SF1 SD5とSD6に挟まれた箇所に礫が散らばっており、その部分を指すのであろうか。だとすれば時期は16世紀代とみられる。

F-1区 南部で噴砂跡が検出された。

G区 検出された遺構は溝が主であるが、遺物の出土した遺構はない。噴砂跡が多く検出された。

H区SD1 幅60～70cm、深さ19cm。17世紀代の遺構である。

H区SD2 幅170cm、深さ30cm。南壁に噴砂がかかっているが、覆土を貫いていたかどうかは不明である。18世紀代の遺構とみられる。

I区SK1 150×250cmの段掘りの不整長円形土坑で深さは26cm。

I区SK2 190×300cmの不整形土坑で深さは23cm。近世遺構である。

I区SK3～6 4基の土坑が重なっており、SK3は170×200cmで深さ72cm、SK4は100×195cm又は100×280cmの段掘り、深さ62cm、SK5は径76cmの円形ピットで深さ55cm、SK6は110×160cm、深さ43cmである。土層図から切り合いは窓えず、最終埋没は同時期とみられる。18世紀前半の埋没。

I区SK7・SK8 SK7は120×205cmの長円形土坑で、深さは71cm。SK8は312×285cm以上の方形土坑とみられ、深さは54cm。SK7に切られている。共に近世遺構である。

I区SK9・SK10 SK9は170×105cm以上の円形土坑で深さ70cm。SK10は115×155cmの長方形土坑で深さは73cm。土層図からするとSK9がSK10を切っているのだろうか。

I区SK11～14 SK11は155×180cmの略円形土坑で深さは43cm。覆土はほぼ単層。SK12は130×310cmの長方形土坑で深さは53cm。18世紀後半以降。SK13は200×220cmの方形土坑で深さは56cm。18世紀代。SK14は113×250cmの長円形土坑で両端部にピット状の落ち込みがある。深さは66cm。

I区SK15 440×180cm以上の長方形土坑で、深さは73cm。噴砂に切られている。近世遺構である。

I区SK16・16' 155×355cmの長方形土坑にSK16・16'との記載があり、2基の土坑が重なっているとみられる。SK14より新しい。

I区SK17 185×210cmの方形土坑で深さは52cm。18世紀代の遺構である。

I区SK18・18' 180×225cmの隅丸方形土坑で西側に2箇所落ち込みがあり、北側をSK18、南側をSK18'と呼称している。深さはそれぞれ87cm、88cmである。18世紀代の遺構である。

I区SK19～SK25 SK19は115×175cm以上の長方形土坑とみられ、深さは70cmでSK15に切られる。SK20は150×105cmの方形状で深さは55cm、西側は調査区外。SK21は100×170cm以上の長円形で深さは24cm、SK20に切られる。SK22は195×230cmの長円形土坑で深さは112cm、段掘りをなす。SK23は260×90cm以

上の円形土坑とみられ、深さは42cm。東側は調査区外。SK24は180×210cmの隅丸方形土坑で深さは83cm。SK25は220×200cm以上の段掘りの隅丸方形状土坑で深さは79cm。

噴砂 E区からI区にかけて検出された。長いものは数十メートル、太いものは幅約30cmのものが検出され、時期の確定できる遺構ではE区SD1やF区SD1などが埋没後に噴砂に切られている。調査所見では江戸中期までの地層を切り、江戸末期以降の堆積土に覆われているとのことで、寛政11年(1799)の金沢地震に比定されている。

第2節 小 結

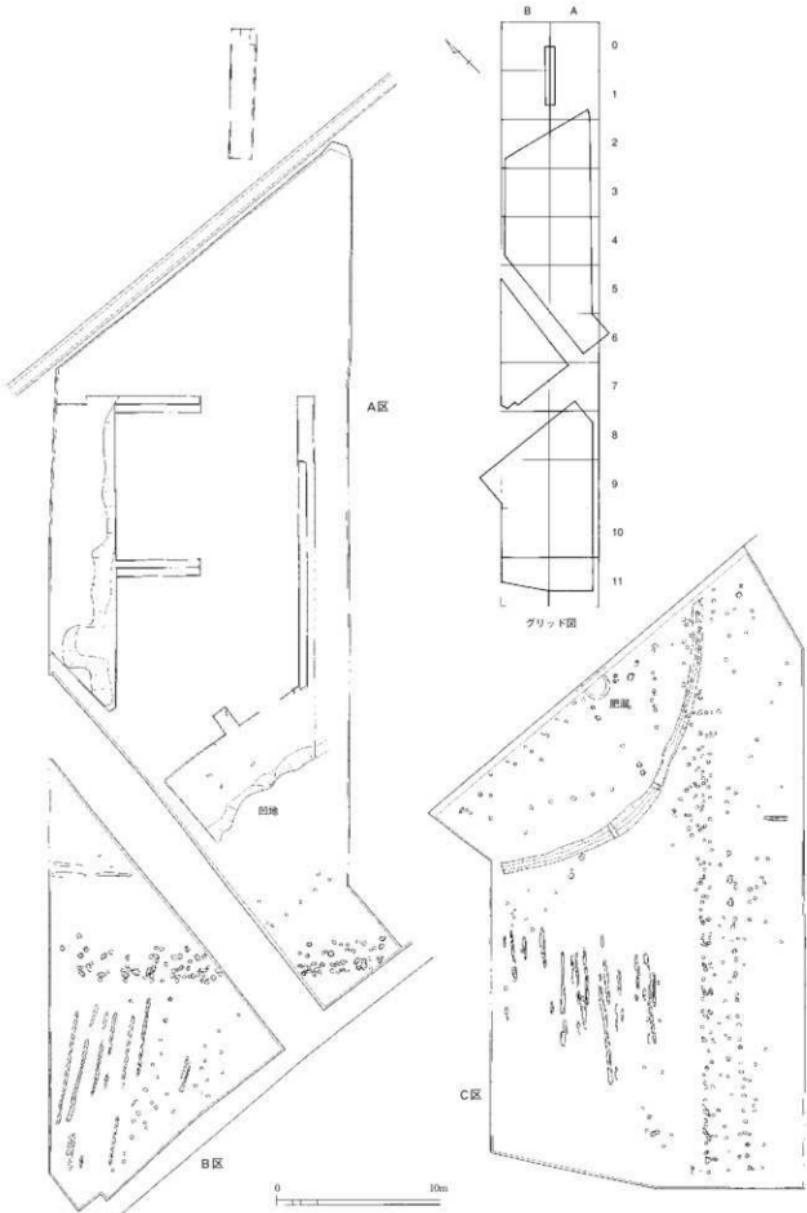
A～E区は溝等から多くの遺物が出土したものの土坑は殆どなく、中世では集落の縁辺部、近世では耕作域と判断される。

F区は溝、土坑、竪穴状遺構、ピット、井戸で構成される。掘立柱建物は復元し得なかったが、ピットが希薄な箇所に土坑や竪穴状遺構が検出されている状況から、主屋の周囲に作業場等が設けられた屋敷地の一角とみられる。特にSD1からSK19・20の間は遺構の長辺がSD1に対して平行或いは直角に近い方向性を持っており、16世紀～17世紀初頭頃の一つの屋敷地を構成している可能性が高い。また、SK19・20からSK29の間もピットのあり方や遺構の方向性から同時期の屋敷地と判断される。SD1の掘削年代は不明であるが、埋没はこれらの屋敷地と連動するとみられる。出土遺物は14～15世紀の製品が非常に多いにも関わらず、該期の遺構は多くはなく、その様相は詳らかでない。16世紀に入ってから遺構が増加し、集落の形成が確認できるが、17世紀中葉から後半の遺物は非常に少ないため、17世紀中葉頃には居住域ではなくくなっている可能性がある。間隙を挟むか否かは不明ながら、SD8～10が屋敷地を囲った溝とすれば集落の存続はやや南側に場所を移動して18世紀前半頃までは想定できる。肥溜めが掘削される18世紀後半以降は他に遺構が確認されないことから耕作域に変容したのであろう。陶磁器とともに中世の石塔類が多く出土しているが、いずれも転用や廃棄の状態であり調査区内に墓と想定し得る遺構がないため、墓は別地点に存在したと考える。石塔類が出土した遺構の多くからは石鉢や石臼などの石製品も出土しているため、手近にあった石材として持ち込まれた可能性が高い。それらの遺構やその周辺からは鉄鋤や羽口等の鍛冶関連遺物も出土していることから、屋敷地の一角が鍛冶作業場として利用されたと想定される。

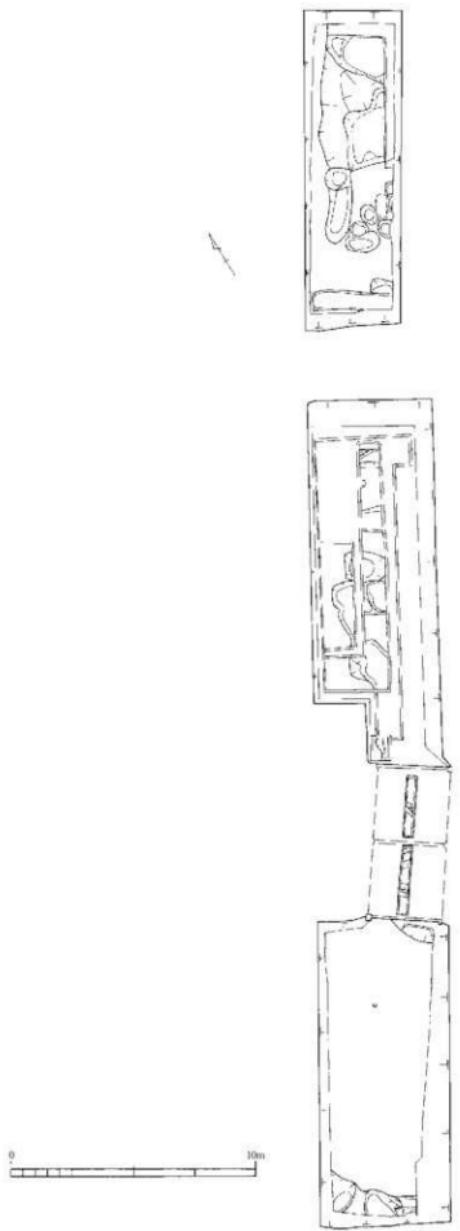
F・I・G・H区は遺物が出土した遺構は希薄である。噴砂が確認された。

I区は比較的深い土坑が密集しているが、その性格は不明である。さほど切り合いで無く掘削されており、墓坑の可能性もあるものの、覆土の状況や出土遺物からは否定的である。粘土探掘土坑の類であろうか。柱穴等は見られないため、仮に居住域としても縁辺部であることは疑い得ない。中世遺物のみを出土する土坑もあるが、近世遺物が出土した遺構も出土遺物の大半は中世遺物である。そのため、本調査区の遺構は基本的に大半が近世に降ると推定しているが、中世遺物の出土量をみると近接地に中世集落の存在が示唆される。

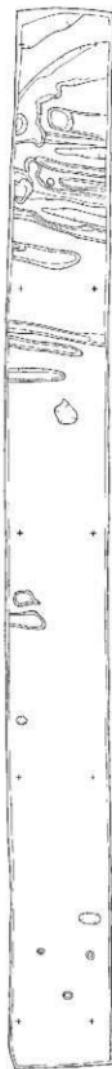
なお、調査区全体を通して確実に古代以前に比定できる遺構は記録資料からは抽出できなかった。ただし、第1節で報告したとおり、E区SK1は古墳時代の竪穴建物である可能性がある。また、F区SK10やSK28のように中世遺物が出土しているものの比較的まとまった古墳時代の遺物が出土した遺構があり、これらについては古墳時代の遺構と中世の遺構が切り合っている可能性を想定し得る。昭和42年の調査地では上層で中世遺物が出土した旨の記述があり(福田弘光 1970「資料編 遺跡と考古資料」「大徳郷土史」大徳公民館 948頁)、古墳時代の遺物が定量出土しているE・F区では部分的に上下二面の遺構面が存在していた可能性もあるだろう。当地は旧安原川右岸際、旧犀川左岸に位置し、それら河川の流路に沿って形成された微高地上に古墳時代の集落が点在していたとみられる。



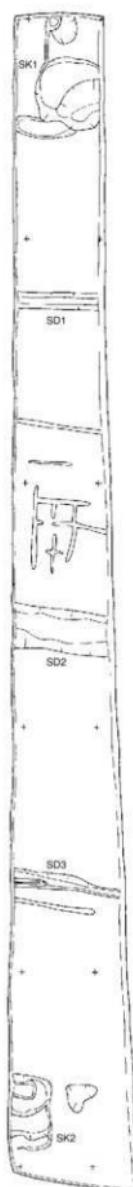
第3図 A～C区遺構全体図 ($S=1/300$)



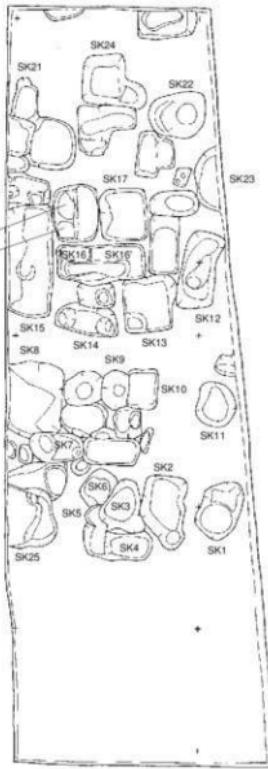
第4図 F-1区道構全体図 (S=1/200)



G区



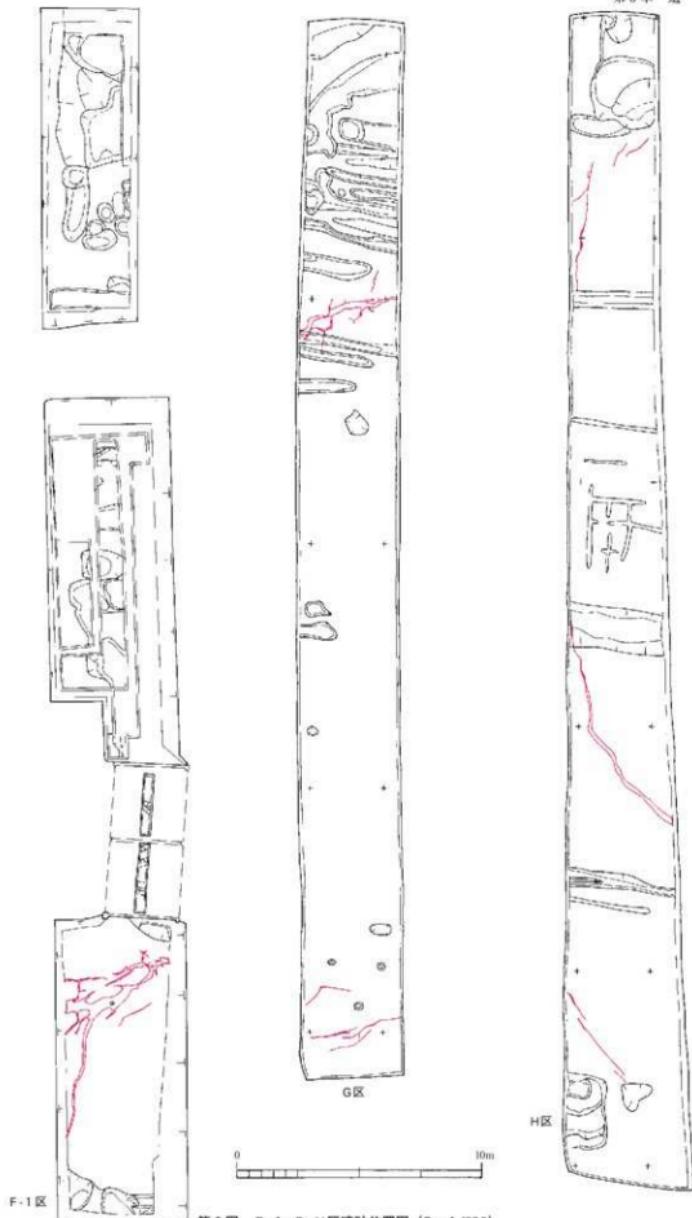
H区



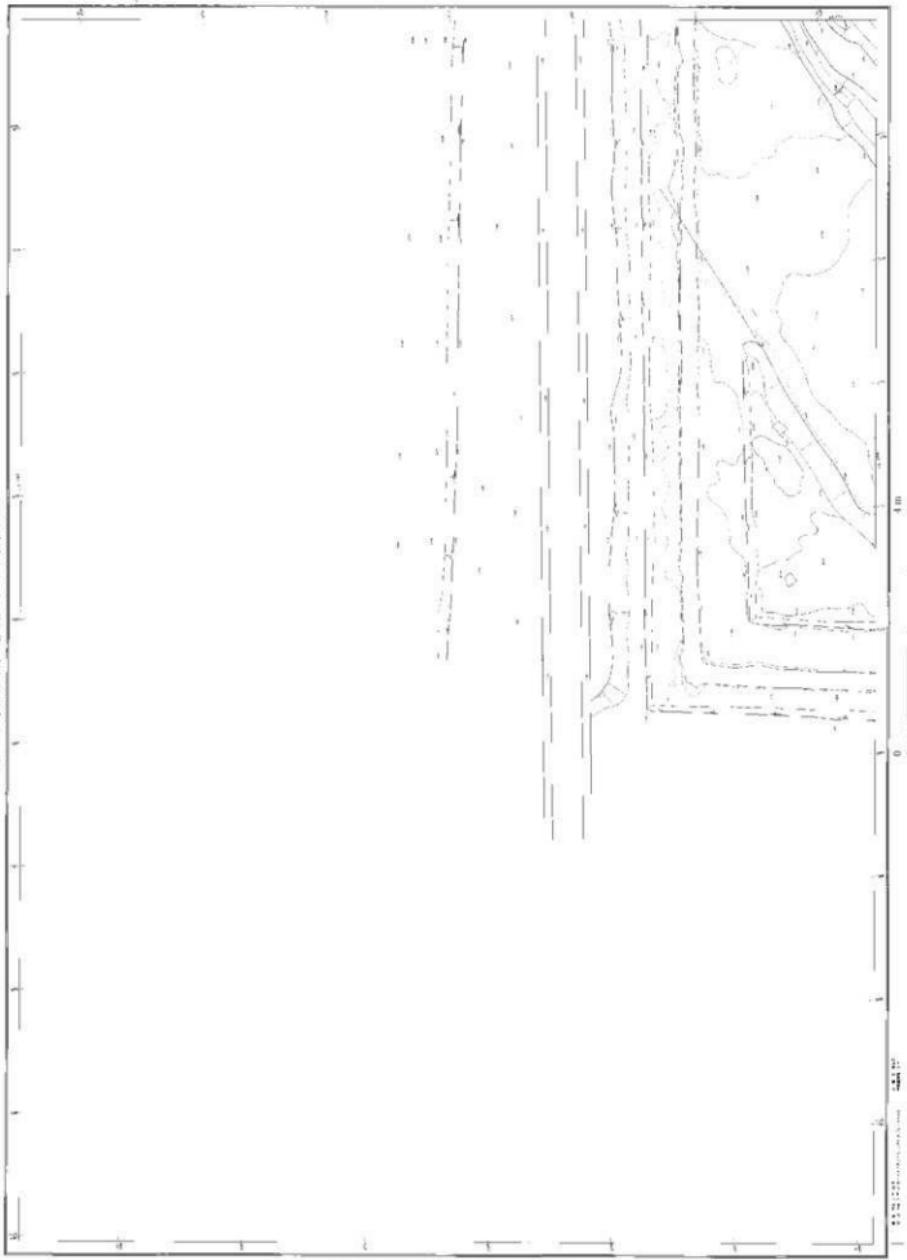
I区



第5図 G～I区遺構全体図 (S=1/200)

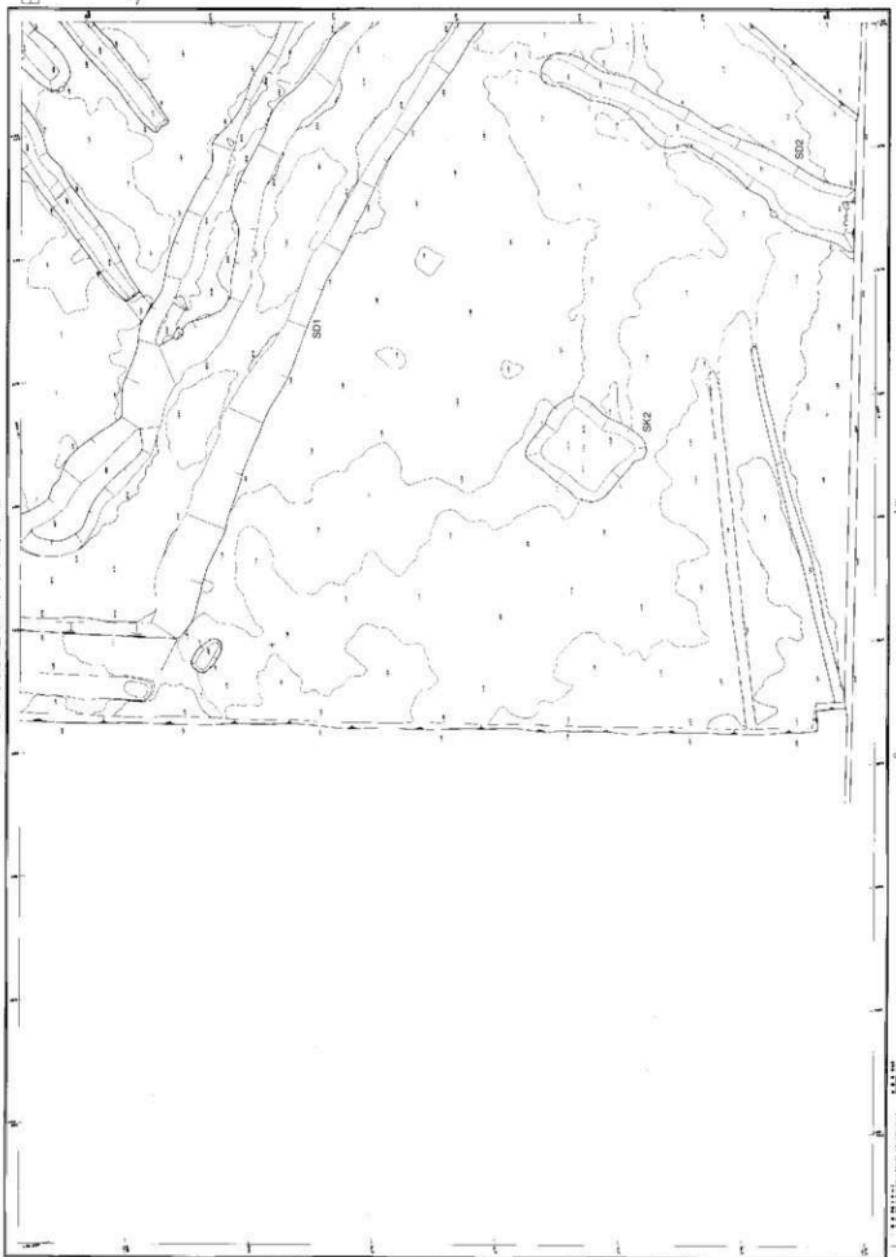
第6図 F-1・G・H区噴砂位置図 ($S = 1/200$)

普正寺高畠遺跡平面図 No.1



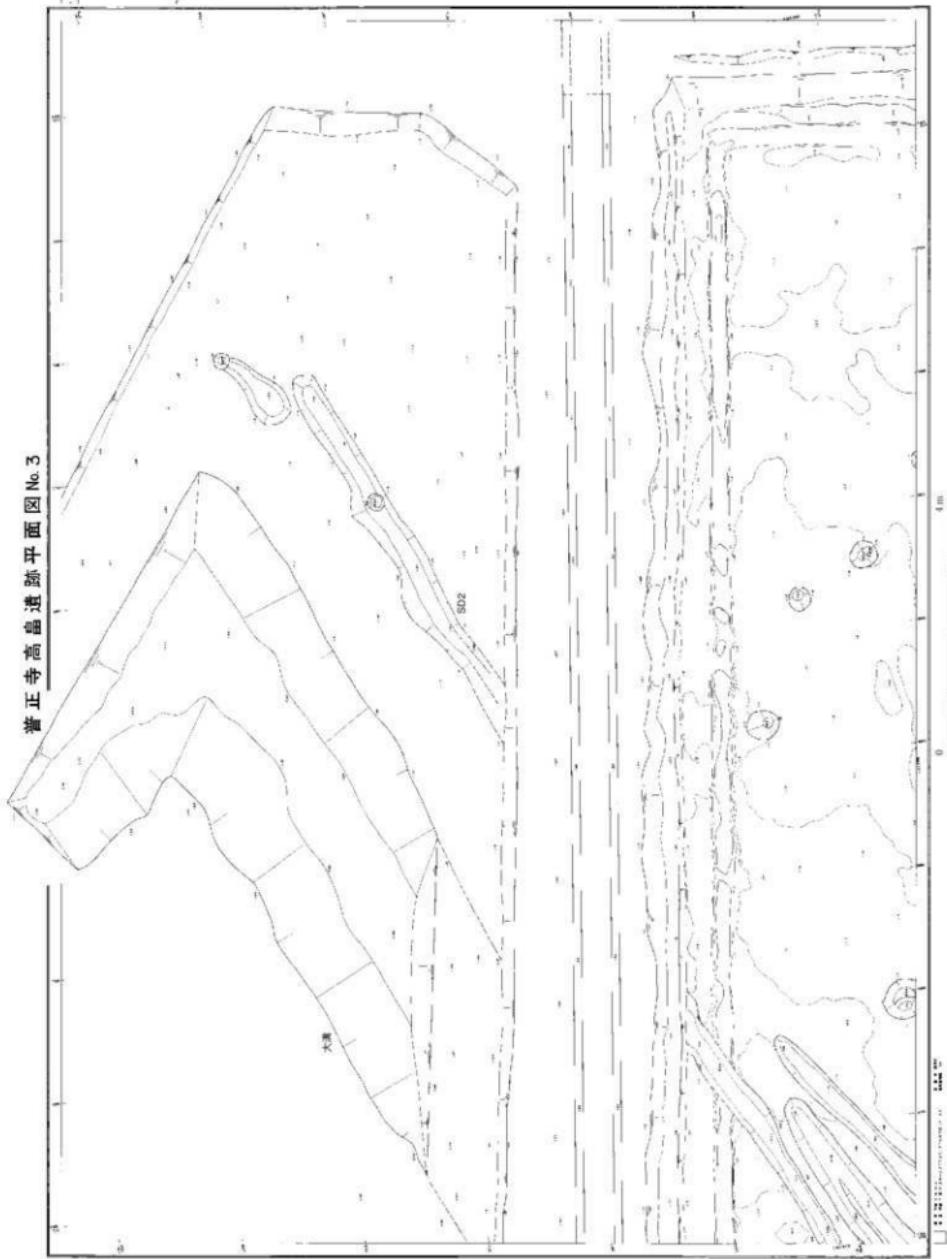
第7図 D～F区平面図1 (S=1/80)

普正寺高畠道路平面図 No.2



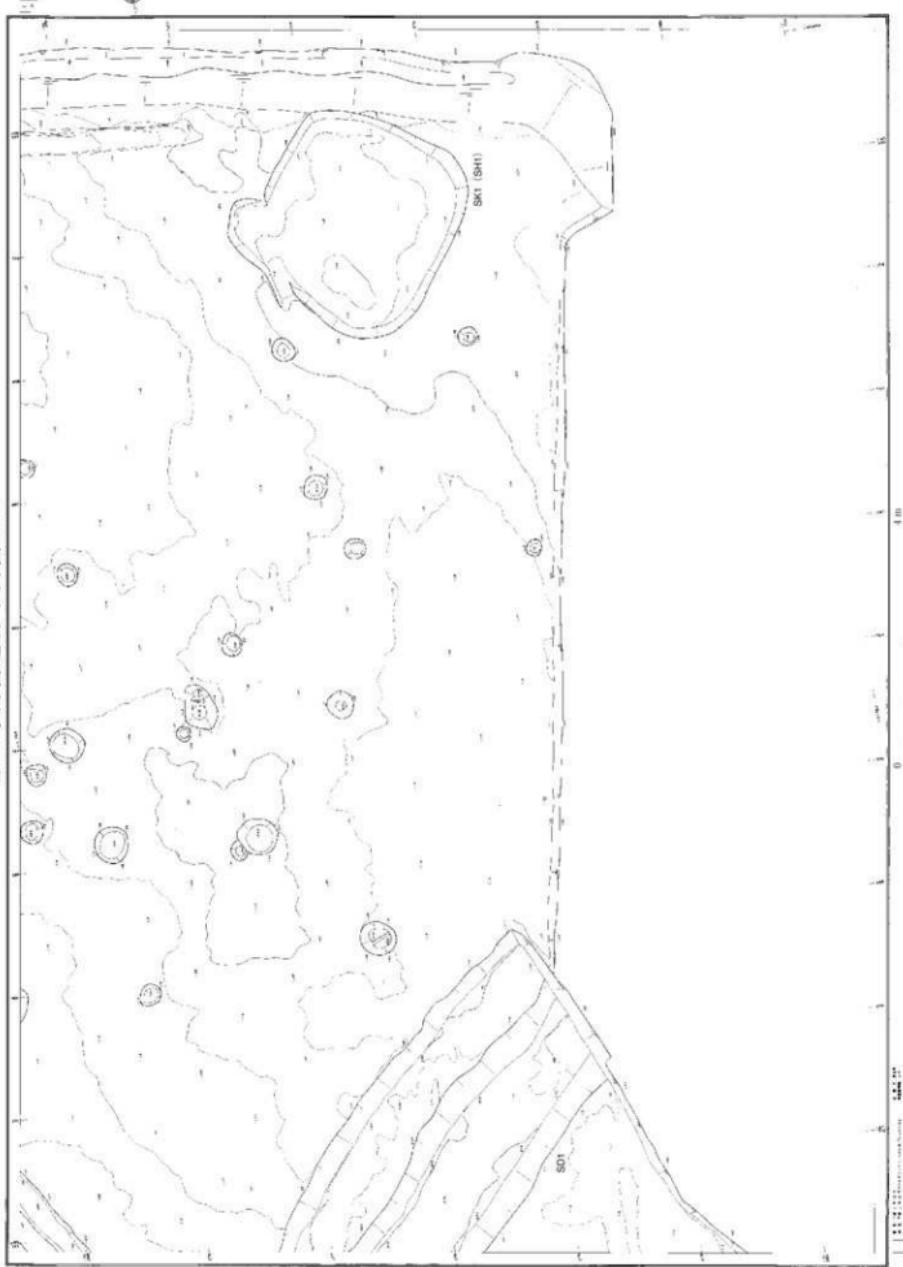
第8図 D~F区平面図2 (S=1/80)

普正寺高畠遺跡平面図 No.3



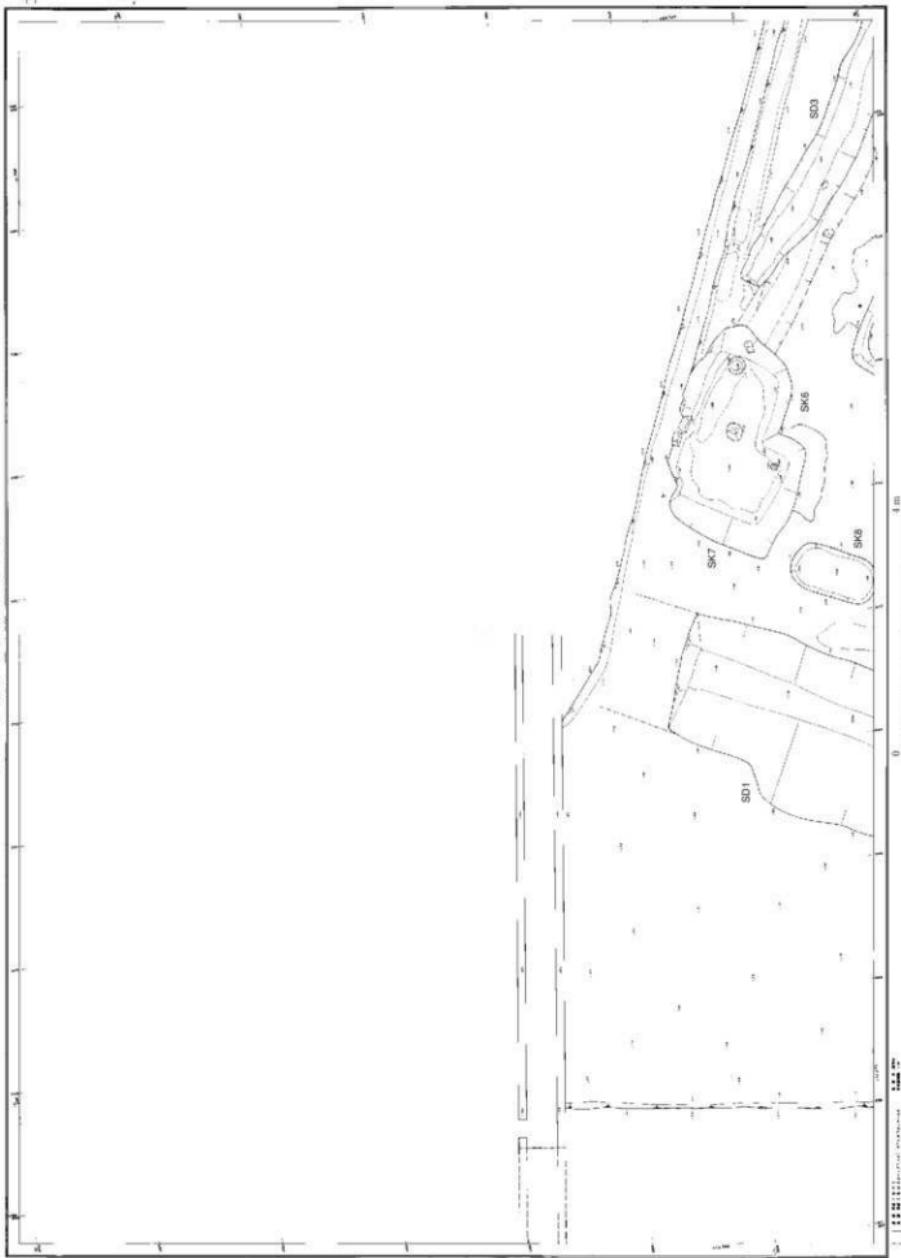
第9図 D～F区平面図3 (S=1/80)

普正寺高畠遺跡平面図 No.4



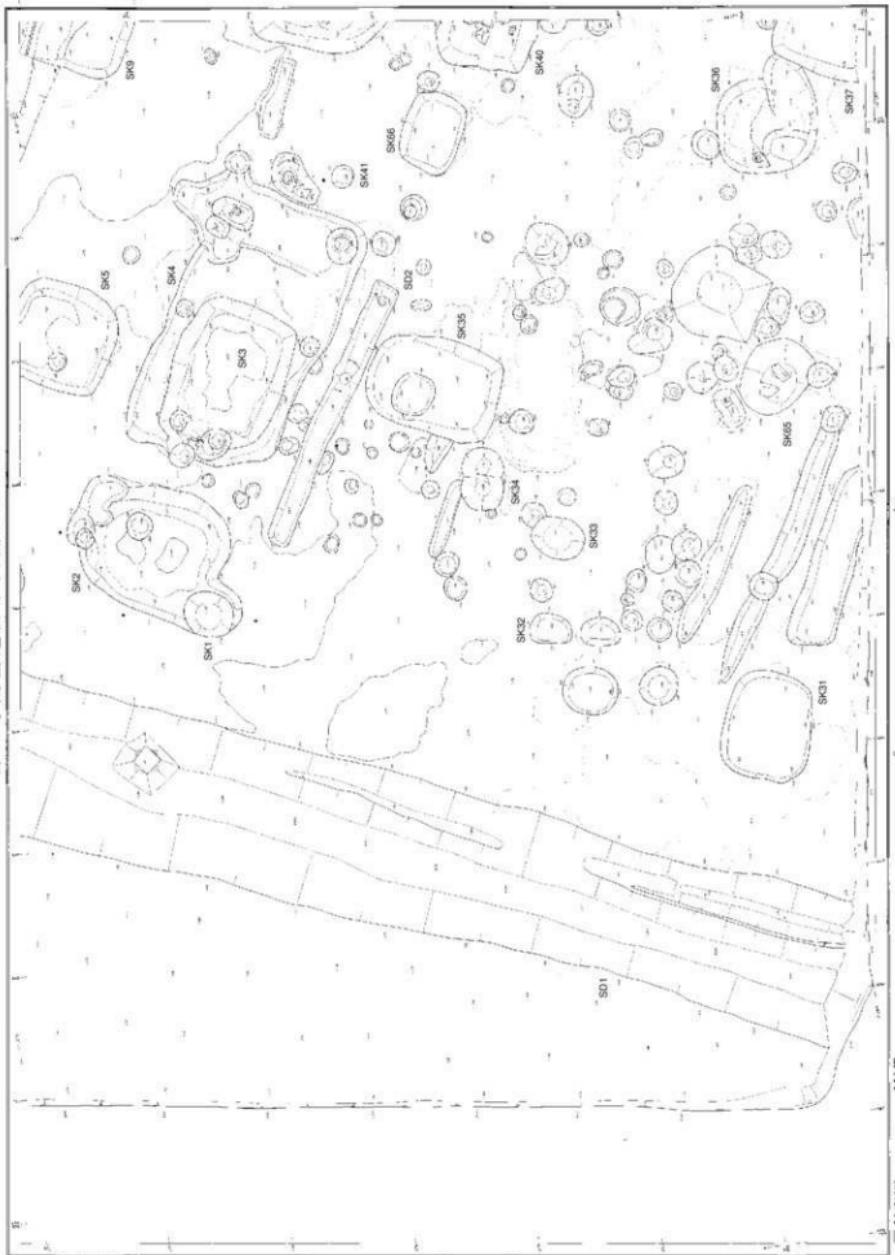
第10図 D~F区平面図4 (S=1/80)

普正寺高麗造跡平面図 No.5



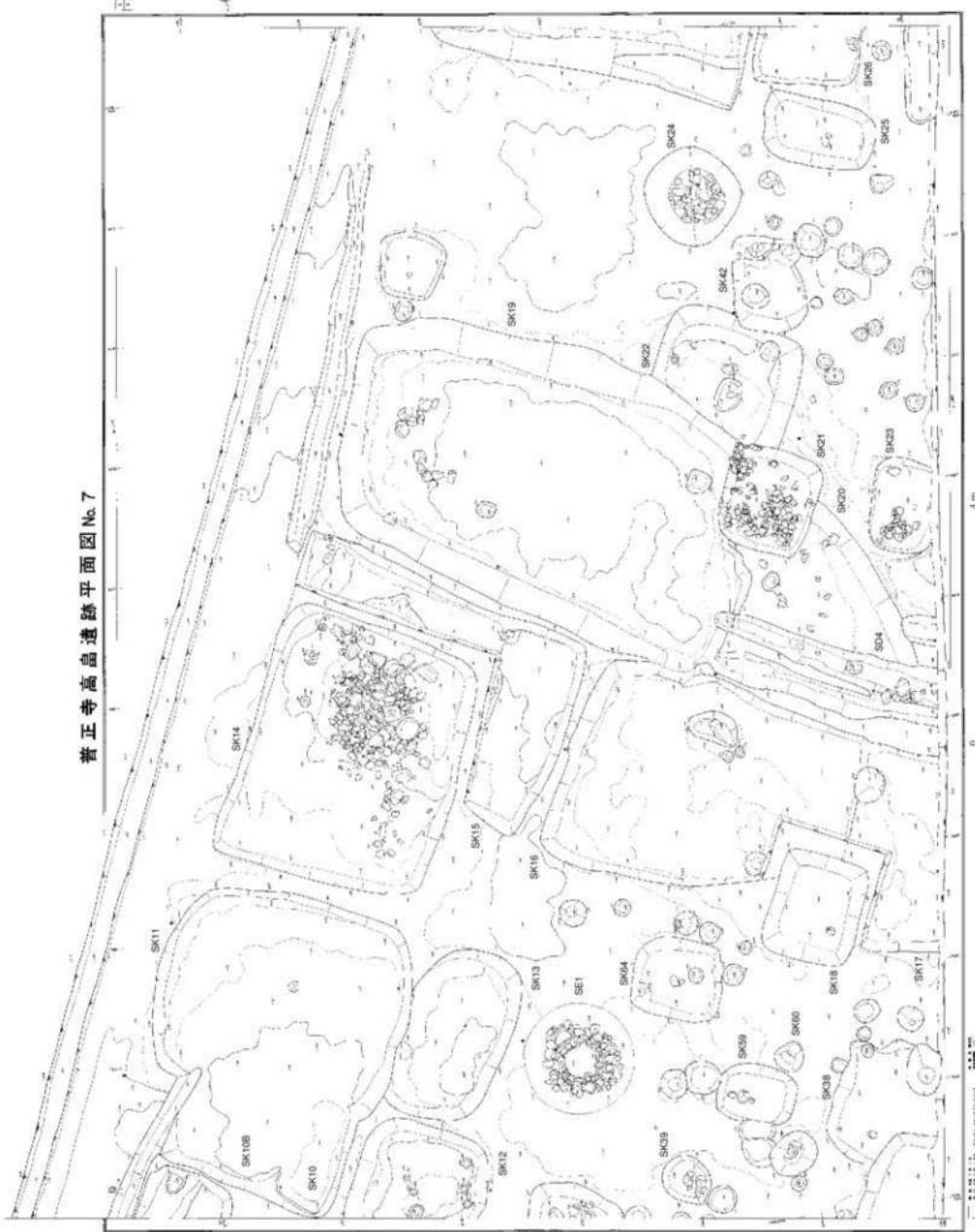
第11図 D～F区平面図 5 (S=1/80)

普正寺高皇遺跡平面図 No. 6



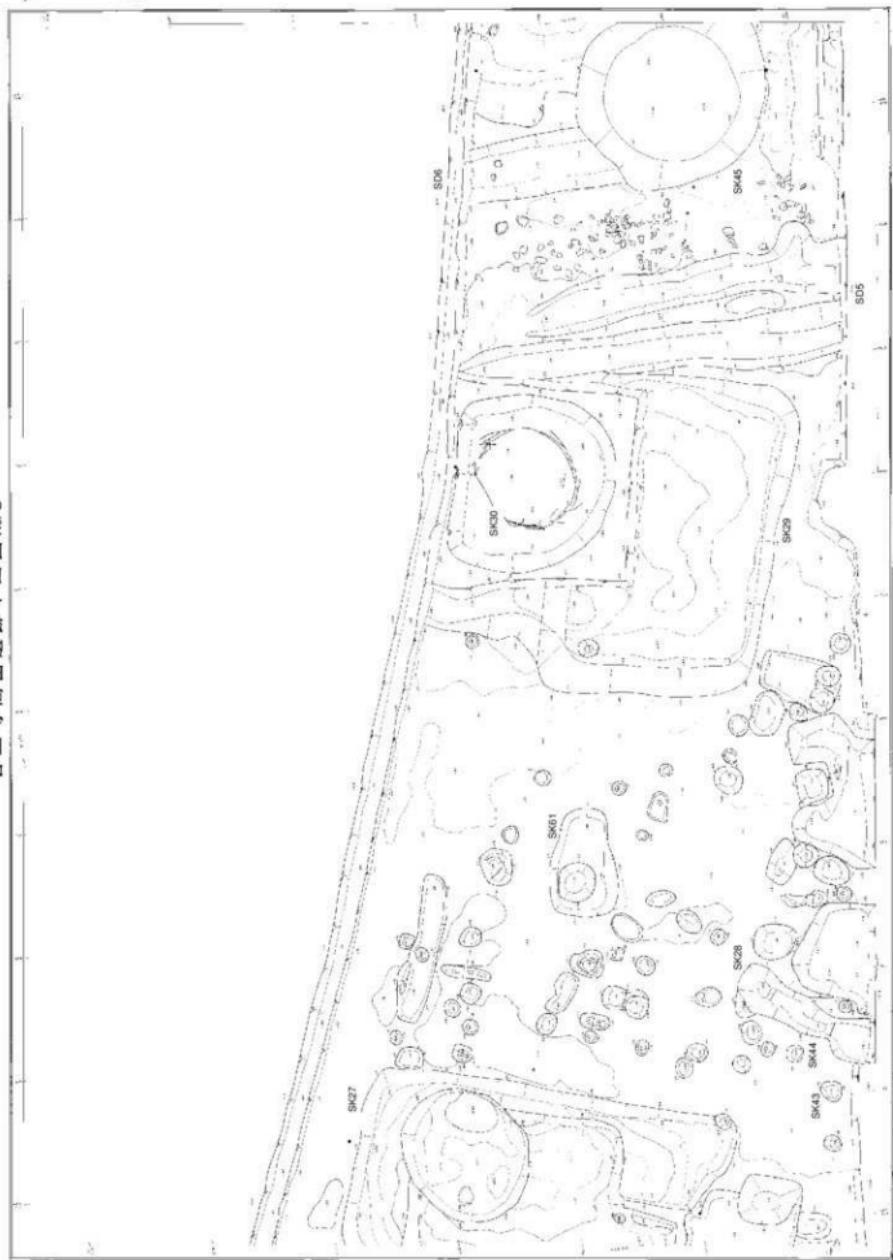
第12図 D～F区平面図6 (S=1/80)

普正寺高昌遺跡平面図 No.7



第13図 D~F区平面図7 (S=1/80)

普正寺高昌遺跡平面図 No. 8



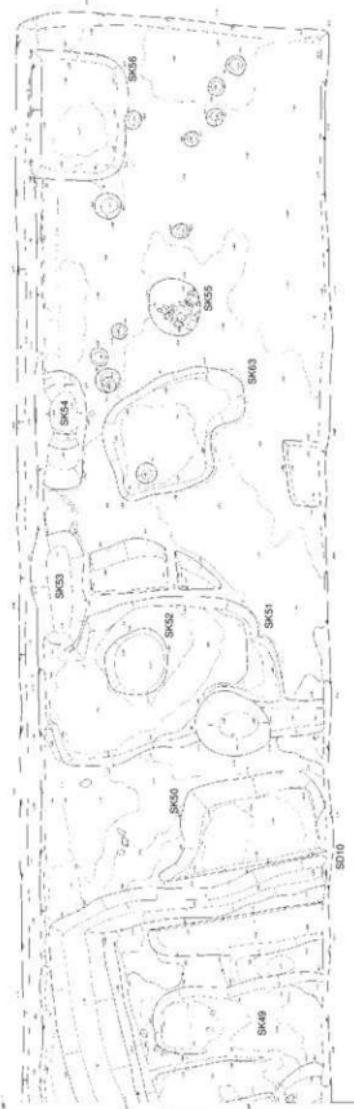
第14図 D～F区平面図 8 (S=1/80)

普正寺高畠遺跡平面図 No.9

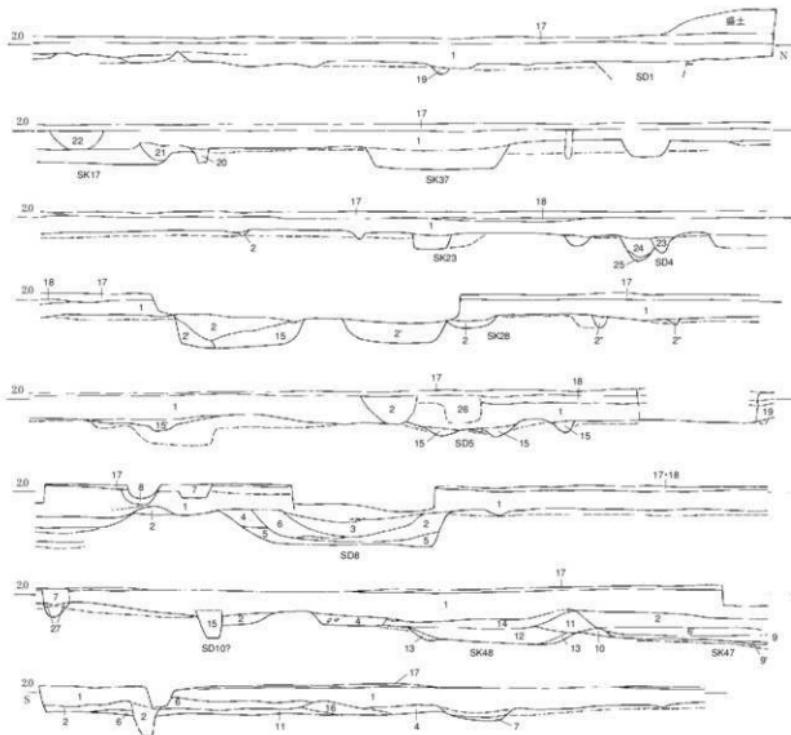


第15図 D～F区平面図 9 (S=1/80)

普正寺高晶遺跡平面図 No. 10



第16図 D~F区平面図10 (S=1/80)

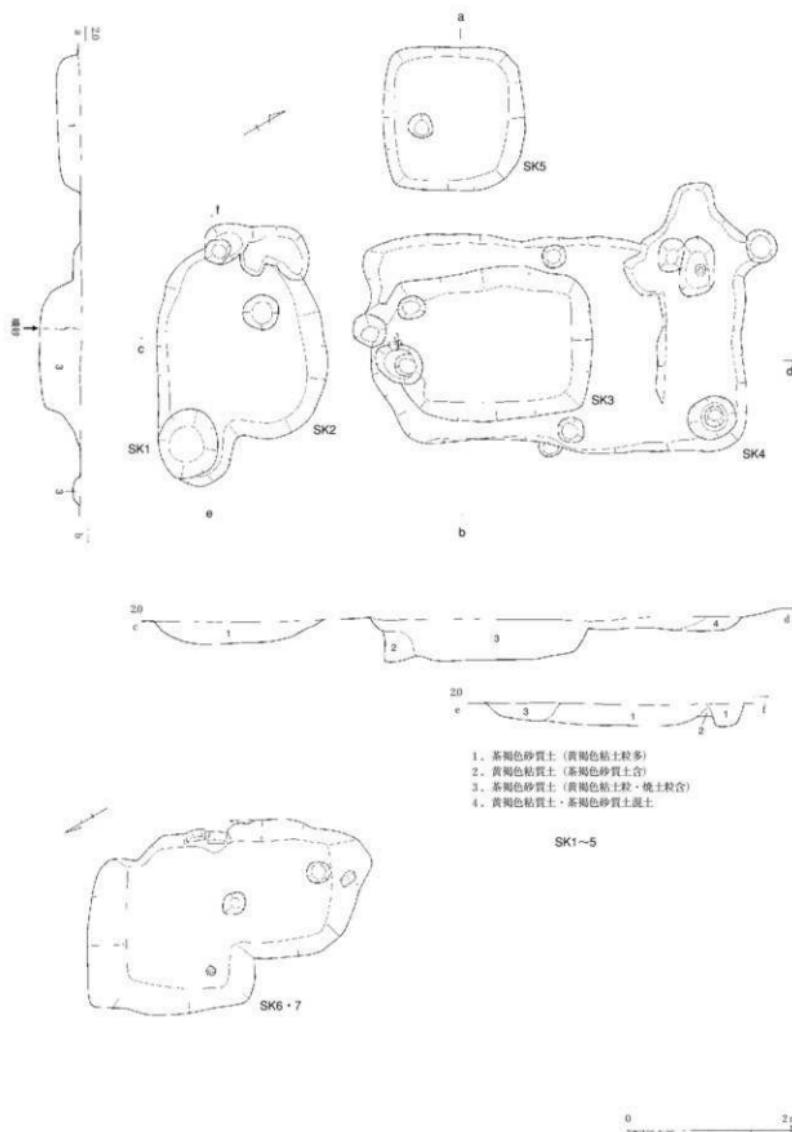


1. 基褐色砂質土（やや粘り）
 2. 基褐色砂質土（黄色粘土鉱合）
 2'. 基褐色砂質土（黄色粘土鉱多、やや粘り）
 2". 基褐色砂質土（黄色粘土鉱少、やや粘り）
 3. 基褐色砂質土（黄色粘土鉱合、灰色混じり）
 4. 灰褐色砂質土（黄色粘土鉱合）
 5. 灰褐色砂質土（黄色粘土鉱多）
 6. 黄色粘質土（灰色鉱混じり）
 6'. 黄色粘質土（灰色鉱混じり、鉱分合）
 7. 灰褐色砂質土
 8. 灰茶褐色砂質土（やや粘り）
 9. 淡灰褐色粘質土（弱粘）
 9'. 淡灰褐色粘質土（弱粘、鉱分合）
 10. 淡灰褐色砂質土
 11. 灰色砂質土・黄色砂質土混土
 12. 灰色砂質土・黄色粘質土混土
13. 黄褐色砂質土（鉱分合）
 14. 基褐色砂質土
 15. 基褐色砂質土
 15'. 基褐色砂質土（鉱分合）
 16. 灰褐色砂質土・淡灰褐色砂質土（4層+10層）
 17. 現耕作土
 18. 現木土
 19. 淡茶褐色
 20. 淡茶褐色粘質土
 21. 黄褐色土塊と基灰褐色の現層
 22. 2層と砂の現層
 23. 淡茶褐色粘質土
 24. やや弱い淡灰褐色粘土
 25. 淡青灰色粘土
 26. 淡茶褐色砂質土
 27. 黄褐色土塊

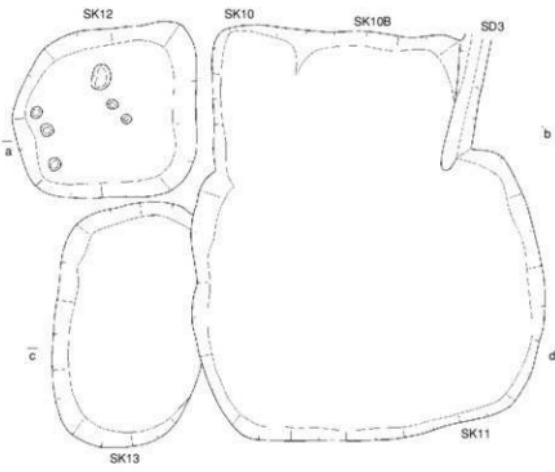
F区西壁

0 2m

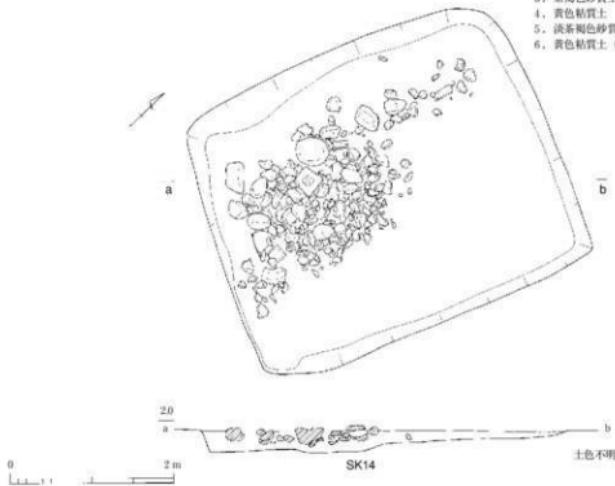
第17図 F区基本土層図 (S=1/80)



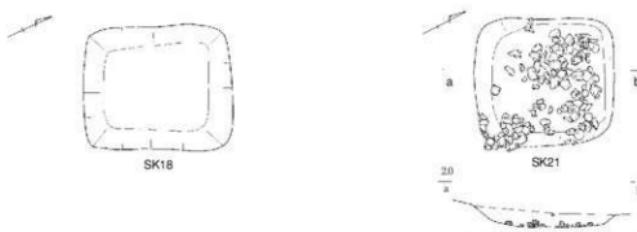
第18図 F区造構実測図1 (S=1/60)



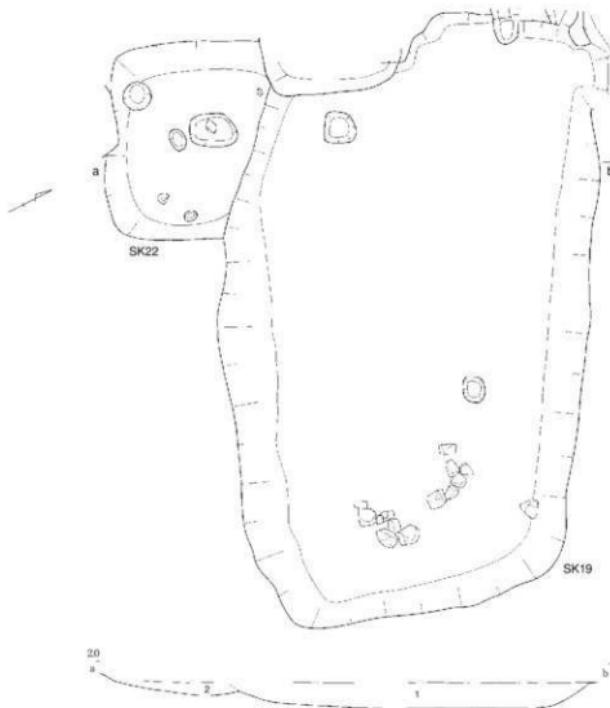
1. 基褐色砂質土
2. 黃褐色粘質土、茶褐色砂質土混土
3. 基褐色砂質土（黃色粘土粒含）
4. 黃色粘質土
5. 淡茶褐色砂質土（黃色粘土粒少）
6. 黃色粘質土（茶褐色砂質土含）



第19図 F区遺構実測図2 (S=1/60)

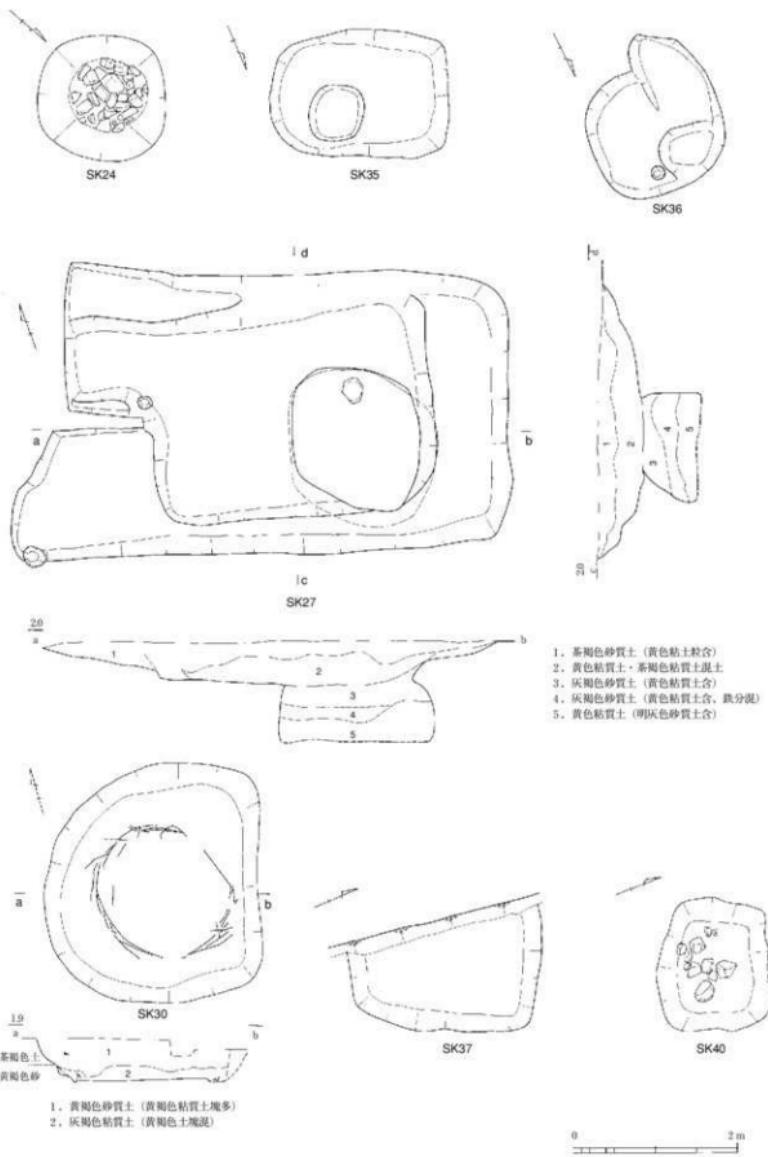


1. 茶褐色砂質土（底面に炭縫紋と块状のもの含）

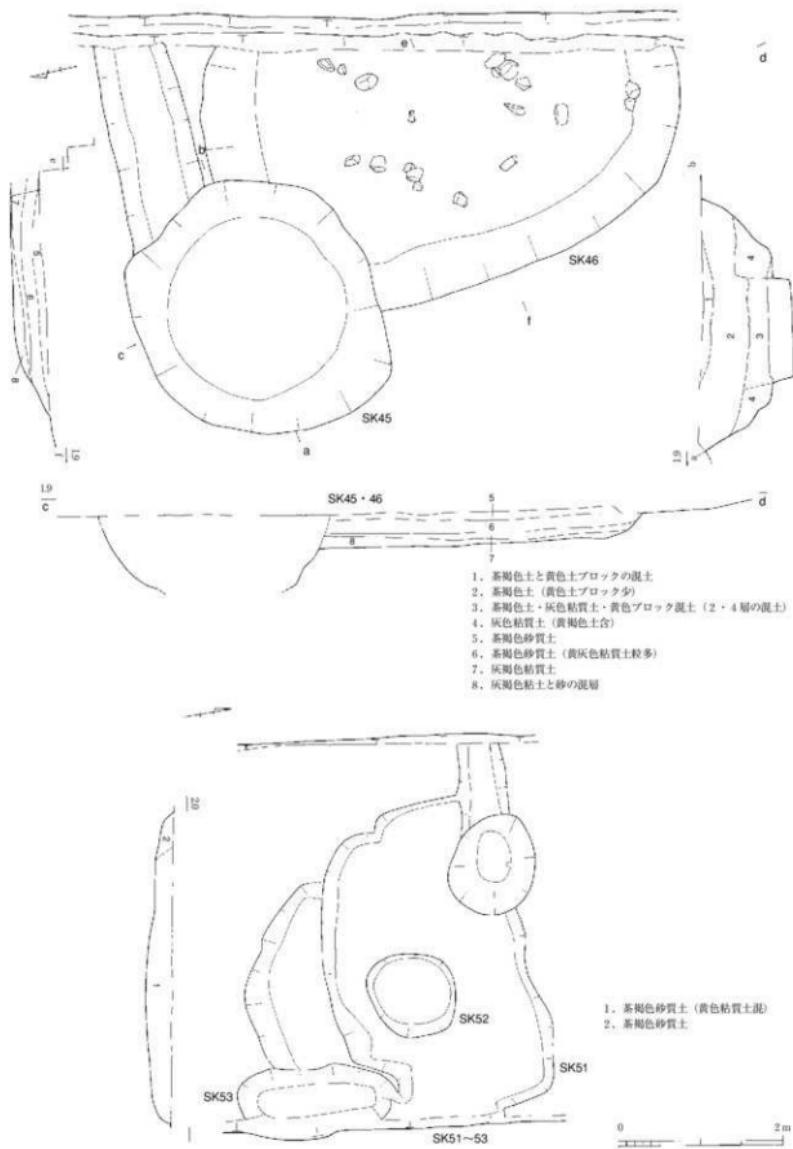
1. 茶褐色砂質土（黄色粘土粒合）
2. 淡茶褐色砂質土（黄色粘土粒少）

SK19・22

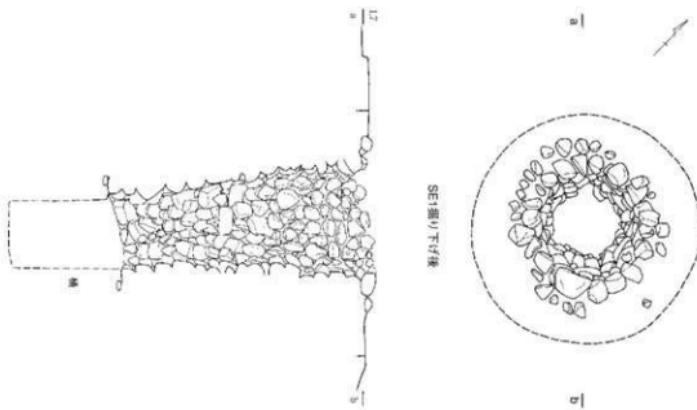
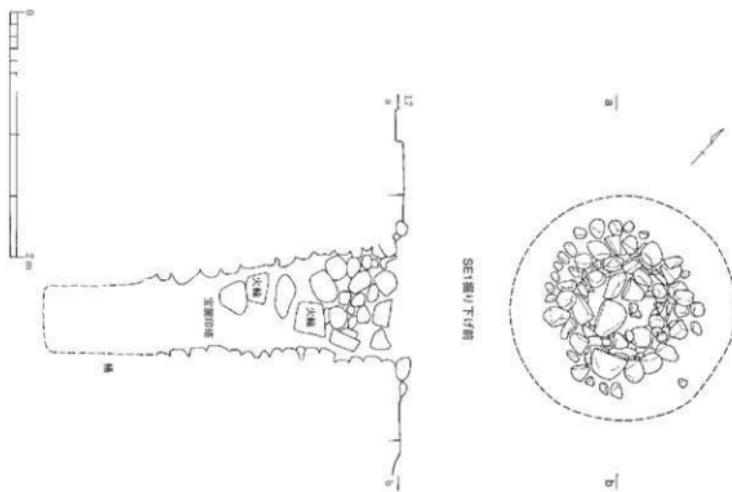
第20図 F区造構実測図3 (S=1/60)



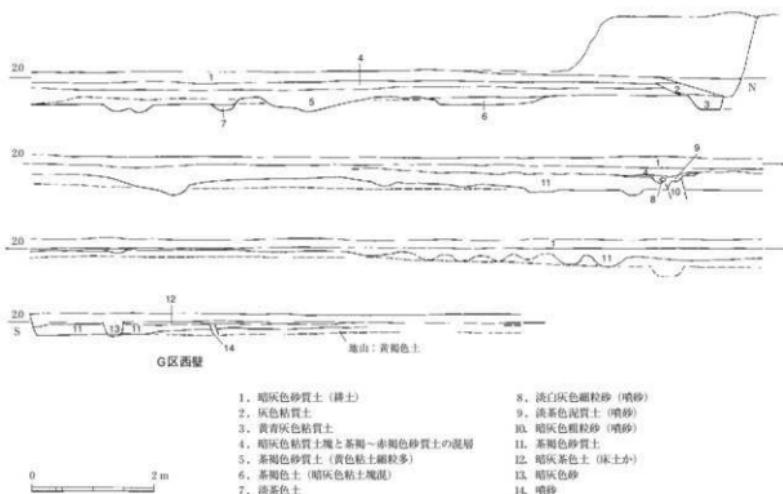
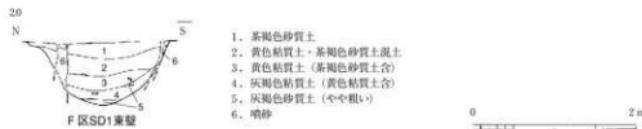
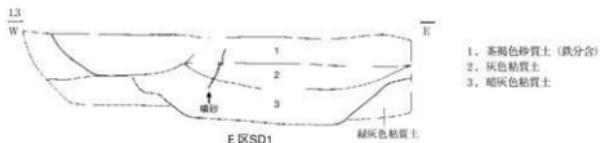
第21図 F区遺構実測図4 (S=1/60)

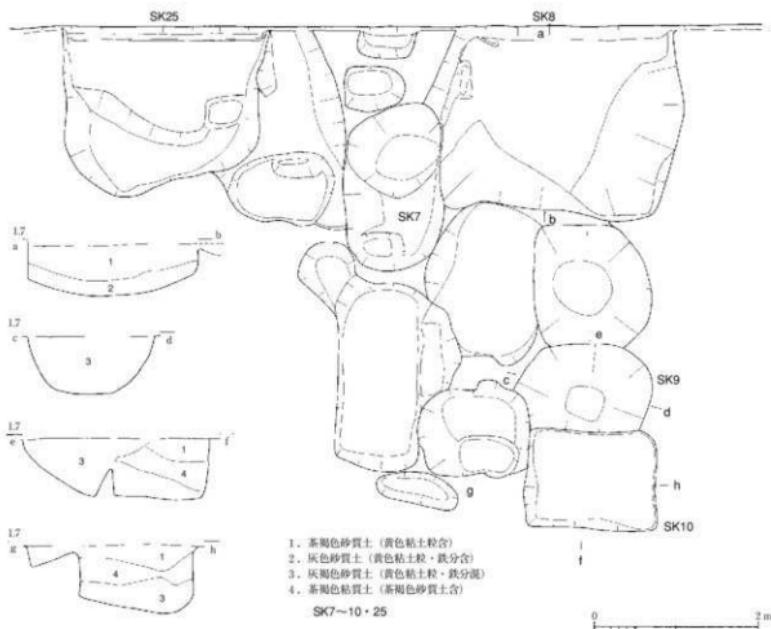
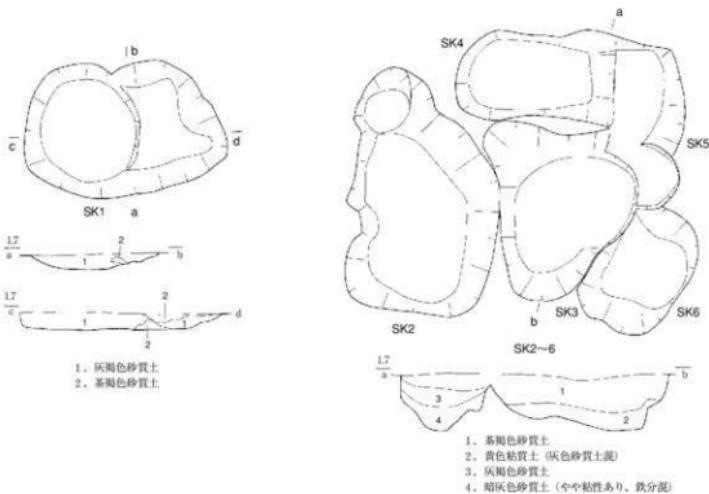


第22図 F区造構実測図 5 (S=1/60)

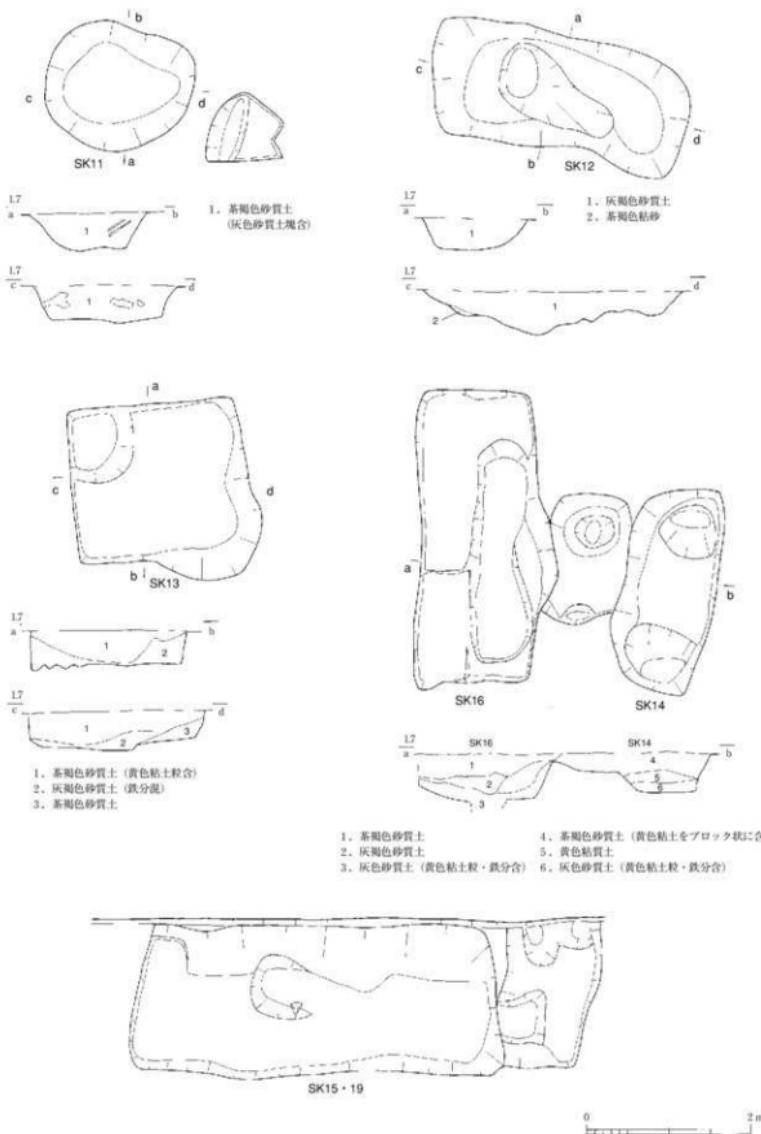


第23図 F区造構実測図 6 (S=1/40)

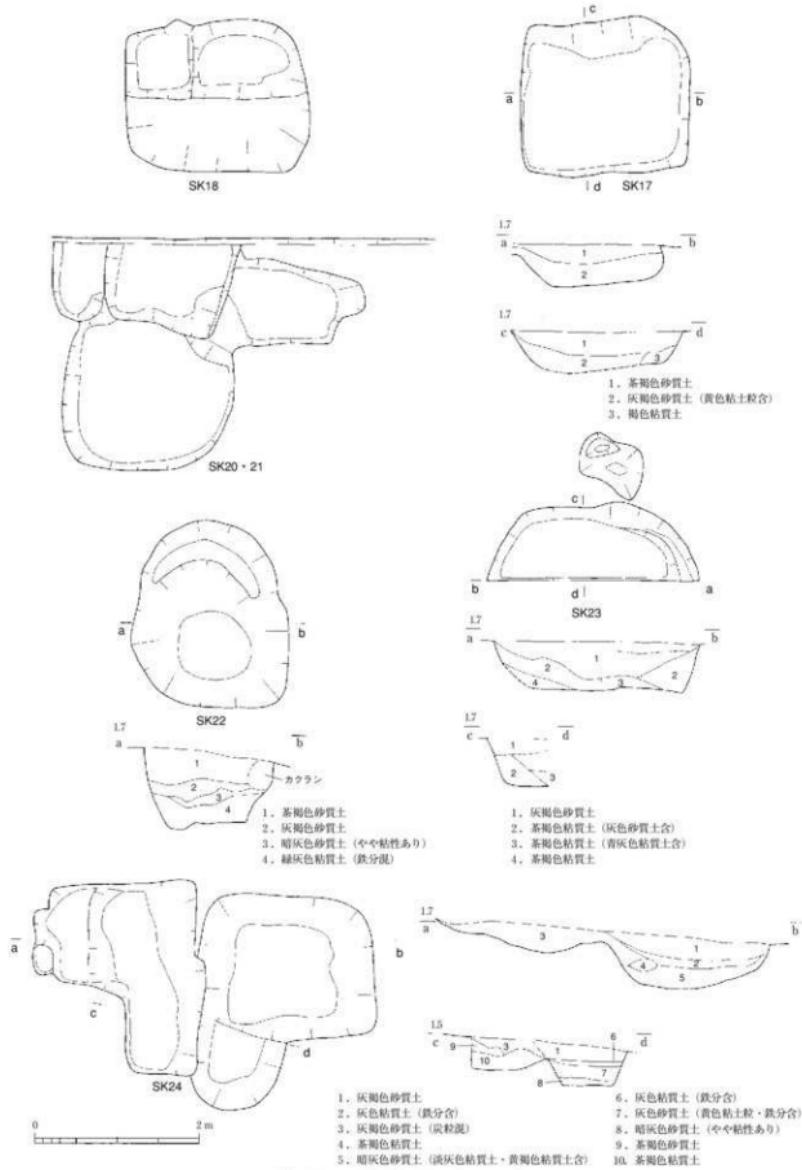
第24図 E・F区遺構実測図 ($S=1/60$)・G区基本土層図 ($S=1/80$)



第25図 I区造構実測図1 (S=1/60)



第26図 I区造構実測図2 (S=1/60)



第27図 I区造構実測図3 (S=1/60)

第4章 遺 物

第1節 土 器 (第28~47図)

A区 遺物は中世から近世のものが数多く出土しており、凹地出土の1~47を図示した。1~20が中世の遺物で、図示しなかったものも含めて12~16世紀の製品が出土し、15~16世紀に中心を持つ。古瀬戸、珠洲焼、越前焼、白磁、青磁が多く出土しており、青花は少ない。土師器皿も少なく、実測できた破片は1のみであった。21~24は土鍤である。中世の所産とみられるが、24は紡錘形を呈し、胎土も硬質であることから近世に降る可能性がある。25~47は近世の遺物で、16世紀末~19世紀代の製品が出土している。34、37は肥前系陶器と見られるが、外外面とも口縁部周辺にしか施釉されていないことから供膳具とは考えにくい。34は火入れの類と推定されるが37の器種は不明である。

他に中世陶器を加工した円盤状陶製品が多量に、朝鮮製品や焼瓦が少量出土している。

B区 B区は包含層とピット1基から出土した遺物が極少量あるのみで図示した遺物はない。

C区 C区の出土遺物も少なく、48~62を図示した。15~18世紀の遺物が出土しているが、遺構出土の中世遺物は混入であろう。

D区 63~92の大溝出土遺物を図示した。そのうち13世紀以前の63、64、84は混入であろう。古瀬戸や陶器には14世紀後半の遺物も含まれるが、主体は15~16世紀の遺物で、中でも65~72の土師器皿は16世紀前半の製品と見られることから中心時期はそこに求められよう。他に中国製の茶入れ、白磁端反り皿、朝鮮製雜軸坏、円盤状陶製品、土鍤などが出土している。

E区 93~118、123~128が東西方中世溝・SD1、119~122、129~134が他遺構出土、135~140が包含層出土である。93~97、124はD区大溝同様に古い遺物の混入であろう。98~106、125の土師器皿は法量・形態共にD区大溝出土資料に類似しており、16世紀前半の製品である。SD2出土の134は肥前系磁器碗で、焼き継ぎ痕がある。139の白磁坏外底部にはさいころの5の目のような墨書きがみられる。

F区 F区では他の調査区に比べて多くの遺物が出土しており、141~611を図示した。141~336は土坑出土遺物である。SK6出土の154~159の土鍤は全て完形で径、孔径は似通っているが、重量が24.0~64.7gとばらつきがあることから同一網への装着は考えにくい。SK10は168~170の5世紀後半~6世紀の須恵器を図示したが、古瀬戸瓶頬や越前焼が出土しているため混入であろう。SK11の173は焼成不良の越前焼としたが、土師質土器の可能性もある。SK14出土遺物は18世紀前半頃とみられる188が突出して新しく、他は17世紀初頭以前におさまるため混入の可能性もある。SK29の264は中国製の天目茶碗で、外底部に赤い付着物が観察されることから朱墨痕とみられる。SK45は図示した遺物以外に18世紀に降る遺物が出土している。337~474は溝出土遺物である。337~400はSD1出土で、373を除いて17世紀に降る可能性のある製品は出土していない。SF1の478は古瀬戸の桶状製品で、内底から外底の一部まで灰釉が掛かり、図面では三足表現としているが外底の剥離痕跡から八足と推定される。内底まで施釉されていることからさほど深い器形ではないとみられる。器形からは水指のようであるが、古瀬戸の段階にはまだ水指専用容器はないとされるため桶としておきたい。485~611は表採・包含層資料である。485~490は個別に取り上げられた包含層遺物で、485はSK4南東付近、487~489はSK36北側、490はSK10北側で出土した。包含層からは古墳時代から近世の遺物が出土し、中でも14世紀後半から17世紀前半の陶磁器が中心で、当該期の土師器皿は極めて少ない。

F-1区 612は肥前系磁器で、他に包含層から珠洲焼や青磁碗、古瀬戸四耳壺片等が出土している。

G区 613、614の包含層出土遺物を図示した。他に珠洲焼や古瀬戸が出土している。

H区 615～622を図示した。土坑出土遺物はない。SD 2出土の617、618は共に18世紀代の製品である。他に越前焼、加賀焼、古瀬戸香炉等が出土している。

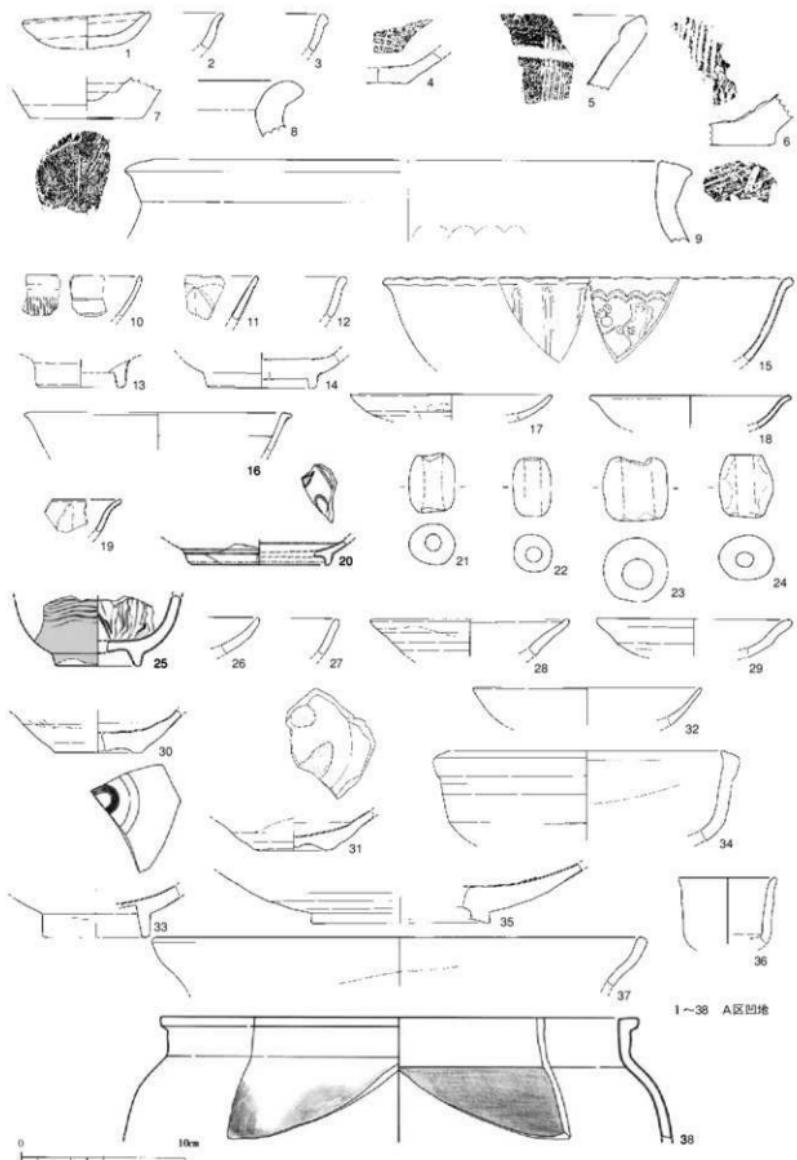
I区 623～648を図示した。量的には中世遺物が多いものの、他の調査区に比して近世陶磁器の出土比率が高く、18世紀前半の遺物が主体となるようである。他にはSK 6から青白磁合子蓋、SK 7から波佐見産青磁皿、SK 4・12・17からは肥前銅緑釉製品、SK15から軟質施釉陶器などが出土した。

小結 遺跡の中心時期である中世陶磁器の傾向を簡単に述べて小結としたい。まず第一に土師器皿の少なさが挙げられる。破片数は数えていないが総点数の一割以下ではないかと思われる。特に非ロクロ土師器は少なく、むしろ11世紀中～12世紀とみられるロクロ土師器の方が多い印象を受けた。非ロクロ土師器は15世紀前半～中葉を中心とした丸底で小型のいわゆる普正寺タイプは僅少で、16世紀前半の京都系が主体である。

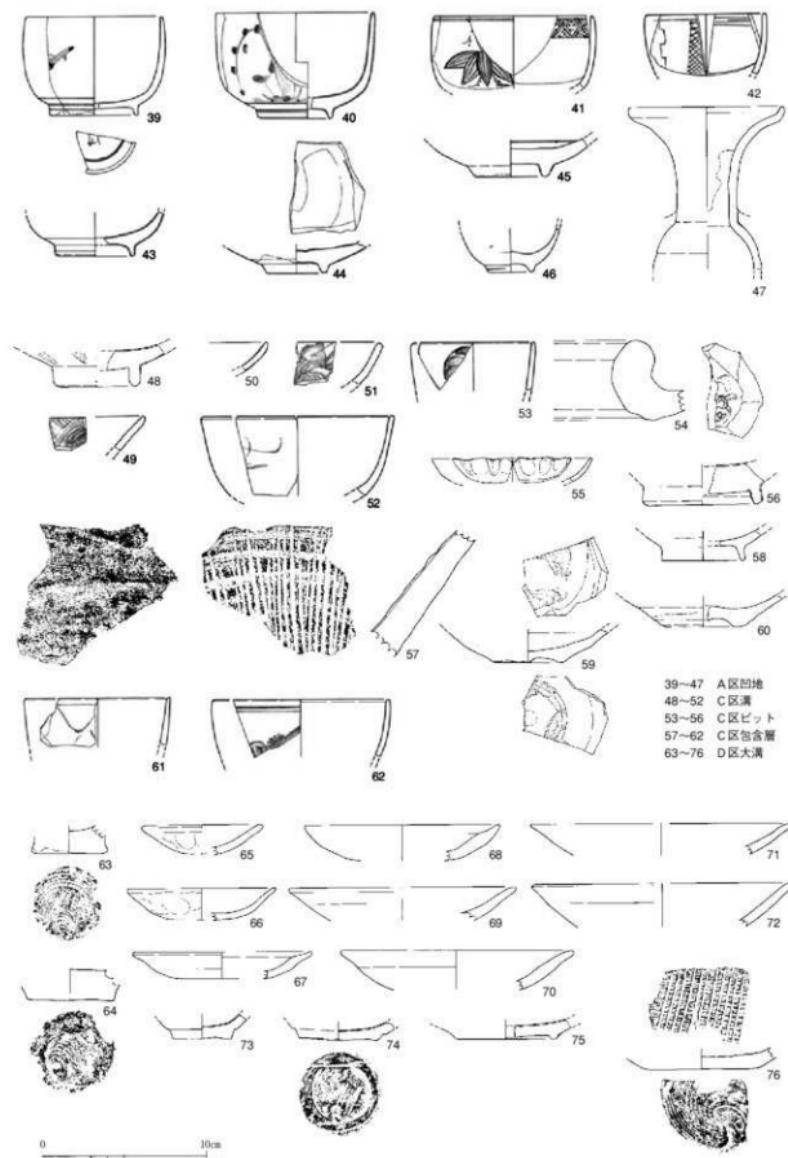
割合としてもっと多いのは、貯蔵・調理具の壺・甕・鉢類である。中でも越前焼の甕が多く、14世紀前半～中葉頃の製品が中心となるが、鉢類は16世紀代のものが多い。珠洲焼は甕・鉢共にIV期の製品が主体で、加賀焼の甕も定量みられる。次いで輸入陶磁器と瀬戸窯製品も多い。中国製品は12～13世紀の白磁や青磁が含まれるが、主体は15～16世紀の製品で、白磁が皿・杯と端反り皿、青磁が端反り碗、線描き蓮弁文碗等である。青花は一定量みられるものの、青磁や白磁に比すると非常に少ない。他に天目茶碗や壺類が出土している。また、朝鮮製品もいわゆる雑釉製品が15点以上出土しており、県内の出土数としては際立つ。瀬戸窯製品は古瀬戸が大半を占め、大窯製品は皿類が定量あるものの天目茶碗は少量である。古瀬戸製品は後期の製品を中心とし、一般的な緑釉皿、折れ縁深皿、天目茶碗等の点数が多いが、瓶子、四耳壺、水注、水指様の桶など袋物の多さが目立ち、特異である。その他には、瓦質土器は僅少で、円盤状陶製品や土錐は極めて多量に出土している。

以上が概要である。加賀地域での一般的な傾向としては土師器皿の比率が60～70%を占めることからすると土師器皿の少なさが際立つ。土師器皿が少なく、貯蔵・調理具が多い傾向からは都市的な場ではない農村的な場と理解される。単位面積当たりの出土点数は遠く及ばないが、輸入陶磁器や古瀬戸製品を豊富に保有している様相やその内容は港湾集落である普正寺遺跡に類似しており、同時代性、物資の集積地に近い立地環境の表れ、同一の商品流通圈であることの証であろう。また、中国製の天目茶碗、茶入れ、壺類を始め、古瀬戸の瓶子や水注、四耳壺など威信財的な品物を有することからは、財力のある住人像を描くことができるが、そうなると一括廃棄を伴う宴会が不要な住人を想起させる土師器皿の少なさとは矛盾する。嗜好用具である天目茶碗、茶入れ、茶壺、風炉が少ないながらも揃っており、中でも中国製の天目茶碗、茶入れ、茶壺を保有することから、少なくともそれらの年代が示す15世紀代頃には一般的な農村集落とは考えにくい。

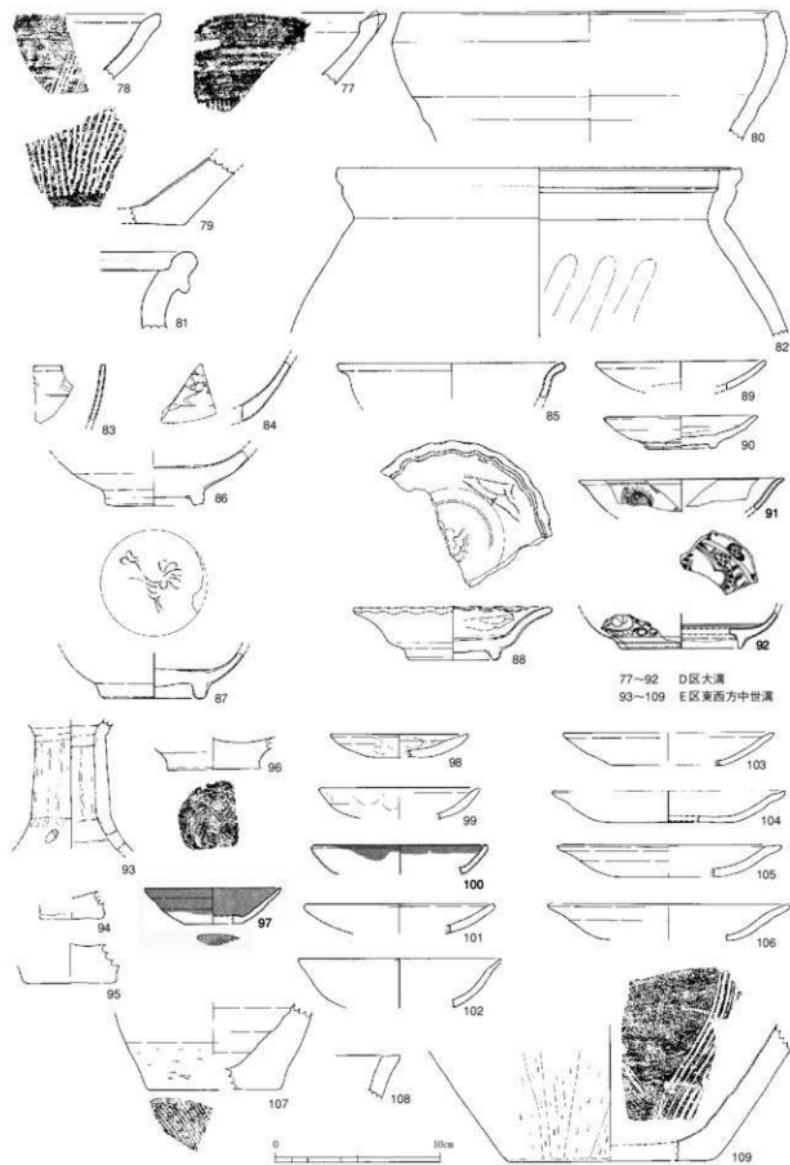
土師器皿が11世紀中葉～12世紀代と16世紀前半、壺・甕・鉢の基本三器種が14世紀代と16世紀代、瀬戸窯製品が14世紀後半～15世紀代、輸入陶磁器が15～16世紀代に中心を持ち、それぞれの出土ピークが一致しないことから時代によって遺跡の性格が異なることも想定されるため、その解釈には注意が必要である。

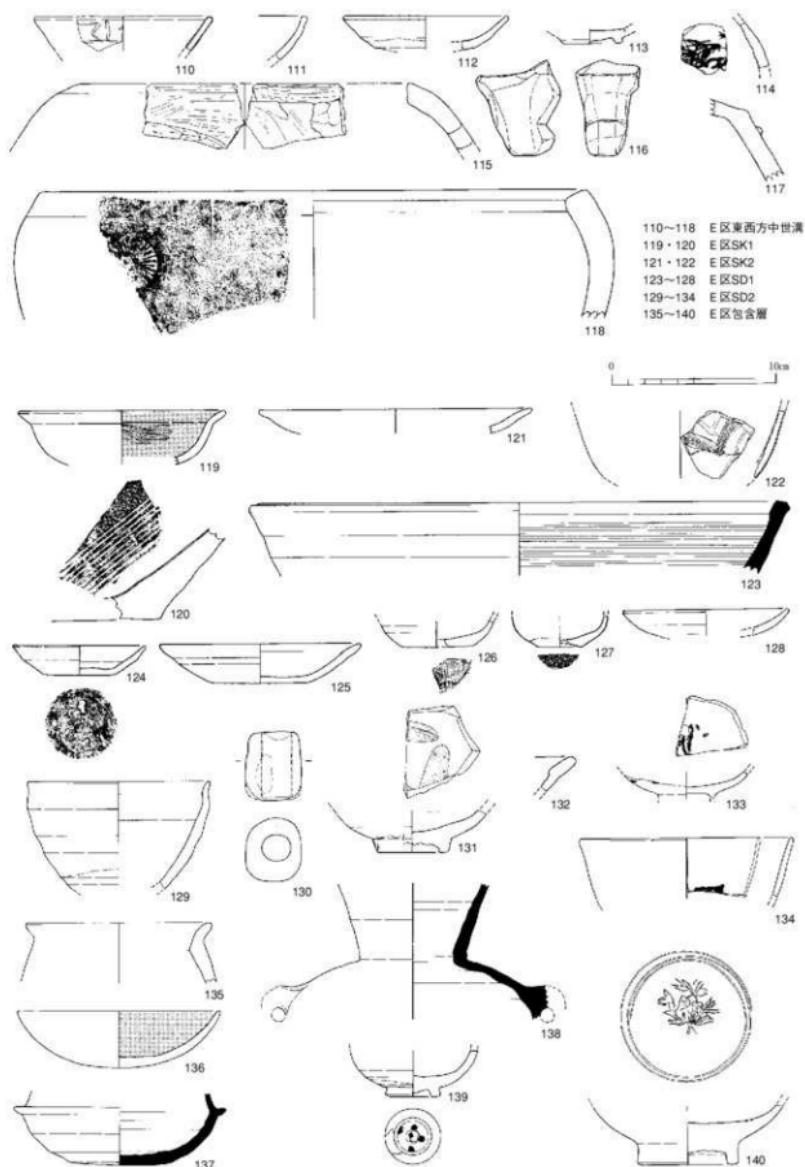


第28図 土器・陶磁器実測図1 (S=1/3)

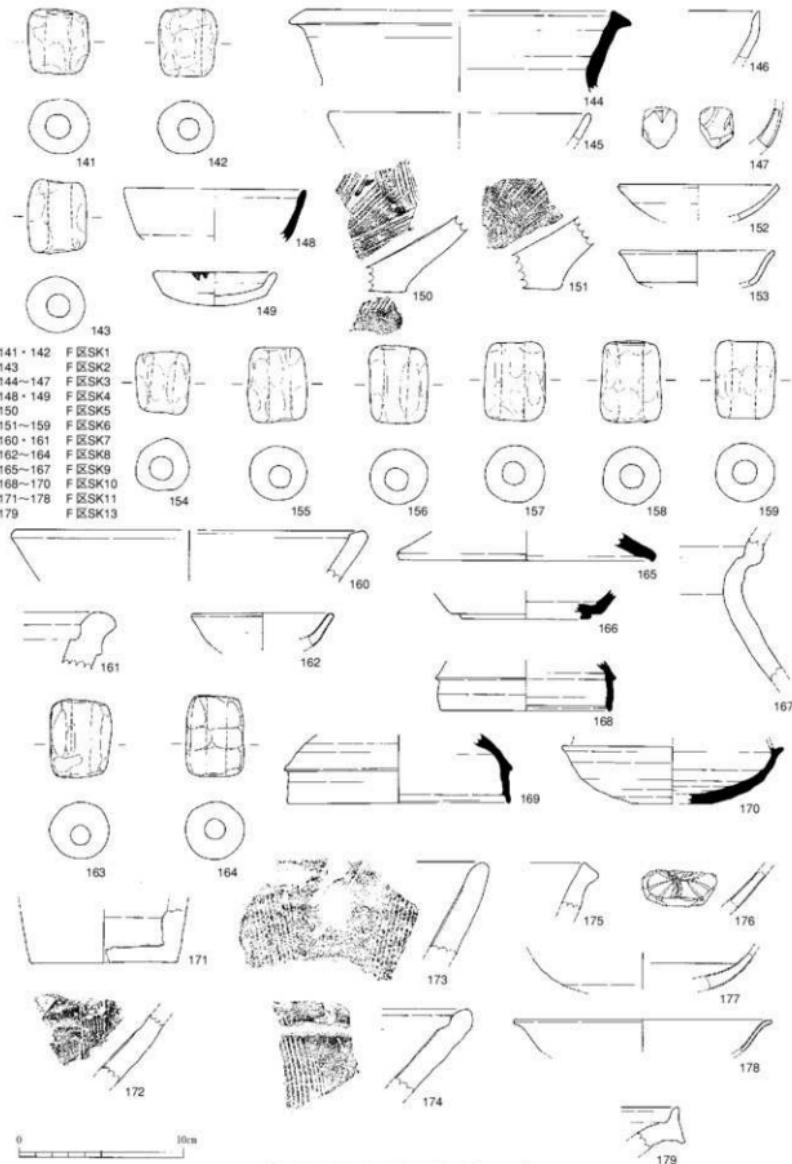


第29図 土器・陶磁器実測図2 (S=1/3)

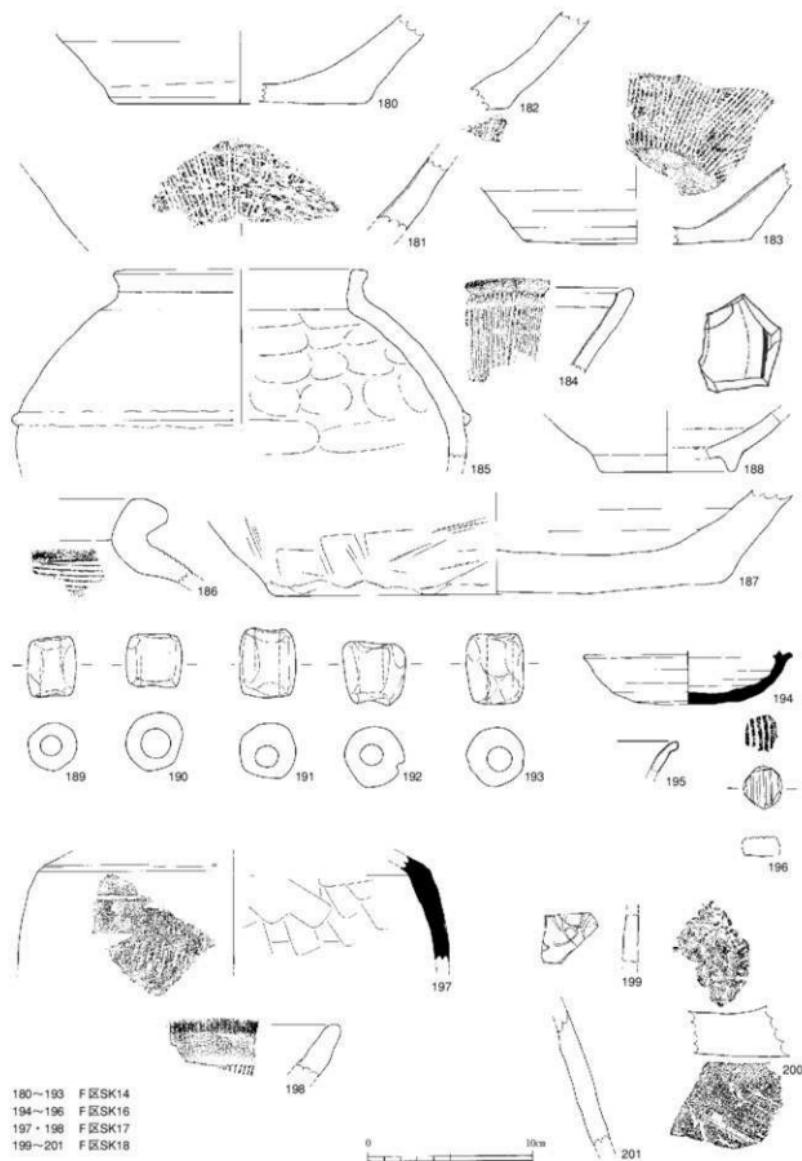




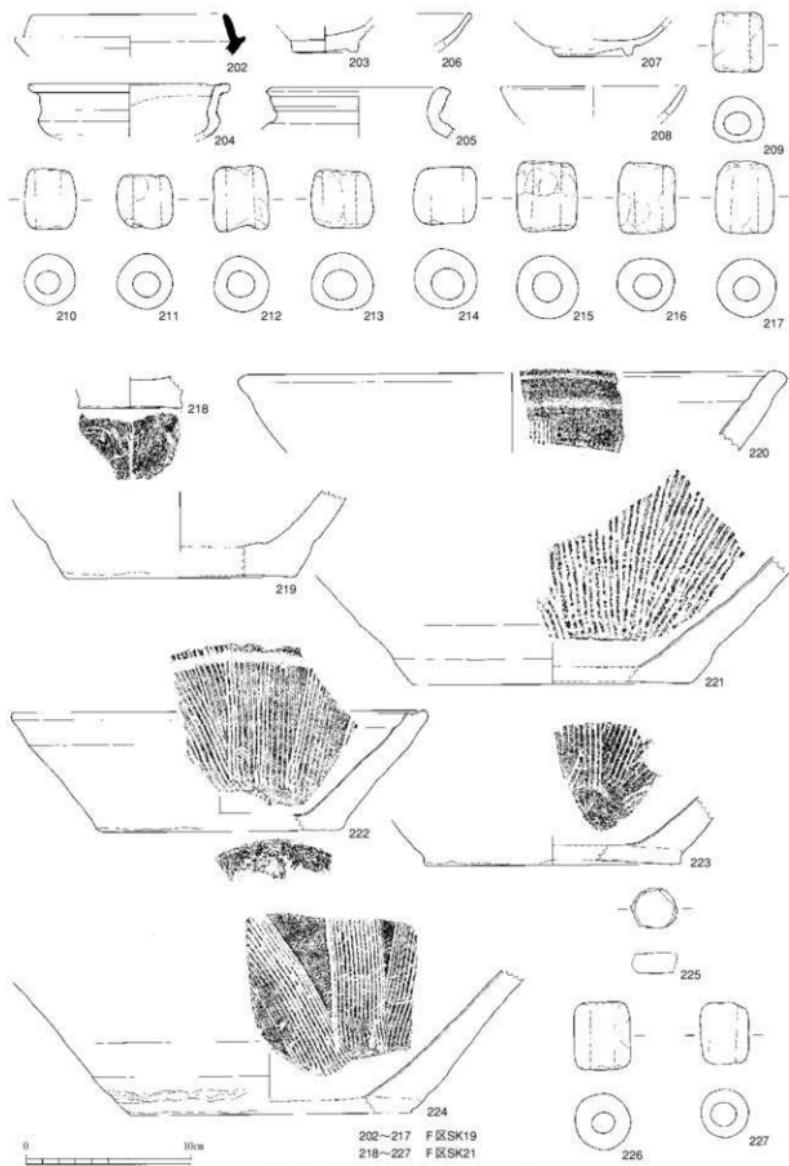
第31図 土器・陶磁器実測図4 (S=1/3)



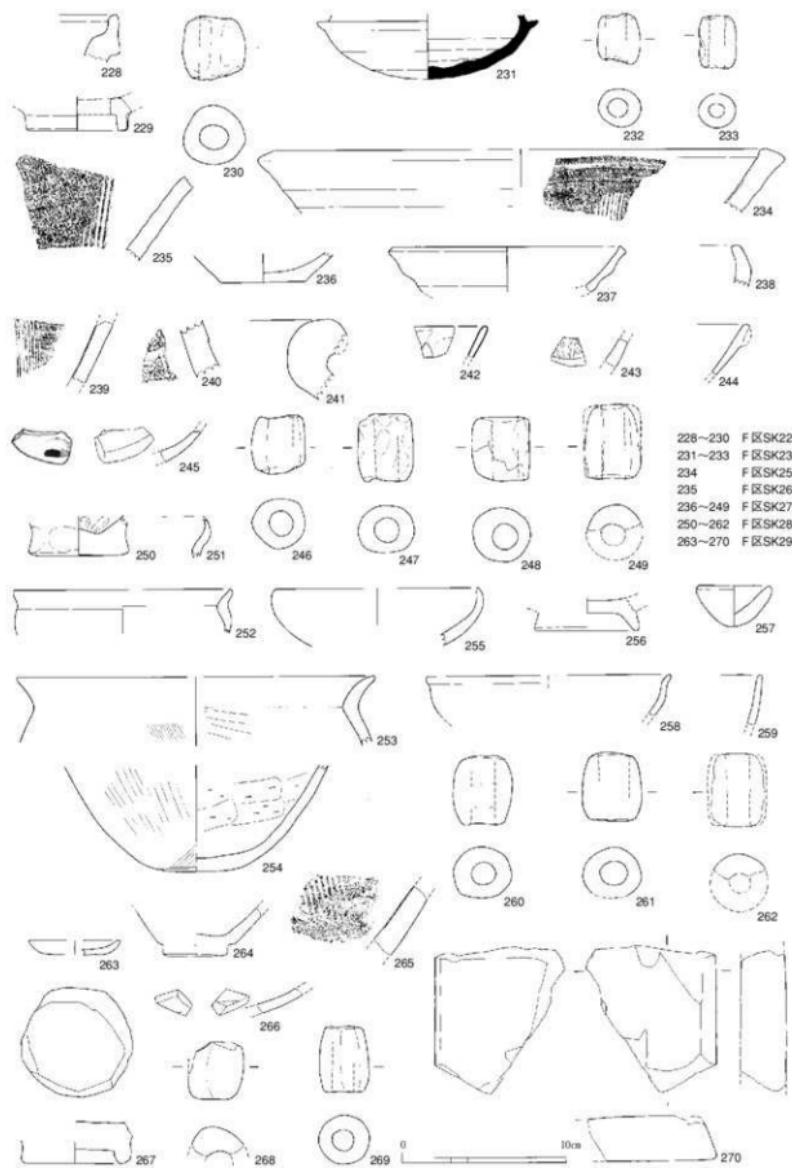
第32図 土器・陶磁器実測図 5 (S=1/3)



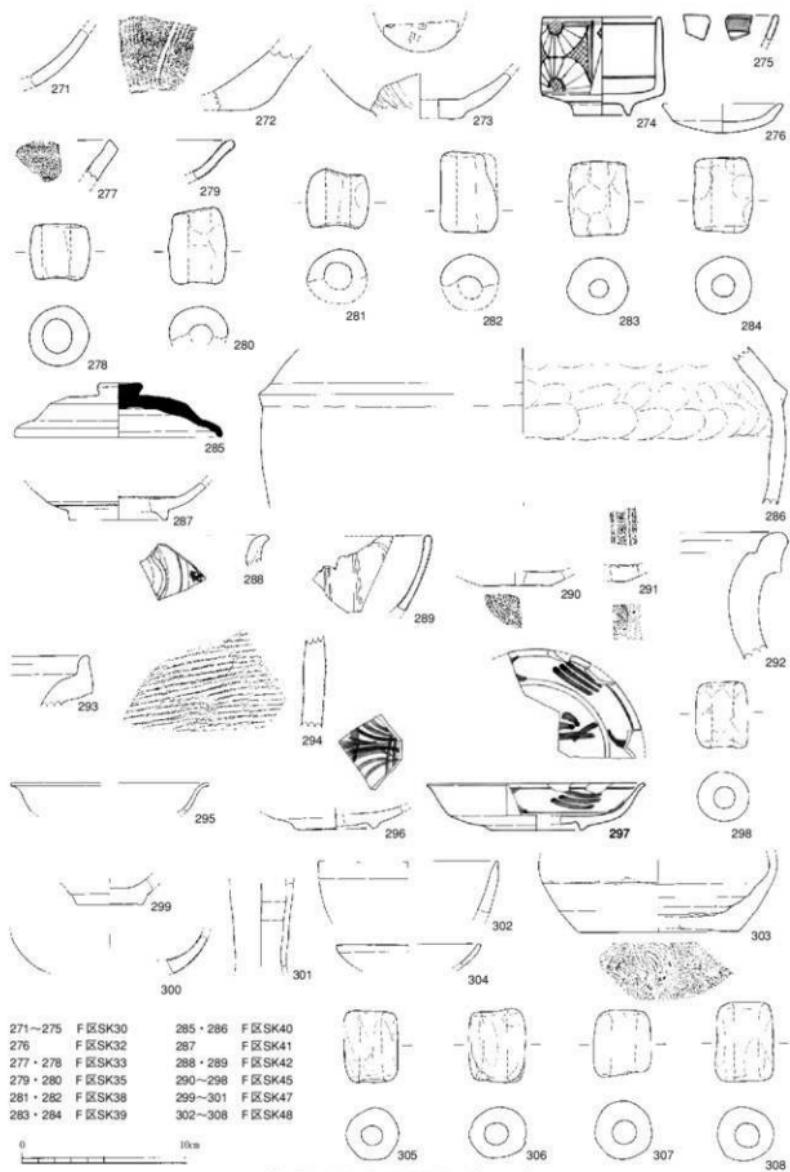
第33図 土器・陶磁器実測図 6 (S=1/3)



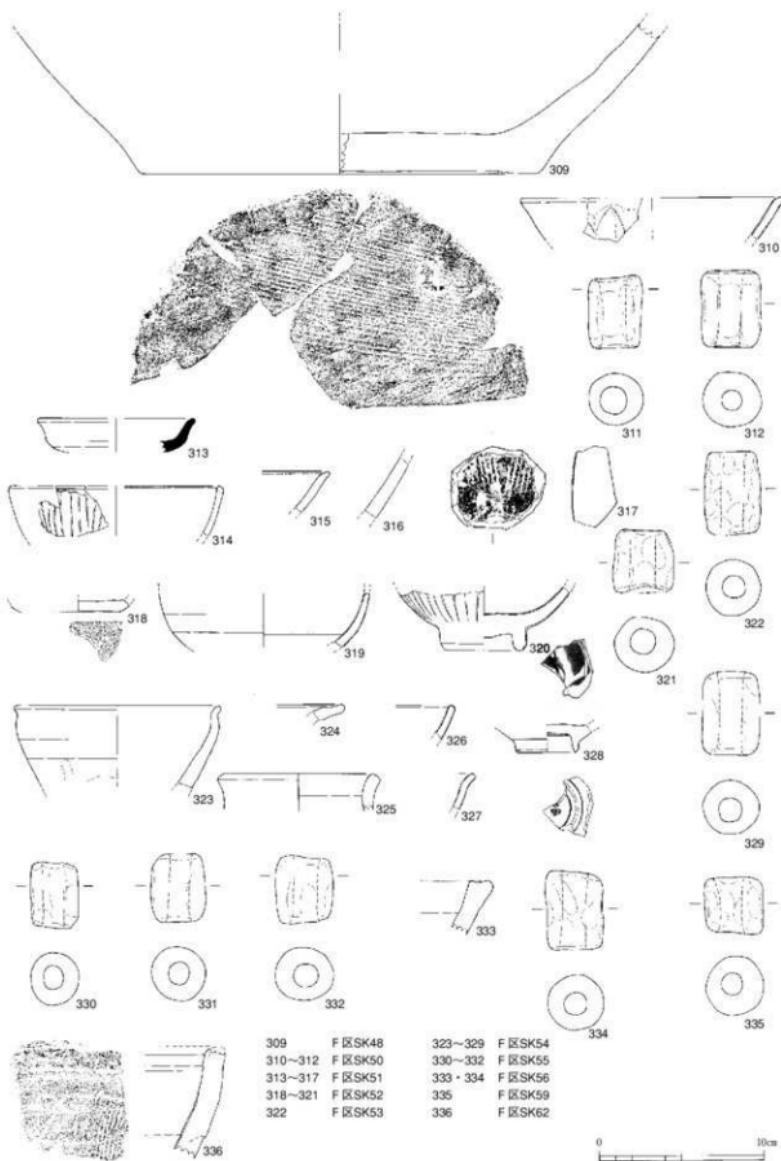
第34図 土器・陶磁器実測図7 (S=1/3)



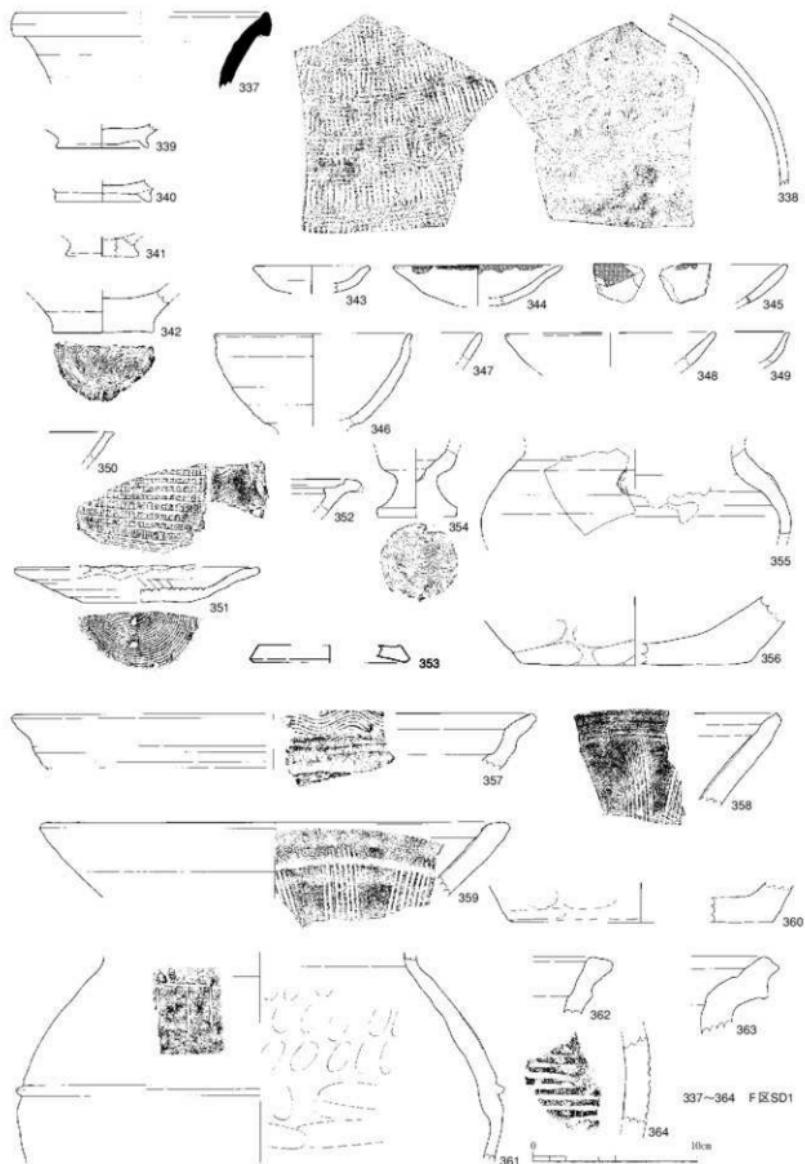
第35図 土器・陶磁器実測図8 (S=1/3)



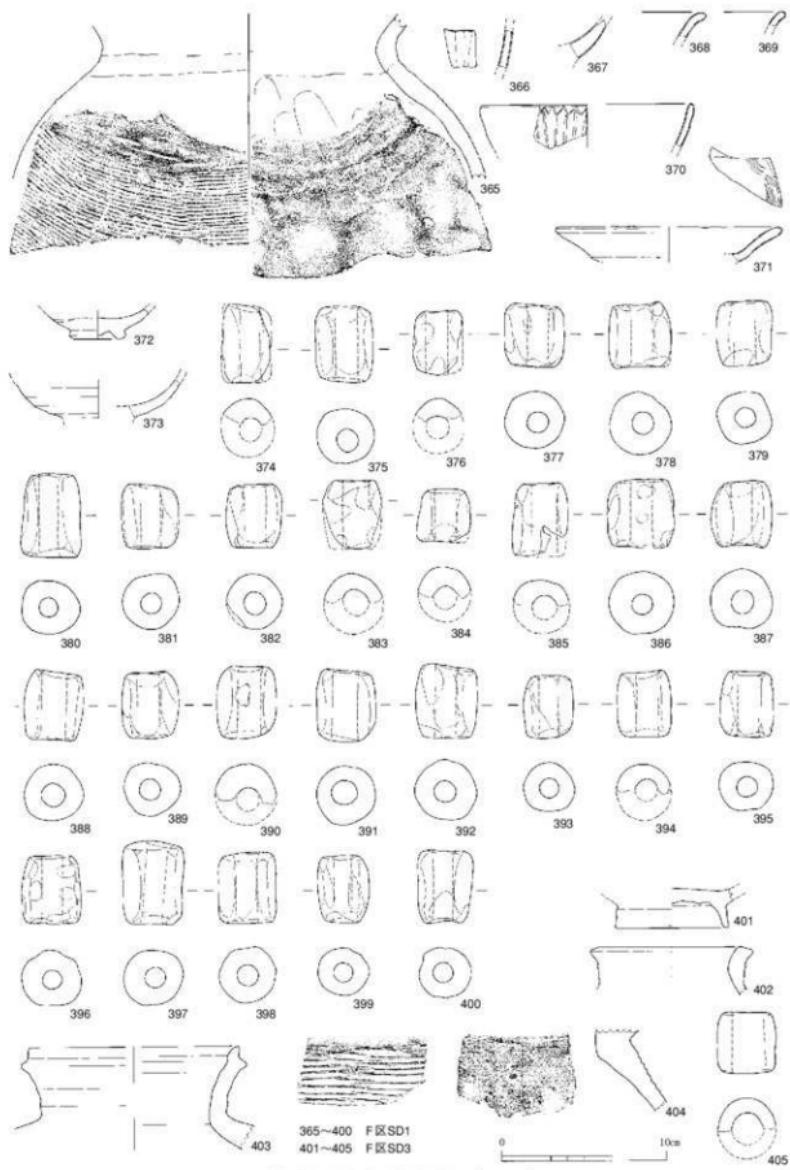
第36図 土器・陶磁器実測図9 (S=1/3)



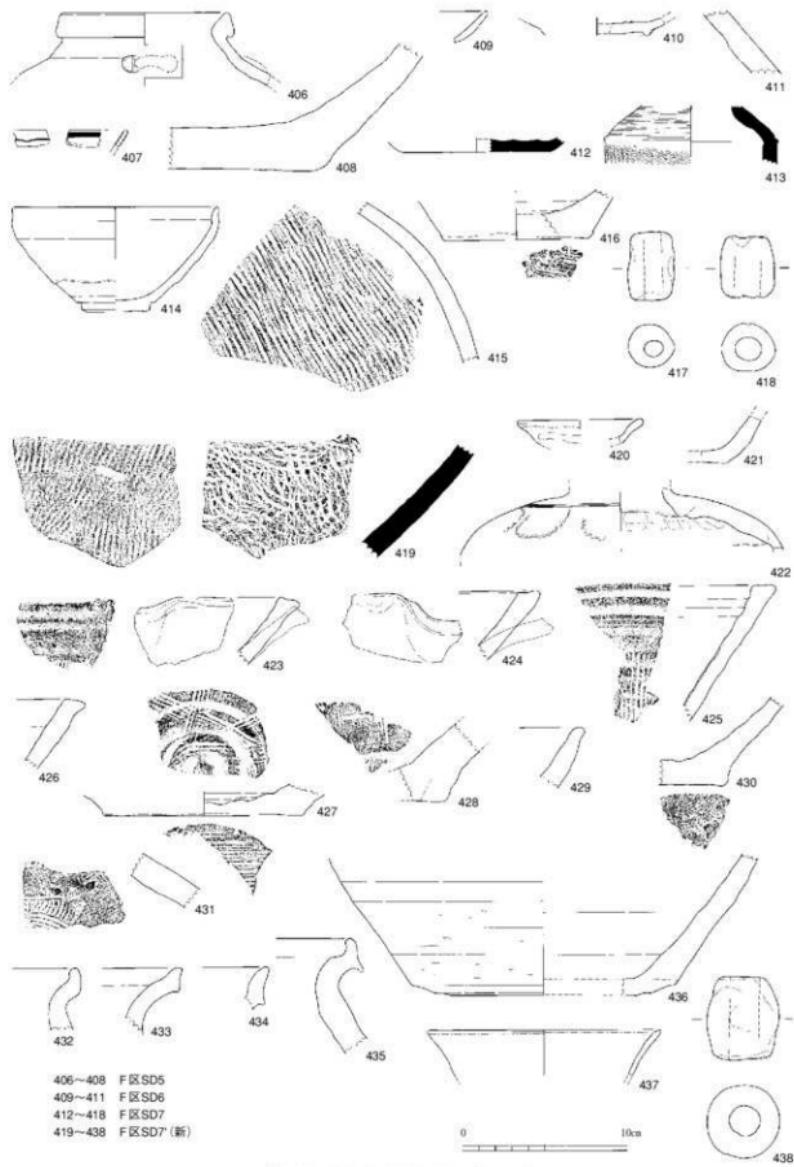
第37図 土器・陶磁器実測図10 (S=1/3)



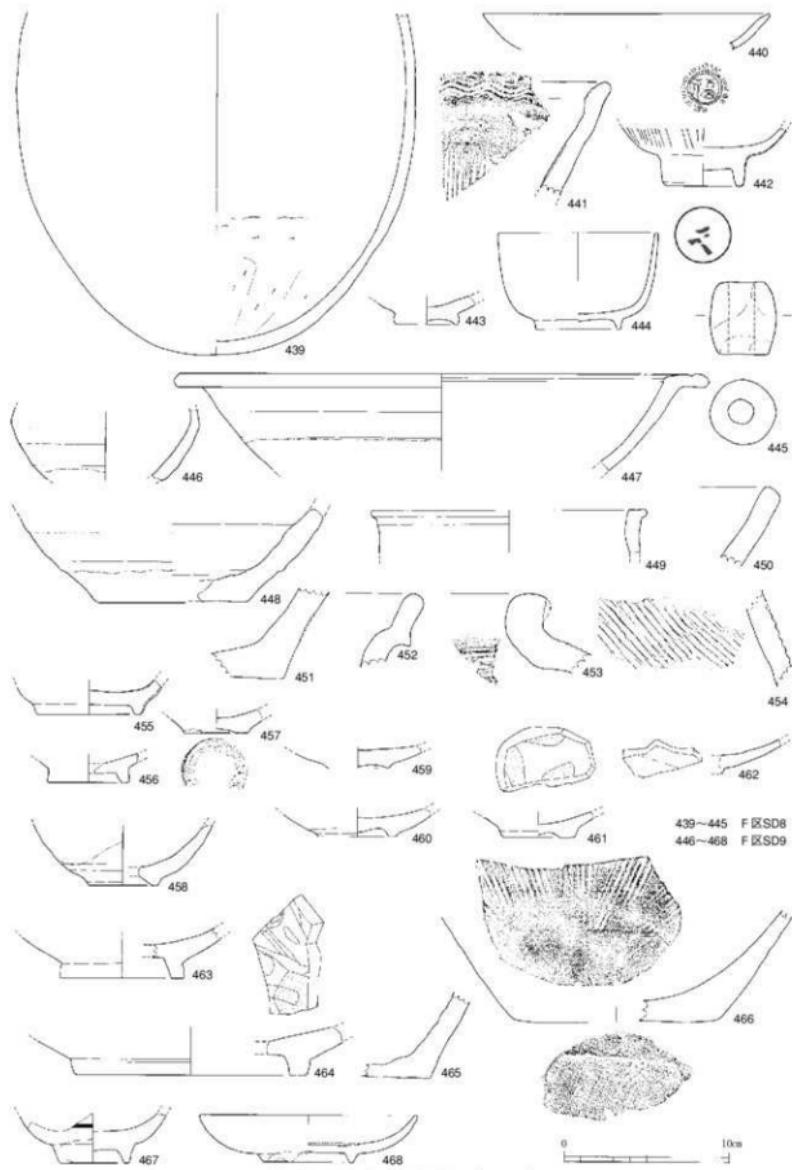
第38図 土器・陶磁器実測図11 (S=1/3)



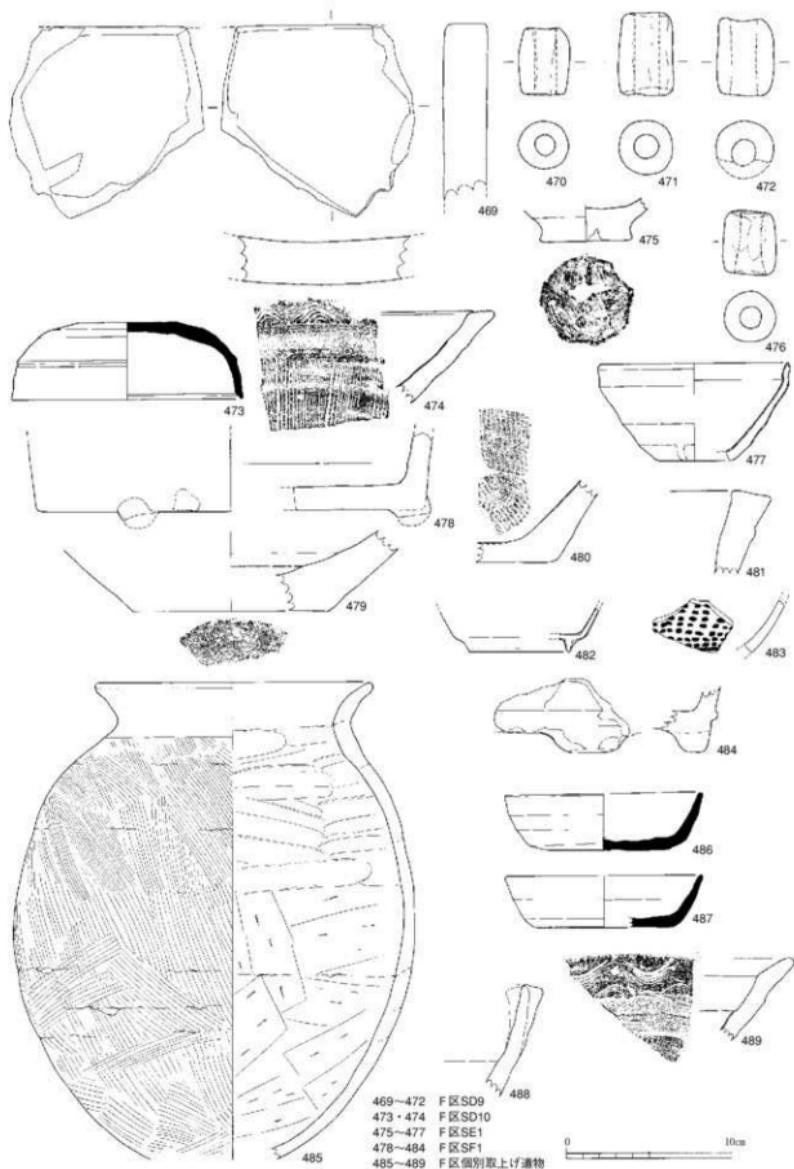
第39図 土器・陶磁器実測図12 (S=1/3)



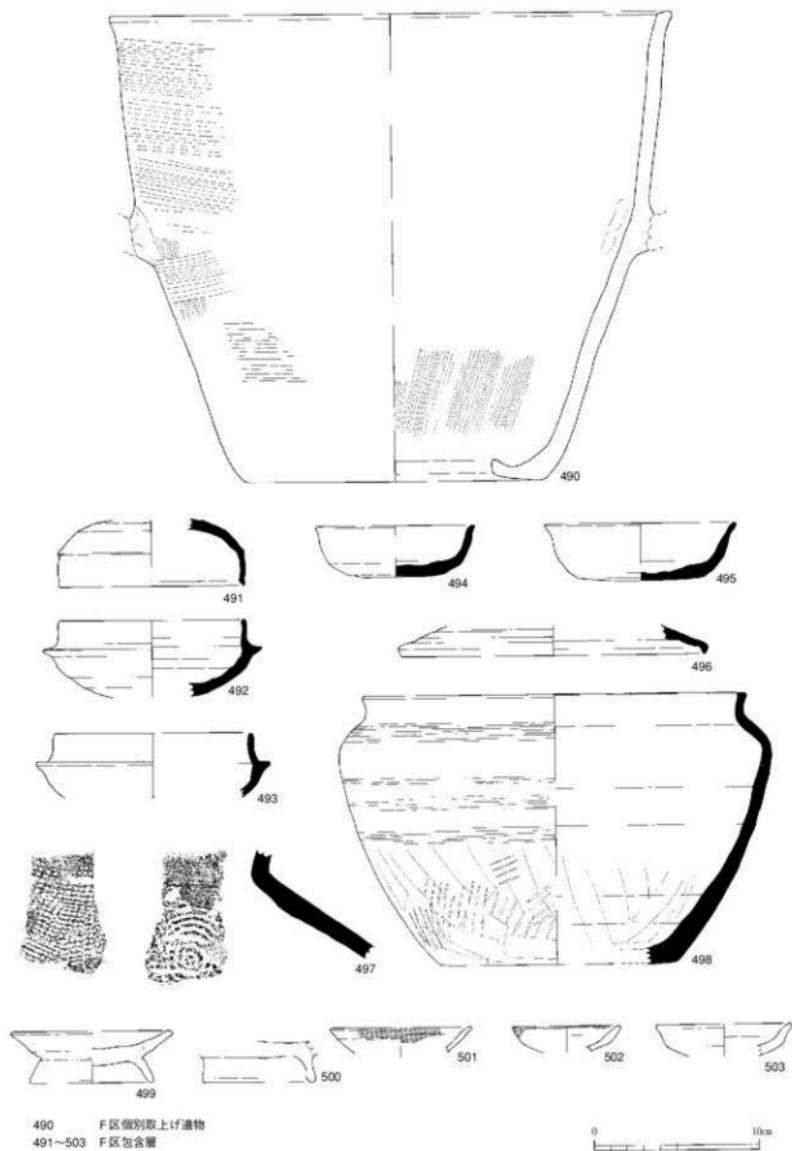
第40図 土器・陶磁器実測図13 (S=1/3)



第41図 土器・陶磁器実測図14 (S=1/3)

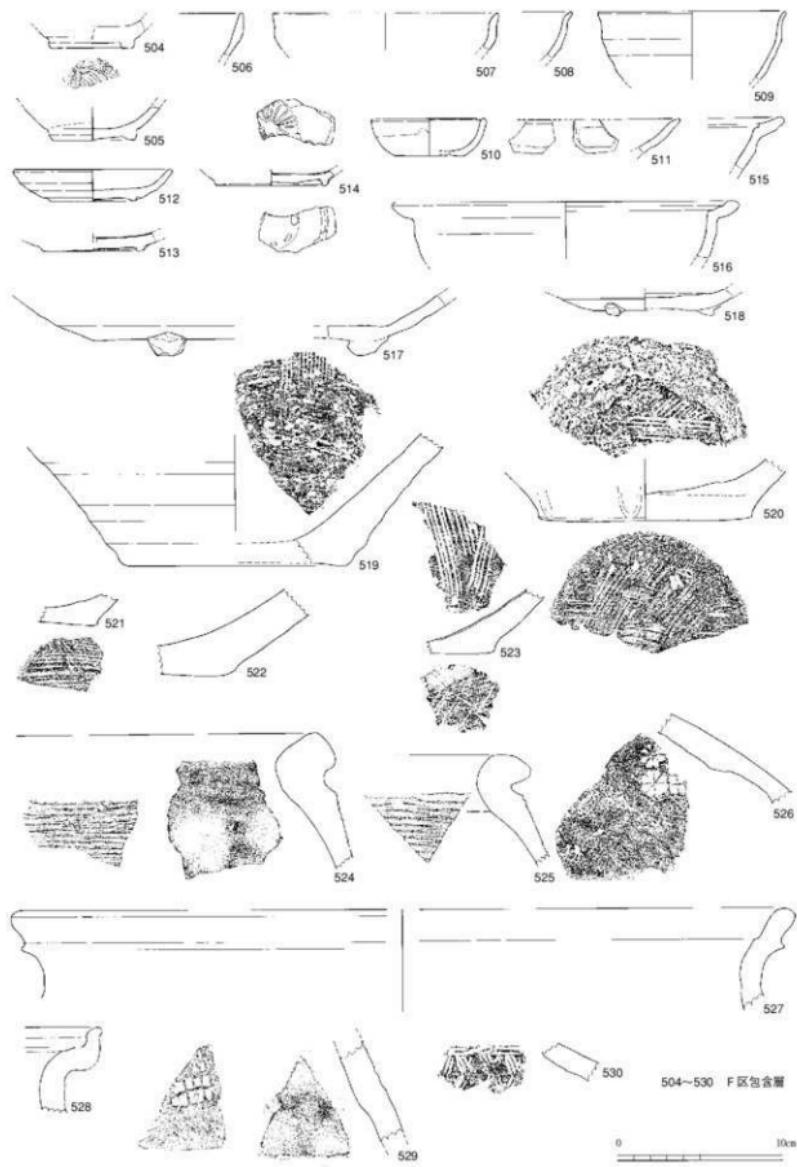


第42図 土器・陶磁器実測図15 (S = 1/3)

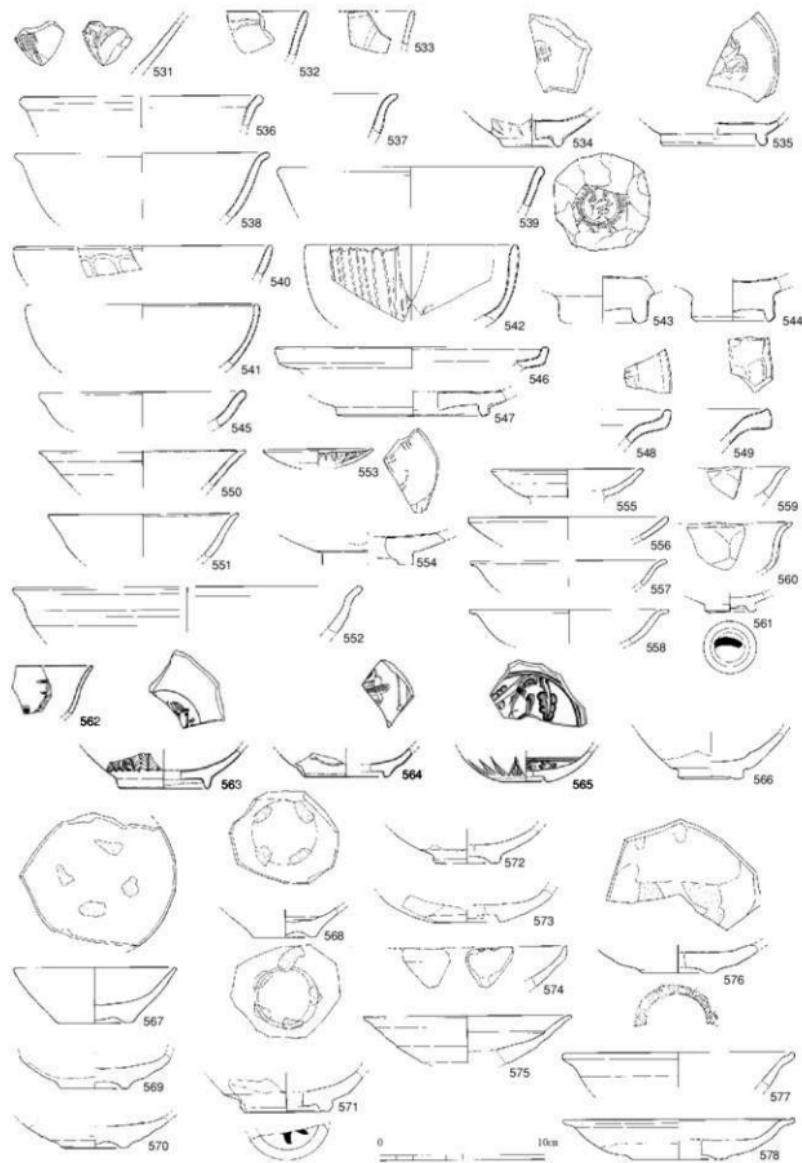


490 F区個別取上げ遺物
491~503 F区包含層

第43図 土器・陶磁器実測図16 (S=1/3)

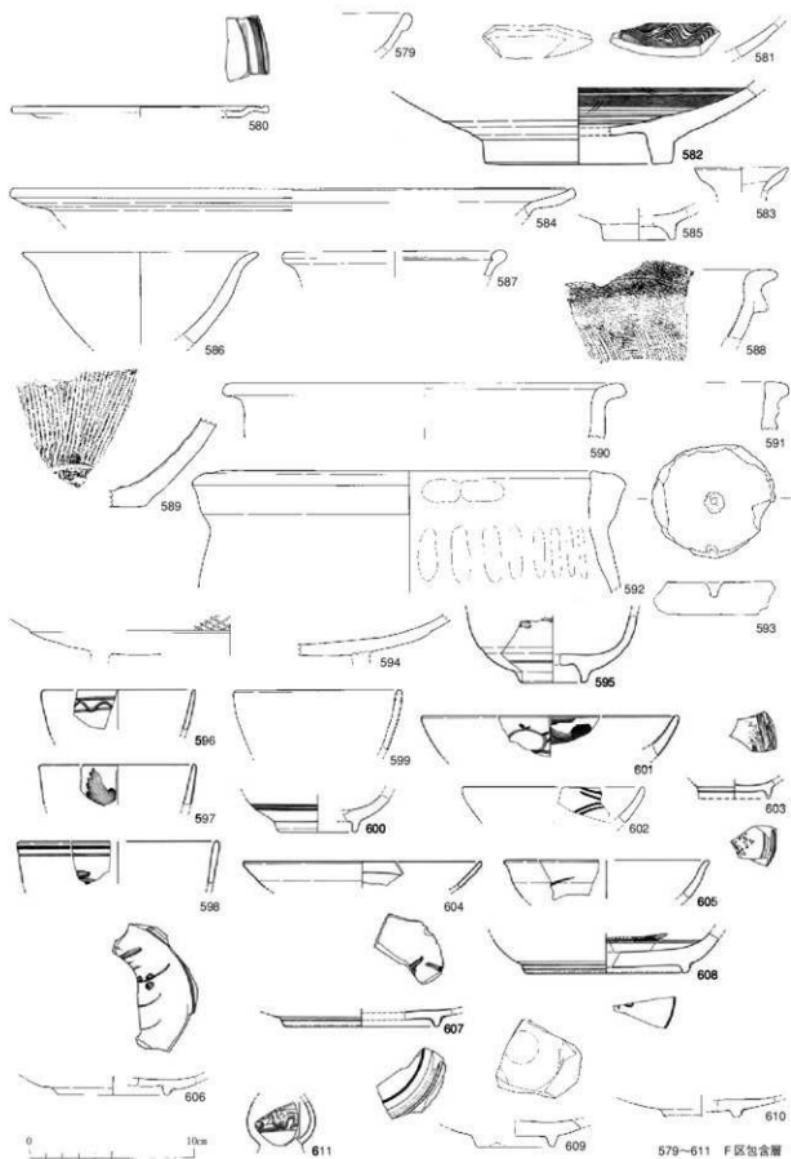


第44図 土器・陶磁器実測図17 (S=1/3)

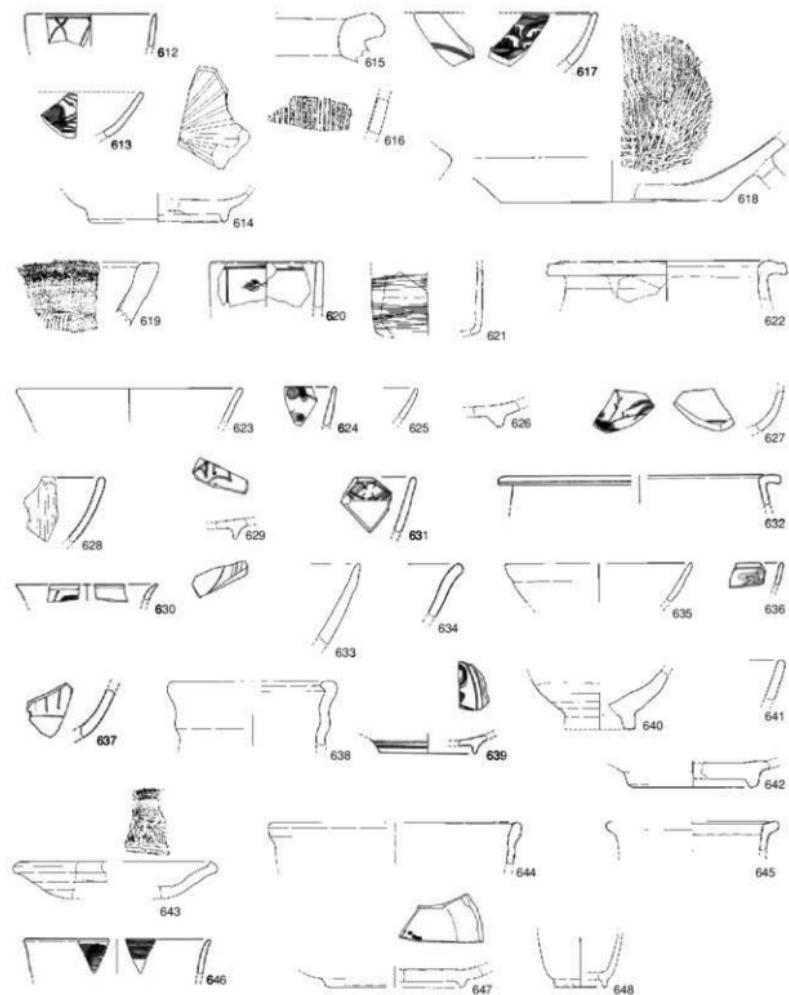


531~578 F区包含層

第45図 土器・陶磁器実測図18 (S=1/3)



第46図 土器・陶磁器実測図19 (S=1/3)



612	F-1 区包含層	623	I 区 SK2	631・632	I 区 SK12	641・642	I 区 SK19
613・614	G 区包含層	624	I 区 SK3	633・636	I 区 SK13	643・648	I 区包含層
615・616	H 区 SD1	625・626	I 区 SK8	637	I 区 SK15		
617・618	H 区 SD2	627	I 区 SK9	638	I 区 SK16		
619～622	H 区包含層	628～630	I 区 SK10	639・640	I 区 SK17		

0 10cm

第47図 土器・陶磁器実測図20 (S=1/3)

第2表 土器・陶磁器觀察表

種別		種類	口径(cm)	底性(cm)	色調(内)・外)	底質	底土	性状	調査外)	底地	備考
出土地点	調査区	土手地盤	2.3	二心丸砂質	砂粒	砂粒	砂	良	3317	3317	
20	2	A区 A-B区 川内	(2.2)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
3	3	A区 A-B区 川内	(2.3)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
4	4	A区 A-B区 川内	(2.0)	反白	反白	砂	良	良	3317	3317	在地
5	5	336 A区 A-B区 川内	(4.6)	深褐色	深褐色	砂	良	良	3317	3317	在地
6	6	411 A区 A-B区 川内	(3.2)	深褐色	深褐色	砂	良	良	3317	3317	在地
7	7	362 A区 B区 川内	(7.0)	(2.6)	灰	灰	砂	良	3317	3317	在地
8	8	434 A区 B区 川内	(31.0)	(5.0)	灰・青灰	砂	砂	良	3317	3317	在地
9	9	433 A区 B区 川内	(2.5)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
10	10	405 A区 B区 川内	(2.7)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
11	11	409 A区 B区 川内	(2.5)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
12	12	402 A区 B区 川内	(2.5)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
13	13	266 A区 B区 川内	(3.0)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
14	14	391 A区 B区 川内	(6.4)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
15	15	389 A区 B区 川内	(5.2)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
16	16	392 A区 B区 川内	(4.6)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
17	17	414 A区 B区 川内	(1.6)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
18	18	391 A区 B区 川内	(1.2)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
19	19	391 A区 B区 川内	(1.2)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
20	20	427 A区 B区 川内	(8.4)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
21	21	21 A区 B区 川内	(1.6)	青砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
22	22	21 A区 B区 川内	(2.4)	青砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
23	23	413 A区 B区 川内	(2.4)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
24	24	426 A区 B区 川内	(4.6)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
25	25	435 A区 B区 川内	(5.2)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
26	26	390 A区 B区 川内	(2.2)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
27	27	364 A区 B区 川内	(2.2)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
28	28	364 A区 B区 川内	(1.6)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
29	29	364 A区 B区 川内	(1.6)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
30	30	426 A区 B区 川内	(2.4)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
31	31	423 A区 B区 川内	(5.0)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
32	32	392 A区 B区 川内	(2.4)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
33	33	441 A区 B区 川内	(5.6)	(3.2)	青砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
34	34	399 A区 B区 川内	(5.6)	砂質	薄透	砂	良	良	3317	3317	在地
35	35	429 A区 B区 川内	(11.0)	(3.6)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
36	36	423 A区 B区 川内	(5.6)	(4.1)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
37	37	430 A区 B区 川内	(7.0)	(3.0)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
38	38	395 A区 B区 川内	(11.6)	(2.4)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
39	39	395 A区 B区 川内	(11.6)	(2.4)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
40	40	431 A区 B区 川内	(9.6)	(4.6)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
41	41	389 A区 B区 川内	(9.6)	(4.5)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
42	42	428 A区 B区 川内	(7.3)	(3.7)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
43	43	427 A区 B区 川内	(4.9)	(2.7)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
44	44	442 A区 B区 川内	(4.4)	(2.3)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
45	45	390 A区 B区 川内	(2.4)	(2.3)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
46	46	414 C区	(2.6)	(2.7)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
47	47	389 C区	(9.0)	(10.0)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
48	48	414 C区	(9.0)	(10.0)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
49	49	414 C区	(9.0)	(10.0)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地
50	50	413 C区	(9.0)	(10.0)	砂質	薄透	砂	良	3317	3317	在地

番号	分類	断面図	出土地名	種別	縦横	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	色調(内側)	色調(外側)	胎土	焼成	断面(内)	断面(外)	产地	備考
29	51	C15	円筒状直筒19	直筒	底	(11.5)	6.5	4.5	青白	青白	良	良	底前	底前	底前	底前
32	470	C15	円筒状直筒19	直筒	底付	横	(7.4)	4.5	青白	青白	良	良	底前	底前	底前	底前
53	415	C15	小口付15	直筒	底付	横	(9.8)	5.5	青白	青白	良	良	底前	底前	底前	底前
54	417	C15	小口付15	直筒	底付	横	(6.8)	4.5	青白	青白	良	良	底前	底前	底前	底前
55	418	C15	小口付15	直筒	底付	横	(6.8)	4.5	青白	青白	良	良	底前	底前	底前	底前
56	422	C15	小口付13	直筒	横	(6.8)	4.5	4.5	青白	青白	良	良	底前	底前	底前	底前
57	423	C15	包	直筒	横	(6.8)	4.5	4.5	青白	青白	良	良	底前	底前	底前	底前
58	421	C15	包	直筒	横	(6.8)	4.5	4.5	青白	青白	良	良	底前	底前	底前	底前
59	422	C15	包	直筒	横	(6.8)	4.5	4.5	青白	青白	良	良	底前	底前	底前	底前
60	425	C15	包	直筒	横	(6.8)	4.5	4.5	青白	青白	良	良	底前	底前	底前	底前
61	424	C15	包	直筒	横	(6.8)	4.5	4.5	青白	青白	良	良	底前	底前	底前	底前
62	424	C15	包	直筒	横	(10.7)	6.5	5.5	青白	青白	良	良	底前	底前	底前	底前
63	322	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	土師器	横	(11.8)	4.5	4.5	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
64	320	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	土師器	横	(11.8)	5.2	5.2	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
65	323	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	土師器	横	(11.0)	4.5	4.5	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
66	325	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	土師器	横	(9.0)	4.0	2.0	青白	青白	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
67	323	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	土師器	横	(10.8)	5.5	5.5	青白	青白	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
68	329	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	土師器	横	(11.8)	5.5	5.5	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
69	328	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	土師器	横	(14.0)	7.0	7.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
70	340	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	土師器	横	(14.6)	7.0	7.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
71	327	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	土師器	横	(16.0)	7.0	7.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
72	334	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	土師器	横	(16.0)	7.0	7.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
73	320	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	陶器	横	2.6	1.5	1.5	青白	青白	良	良	底前	底前	底前	底前
74	246	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	陶器	横	(6.2)	(1.2)	(1.2)	青白	青白	良	良	底前	底前	底前	底前
75	351	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	陶器	横	3.0	1.2	1.2	青白	青白	良	良	底前	底前	底前	底前
76	353	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	陶器	横	7.0	(3.5)	(3.5)	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
77	326	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	陶器	横	(4.4)	2.0	2.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
78	331	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	陶器	横	(4.3)	2.0	2.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
79	326	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	陶器	横	(22.8)	(8.1)	(8.1)	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
80	326	D15	A-イ-1区 南之方大直	陶器	横	(13.7)	6.0	6.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
81	327	D15	A-イ-1区 南之方大直	陶器	横	(13.7)	6.0	6.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
82	324	D15	A-イ-1区 南之方大直	陶器	横	(13.7)	6.0	6.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
83	347	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	陶器	横	(13.7)	6.0	6.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
84	346	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	陶器	横	(13.7)	6.0	6.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
85	344	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	陶器	横	(13.7)	6.0	6.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
86	345	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	陶器	横	(13.7)	6.0	6.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
87	325	D15	A-イ-1区 南之方大直	陶器	横	(13.7)	6.0	6.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
88	323	D15	A-イ-1区 南之方大直	陶器	横	(13.7)	6.0	6.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
89	324	D15	A-イ-1区 南之方大直	陶器	横	(13.7)	6.0	6.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
90	346	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	陶器	横	(13.7)	6.0	6.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
91	345	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	陶器	横	(13.7)	6.0	6.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?
92	341	D15	A-イ-1区 大直筒灰+	陶器	横	(13.7)	6.0	6.0	青白	青白	良	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?	ナ?

第4表 土器・陶器器觀察表3

河川名	河川番号	流域区分	出水地点	種別	標高	口径(cm)	延長(m)	断面(m)	色調(外・内)		底土	底質	備考
									色調(外)	色調(内)			
淀川	93	373 E区	B-C17-1区 楠西方	土砂路	露台				淡黄	淡黄	1m以下の砂利地帯か 5cmの砂利少、土質 底材により不明	やや貧 乏	透して砂利地
94	371 E区	B-C17-1区 東西方	土砂路	露台			4.0		にぶい黄緑	にぶい黄緑	底材により不明	良	在地
95	369 E区	B-C17-1区 東西方	土砂路	橋?			5.6		淡黄緑	淡黄緑	1~2cmの砂利多、底 材土質	良	底材により不明
96	370 E区	B-C17-1区 黒西方	土砂路	橋?		5.6			淡黄緑	淡黄緑	砂利の底少、底 材土質	良	ナリ、露台砂利
97	355 E区	B-C17-1区 黒西方	土砂路	露台	(8.2)		(3.7)	2.2	にぶい黄緑	にぶい黄緑	底材により不明	良	ロード
98	367 E区	B-C17-1区 黒西方	土砂路	露台	(8.2)		(4.0)	1.4	淡黄緑	淡黄緑	底材により不明	良	露台
99	370 E区	B-C17-1区 黒西方	土砂路	露台	(8.6)				1m以下の砂利少	砂利の底少、底 材土質	底材により不明	良?	ナリ
100	362 E区	B-C17-1区 黒西方	土砂路	露台	(10.5)				灰白	灰白	砂利少、底色也白	良	ヨリナリ
101	314 E区	B-C17-1区 黒西方	土砂路	露台	(11.5)				淡黄緑	淡黄緑	1m以下の砂利地帯か 5cmの砂利少	良	底材により不明
102	361 E区	B-C17-1区 黒西方	土砂路	露台	(12.3)				灰	灰	底材により不明	良	在地
103	360 E区	B-C17-1区 黒西方	土砂路	露台	(12.8)		(7.0)	2.0	にぶい黄	にぶい黄	砂利の底少、底 材土質	良	底材により不明
104	366 E区	B-C17-1区 黒西方	土砂路	露台	(14.1)				にぶい黄緑	にぶい黄緑	砂利~1mmの大粒 底材	良	ヨリナリ、露台
105	372 E区	B-C17-1区 黒西方	土砂路	露台	(13.0)				灰	灰	砂利の底少	良	3.3万均のナリ
106	358 E区	B-C17-1区 黒西方	土砂路	露台	(14.6)				淡黄緑	淡黄緑	砂利地帯	良	ヨリナリ
107	373 E区	B-C17-1区 黒西方	陶器	露台	(8.0)				灰	灰	1~2cmの砂利や砂多 含	良?	ヨリナリ
108	364 E区	B-C17-1区 黒西方	陶器	口片持			(2.7)	灰	灰	灰	砂利~1mmの大粒 底材	3.3万	底材
109	369 E区	B-C17-1区 黒西方	陶器	口片持			(12.5)	(3.4)	にぶい黄	にぶい黄	砂利地帯	良	ナリ
110	379 E区	B-C17-1区 黒西方	陶器	橋?			(10.8)		ナリ?	ナリ?	底材	良	中西
111	365 E区	B-C17-1区 黒西方	陶器	橋?					明るナリ?灰	明るナリ?灰	底材	良	中西
112	360 E区	B-C17-1区 黒西方	陶器	橋?			(10.0)	(2.1)	乳白	乳白	底材	良	中西
113	376 E区	B-C17-1区 黒西方	白道	露台			3.6		灰白	灰白	底材	良	中西
114	383 E区	B-C17-1区 黒西方	白道	露台					青白かおびた白	青白かおびた白	底材	良	中西
115	354 E区	B-C17-1区 黒西方	瓦屋土器	露台	(20.1)				灰	灰	1m以下の砂利少	やや良	ヨリナリ、ナリ?
116	377 E区	B-C17-1区 黒西方	瓦屋土器	脚			5.3	5.9	灰	灰	1m以下の砂利少	良?	ナリ
117	356 E区	B-C17-1区 黒西方	瓦屋土器	火鉢					灰	灰	底材により不明	良	ナリ
118	363 E区	B-C17-1区 黒西方	瓦屋土器	火鉢			(33.8)		灰	灰	砂利地帯や砂、底材 含	やや貧 乏	ヨリナリ
119	450 E区	5K1	瓦屋土器	脚			(12.6)		露台	露台	砂利地帯	良	中西
120	451 E区	5K2	瓦屋土器	脚			(16.6)		灰	灰	砂利地帯	良?	ナリ
121	454 E区	5K3	瓦屋土器	脚					灰	灰	砂利地帯	良?	中西

第5表 土器・陶磁器製修表 4

器物 番号	陶磁 器名	出土地点	種別	縦幅 横幅	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm) (内側)	高さ(cm) (外側)	表面		胎土	焼成	調査(内)		产地	備考	
									色調(外側)	色調(内側)			1~2mmの砂粒少	1~2mmの砂粒少			
31	122 453 ES-S2	深井窯	質粗	縦	8.0	8.0	4.4	1.9	にぶい	黒褐	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	中国	鹿苑文
32	123 455 ES-S2	深井窯	質粗	縦	8.0	8.0	4.4	1.9	にぶい	黒褐	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	中国	鹿苑文
33	124 443 ES-S2	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
34	125 452 ES-S2	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.4	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
35	126 457 ES-S2	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.4	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
36	127 455 ES-S2	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.4	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
37	128 459 ES-S2	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.4	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
38	129 444 ES-S2	陶器	縦	11.0	11.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
39	130 440 ES-S2	土師器	縦	12.0	12.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
40	131 440 ES-S2	土師器	縦	12.0	12.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
41	132 440 ES-S2	土師器	縦	12.0	12.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
42	133 440 ES-S2	土師器	縦	12.0	12.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
43	134 442 ES-S2	土師器	縦	12.0	12.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
44	135 716 ES-A-209	土師器	縦	12.0	12.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
45	136 716 ES-A-206	土師器	縦	12.0	12.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
46	137 715 ES-A-206	泥瓦器	杯形	9.0	9.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
47	138 668 ES-A-206	泥瓦器	杯形	9.0	9.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
48	139 717 ES-A-209	泥瓦器	杯形	9.0	9.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
49	140 667 ES-A-209	質粗	横	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
50	141 361 ES-SK1	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
51	142 380 ES-SK1	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
52	143 269 ES-SK2	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
53	144 263 ES-SK3	深井器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
54	145 264 ES-SK3	深井器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
55	146 265 ES-SK3	深井器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
56	147 267 ES-SK4	深井器	杯	11.0	11.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
57	148 268 ES-SK4	深井器	杯	11.0	11.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
58	149 269 ES-SK5	深井器	杯	11.0	11.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
59	150 256 ES-SK5	深井器	片口鉢	11.0	11.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
60	151 256 ES-SK6	深井器	片口鉢	11.0	11.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
61	152 254 ES-SK6	深井器	縦	11.0	11.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
62	153 255 ES-SK6	深井器	縦	11.0	11.0	3.5	3.5	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
63	154 262 ES-SK6	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
64	155 260 ES-SK6	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
65	156 261 ES-SK6	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
66	157 257 ES-SK6	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
67	158 258 ES-SK6	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
68	159 259 ES-SK7	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
69	160 251 ES-SK7	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
70	161 251 ES-SK7	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
71	162 252 ES-SK8	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
72	163 249 ES-SK8	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物
73	164 249 ES-SK8	土師器	縦	12.0	12.0	4.0	4.0	2.5	反白	灰白	良	33.7°	33.7°	33.7°	33.7°	在地	ロウロウ土器、実物

第6表 土器・陶磁器觀察表 5

第7表 土器・陶器器物表6

器名 番号	附記	出土地点	縦幅	横幅	口径(cm)	高さ(cm)	色調(外・内面)	胎土	焼成	断面(内)	断面(外)	備考
34	208 210 F区 SK19	土器皿	土器	最大長3.6 最大幅3.1	孔径1.4~ 1.6	高さ1.6	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
210 210 F区 SK19	土器皿	土器	最大長3.6 最大幅3.1	孔径1.5			灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
211 220 F区 SK19	土器皿	土器	最大長3.2 最大幅3.0	孔径1.7			灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
212 217 F区 SK19	土器皿	土器	最大長3.0 最大幅3.0	孔径1.7			灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
213 216 F区 SK19	土器皿	土器	最大長3.5 最大幅3.5	孔径1.8~ 2.0			灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
214 219 F区 SK19	土器皿	土器	最大長3.5 最大幅3.5	孔径1.8	孔径2.0		灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
215 212 F区 SK19	土器皿	土器	最大長3.3 最大幅3.1	孔径1.8			灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
216 213 F区 SK19	土器皿	土器	最大長3.3 最大幅3.5	孔径1.5~ 1.7			灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
217 214 F区 SK19	土器皿	土器	最大長3.4 最大幅3.5	孔径1.6			灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
218 204 F区 SK21, SK19	土器皿	土器	要?		(0.2)	浅黄褐色	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
219 200 F区 SK21, SK23	土器皿	土器	要?		(14.0)	灰白	灰白色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
220 528 F区 SK21	陶器	陶器	最大長3.6 最大幅3.6		(32.6)	灰褐色	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
221 526 F区 SK21	陶器	陶器	最大長3.6 最大幅3.6		(17.1)	灰褐色	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
222 529 F区 SK21	陶器	陶器	最大長3.6 最大幅3.6		(25.3)	灰褐色	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
223 205 F区 SK21	陶器	陶器	最大長3.6 最大幅3.6		(15.5)	灰褐色	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
224 527 F区 SK21	陶器	陶器	最大長3.6 最大幅3.6		(17.2)	灰褐色	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
225 522 F区 SK21	陶器	陶器	最大長3.6 最大幅3.6		(15.1)	灰褐色	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
226 222 F区 SK21	土器皿	土器	最大長3.6 最大幅3.6	孔径1.4	孔径1.4		灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
227 203 F区 SK21	土器皿	土器	最大長3.6 最大幅3.6	孔径1.6	孔径1.6		灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
228 224 F区 SK22	陶器	陶器	最大長3.6 最大幅3.6		(17.2)	灰褐色	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
229 223 F区 SK22	土器皿	土器	最大長3.6 最大幅3.6		(17.2)	灰褐色	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
230 277 F区 SK22	土器皿	土器	最大長3.6 最大幅3.6	孔径1.5~ 1.6	孔径1.5~ 1.6		灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
231 271 F区 SK23	陶器	陶器	最大長3.6 最大幅3.6	孔径1.5~ 1.6	孔径1.5~ 1.6		灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
232 276 F区 SK23	土器皿	土器	最大長3.6 最大幅3.6	孔径1.6	孔径1.6		灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
233 274 F区 SK23	土器皿	土器	最大長3.6 最大幅3.6	孔径1.6~ 1.7	孔径1.6~ 1.7		灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
234 277 F区 SK25	陶器	陶器	最大長3.6 最大幅3.6		(36.3)	灰	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
235 520 F区 SK26	陶器	陶器	最大長3.6 最大幅3.6		(36.3)	灰	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
236 285 F区 SK27	土器皿	土器	最大長3.6 最大幅3.6		(18.0)	灰褐色	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
237 290 F区 SK27	陶器	陶器	最大長3.6 最大幅3.6		(14.0)	灰褐色	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
238 206 F区 SK27	陶器	陶器	最大長3.6 最大幅3.6		(18.0)	灰褐色	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面
239 312 F区 SK27	陶器	陶器	最大長3.6 最大幅3.6		(18.0)	灰褐色	灰褐色	灰	良	灰	灰	最高2.2m、重量 (75.4kg)、一般剖面

第8表 土器・陶磁器觀察表7

番号	出土地点	地質	縦幅	横幅	口径(m)	底径(m)	標高(m)	色調(内側)	色調(外側)	底土	焼成	調査(内)	調査(外)	产地	備考
35	240 261 F区	SK27	黒田	黒				灰~灰白	灰~灰白	灰	良	加賀	羽印		
241	273 F区	SK27	黒田	黒				灰	灰	灰	好烧合	良	佳	浜井文	
242	275 F区	SK27	黒田	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
243	279 F区	SK27	黒田	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
244	259 F区	SK27	黒田	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
245	259 F区	SK27	黒田	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
246	292 F区	SK27	黒田	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
247	274 F区	SK27	黒田	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
248	279 F区	SK27	黒田	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
249	290 F区	SK27	黒田	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
250	250 F区	SK28	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
251	279 F区	SK28	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
252	297 F区	SK28	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
253	278 F区	SK28	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
254	521 F区	SK28	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
255	291 F区	SK28	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
256	254 F区	SK28	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
257	292 F区	SK28	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
258	276 F区	SK28	黒田	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
259	295 F区	SK28	黒田	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
260	287 F区	SK28	黒田	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
261	293 F区	SK28	黒田	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
262	279 F区	SK28	黒田	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
263	301 F区	SK29	天目茶碗	白				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
264	305 F区	SK29	天目茶碗	白				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
265	311 F区	SK29	天目茶碗	白				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
266	302 F区	SK29	天目茶碗	白				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
267	310 F区	SK29	天目茶碗	白				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
268	302 F区	SK29	天目茶碗	白				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
269	298 F区	SK29	天目茶碗	白				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
270	294 F区	SK29	天目茶碗	白				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
271	315 F区	SK30	施器	平底				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
272	313 F区	SK30	施器	平口鉢				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
273	314 F区	SK30	施器	平底				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
274	317 F区	SK30	施器	平口鉢				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
275	316 F区	SK30	施器	平口鉢				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
276	318 F区	SK32	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
277	320 F区	SK33	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
278	319 F区	SK33	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
279	321 F区	SK33	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
280	322 F区	SK35	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
281	323 F区	SK35	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
282	325 F区	SK35	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
283	324 F区	SK35	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
284	323 F区	SK39	土師器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	
285	328 F区	SK40	須恵器	黒				灰	灰	灰	好燒合	良	佳	浜井文	

番号	通号	部会	出土地點	種別	種類	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	標高(m)	色調(内/外)	被覆(?)	地味	焼成	調査(?)	产地	備考	
36	227	F区	SK40	陶器	壺	17	12.4	14	にぶい	白	砂質、先端を少し含む 「ひがみ」の字	良	やや灰っぽい	馬頭の為不採	越前	淡輪が風	
287	329	F区	SK41	青花?	壺	17	12.4	14	やや灰っぽい	白	砂質、先端を少し含む 「ひがみ」の字	良	やや灰っぽい	馬頭の為不採	中国?	無	
288	330	F区	SK42	土器器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	細緻の砂粒、薄 燒成	良	37.0°	33.7°	無	無	
289	331	F区	SK42	青花?	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	細緻の砂粒、薄 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	火燒き運井 瓦物、内側ハケなし、 外側に毫毛	
290	338	F区	SK45	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	關戸	無	
291	341	F区	SK45	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	關戸	反覆	
292	344	F区	SK45	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	加賀?	無	
293	334	F区	SK45	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	加賀?	無	
294	336	F区	SK45	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	加賀?	無	
295	340	F区	SK45	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側深青色 内側淡青色	
296	337	F区	SK45	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
297	339	F区	SK45	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
298	333	F区	SK45	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
299	343	F区	SK47	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
300	344	F区	SK47	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
301	343	F区	SK47	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
302	348	F区	SK47	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
303	352	F区	SK48	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
304	347	F区	SK48	陶器	片	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
305	250	F区	SK48	土器器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
306	251	F区	SK48	土器器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
307	346	F区	SK48	土器器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
308	349	F区	SK48	土器器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
37	309	346	F区	SK48	土器器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色
310	353	F区	SK49	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
311	352	F区	SK49	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
312	354	F区	SK49	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
313	355	F区	SK51	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
314	356	F区	SK51	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
315	360	F区	SK51	陶器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
316	357	F区	SK51	陶器	鉢?	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
317	358	F区	SK51	土器器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
318	362	F区	SK52	土器器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
319	364	F区	SK52	土器器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
320	361	F区	SK52	土器器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
322	365	F区	SK53	土器器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
323	366	F区	SK54	土器器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	
324	369	F区	SK55	土器器	壺	17	12.4	14	高台形(6.0)	白	黄色味をおびた白 燒成	良	37.0°	33.7°	中國	外側青色 内側淡青色	

第10表 土器・陶磁器觀察表 9

第11表 土器・陶磁器觀察表10

第12表 土器・陶磁器觀察表

番号	器物名	出土地点	縦径(cm)	横径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	底面(内面)の形状	底面(外面)の形状	底底	底底	底底	底地
41	4605 285	F区 SD9				4.9	(1.8)	溶接部	黑色合口底	白色合口底	白色合口底	白色合口底	内面に合口部
461	388	F区 SD9				4.4	(1.8)	溶接	白色	白色	白色	白色	内面に合口部
462	381	F区 SD9						内面、外面、底	底	底	底	底	内面に合口部
463	461	F区 SD9						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
464	462	F区 SD9, A-25-2-2区4.5-10						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
465	396	F区 SD9						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
466	462	F区 SD9						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
467	384	F区 SD9						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
468	365	F区 SD9						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
469	420	F区 SD9						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
470	420	F区 SD9						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
471	467	F区 SD9						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
472	426	F区 SD9						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
473	365	F区 SD10						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
474	382	F区 SD10						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
475	460	F区 SE1						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
476	462	F区 SE1(井戸内)						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
477	461	F区 SE1						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
478	346	F区 SF1						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
479	542	F区 SF1						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
480	543	F区 SF1						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
481	546	F区 SF1						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
482	545	F区 SF1						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
483	547	F区 SF1						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
484	543	F区 SF1						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
485	573	F区 SF1						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
486	540	F区 土器B、系球						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
487	529	F区 土器C						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
488	528	F区 土器C						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
489	537	F区 土器C						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
490	573	F区 土器B、土器Cの底脚と同						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
491	557	F区 土器A						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
492	554	F区 土器B、系球						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
493	556	F区 土器						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
494	572	F区 土器上部相当						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
495	593	F区 (上部)						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
496	560	F区 イロハバ2-2区5号						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部
497	603	F区 イロハバ2-2区5号						内面、底	底	底	底	底	内面に合口部

第14表 土器・陶器器形表表13

地図	地名	断面	出土状況	縦横(m)	横幅(cm)	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	色調(内/外)	底土	焼成	調査(外)	底地	備考	
43	493 646	F区	-1.25m-1.34m区合倉 原、側面当 直角器	底口器	2.4	(14.5)	(16.7)	灰	やや赤い、 黒褐色含みの灰	直	31.4°	31.4° 平行外張火目、 平行外張火目			
499 606	F区	イロハ-ヤ-21-23区合倉 原、側面当 直角器	土器器	底	(8.6)	7.2	3.2	浅腹器	浅黄	にぶい	31.1°	31.1°	在地	ロクシカ地	
520 562	F区	直角器合倉	土器器	底	6.6				少	少			在地	黑色地付 白色地、クロコ原形	
561 566	F区	直角器合倉	土器器	底	8.5				少	少			在地	少	
592 569	F区	直角器合倉	土器器	底	8.1				少	少			在地		
593 570	F区	直角器合倉	土器器	底	8.1				少	少			在地		
44	594 613	F区	0.23-24区合倉	陶器	平底	(5.1)	(1.0)	4.7-7.7 直	白	自 やや黄味含み かかく黄味含	直	31.4° 11°、圓底切	底	反転	
505 544	F区	直角器合倉	陶器	天目器	5.1				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
506 549	F区	直角器合倉	陶器	天目器	5.1				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
527 563	F区	イロハ-ヤ-1-21区合倉	陶器	天目器	5.1				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
528 562	F区	イロハ-ヤ-1-22-23区合倉	陶器	天目器	5.1				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
529 595	F区	イロハ-ヤ-1-23区合倉	陶器	天目器	5.1				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
530 613	F区	イロハ-ヤ-1-24区合倉	陶器	天目器	5.1				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
511 622	F区	イロハ-ヤ-1-25区合倉	陶器	天目器	5.1				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
512 591	F区	イロハ-ヤ-1-26区合倉	陶器	天目器	5.1				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
513 598	F区	イロハ-ヤ-1-27区合倉	陶器	天目器	5.1				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
514 563	F区	直角器合倉	陶器	折腰深	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
515 600	F区	イロハ-ヤ-1-28区合倉	陶器	折腰深	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
516 610	F区	イロハ-ヤ-1-29区合倉	陶器	折腰深	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
517 559	F区	直角器合倉	陶器	折腰深	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
518 633	F区	イロハ-ヤ-28-1-29区合倉	陶器	香炉	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
519 677	F区	イロハ-ヤ-28-2-29区合倉	陶器	片口器	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
520 641	F区	イロハ-ヤ-28-3-29区合倉	陶器	片口器	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
521 602	F区	イロハ-ヤ-21-23区合倉	陶器	器	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
522 607	F区	イロハ-ヤ-21-23区合倉	陶器	器	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
523 644	F区	イロハ-ヤ-26-27区合倉	陶器	片口器	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
524 645	F区	イロハ-ヤ-26-27区合倉	陶器	器	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
525 670	F区	イロハ-ヤ-28区合倉下形	陶器	器	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
526 630	F区	イロハ-ヤ-28-29区合倉	陶器	器	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
527 553	F区	直角器合倉	陶器	器	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
528 676	F区	直角器合倉	陶器	器	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
529 561	F区	直角器合倉	陶器	器	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
530 647	F区	イロハ-ヤ-26-27区合倉	陶器	器	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
45	531 577	F区	イロハ-ヤ-23-25区合倉 (上部)	陶器	器	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底
532 589	F区	文部省規定器規式	陶器	器	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	
533 661	F区	文部省規定器規式	陶器	器	6.6				白	自	31.4°	31.4°	底	底	

第15表 土器・陶磁器觀察表14

第16表 土器・陶器器類表15

番号	所在地	断面形状	出土位置	種別	種類	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	色調(外・内)	底状(外・内)	底模	調査(内)	調査(外)	底地	備考
底の有無															
45	573 614	F区 0-23-24区包含層	陶器	皿	深盤	(4.0)	深白	ややラフなつた	底から芯を含み つたい	良	良	底なし、底付	底なし、底付	底地	底付
534 619	F区 0-24区包含層	陶器	皿	深盤	深盤	(12.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
575 619	F区 0-23-24区包含層	陶器	皿	深盤	深盤	(12.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
577 552	F区 0-23-24区包含層	陶器	皿	深盤	深盤	(12.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
578 650	F区 0-23-24区包含層	陶器	皿	深盤	深盤	(12.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
46	579 675	F区 0-23-24区包含層	陶器	皿	深盤	(12.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
580 652	F区 0-23-24区包含層	陶器	皿	深盤	深盤	(12.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
581 591	F区 (上部)	陶器	鉢	鉢	深盤	(11.5)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
582 643	F区 印文-23区包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
583 671	F区 印文-23区包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
584 572	F区 表面包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
585 605	F区 印文-23区包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
586 651	F区 0-23-24区包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
587 632	F区 印文-23区包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
588 612	F区 印文-23区包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
589 643	F区 印文-23区包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
590 638	F区 (上部)	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
592 608	F区 印文-23区包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
593 637	F区 印文-23区包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
594 631	F区 0-23-24区包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
595 573	F区 表面包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
596 560	F区 印文-23区包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
597 660	F区 印文-23区包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
598 601	F区 (中)	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
599 574	F区 表面包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
600 616	F区 0-23-24区包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
601 567	F区 (上)	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
602 660	F区 印文-23区包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
603 579	F区 印文-23区包含層	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付
604 590	F区 (上部)	陶器	鉢	鉢	深盤	(5.6)	深白	8.7フマ	底付	良	良	底付	底付	底付	底付

第17表 土器・陶磁器觀察表

採集地名	採集地番号	採集日	出土地点	種別	特徴	口径 (cm)	底性 (cm)	高さ (cm)	色調(内) (地)	色調(外) (地)	底土	性状	調査(内)		調査(外)		地帯	備考
													横幅	深幅	横幅	深幅		
新潟県柏崎市	605	623	F区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.6	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟
46	625	623	F区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟
627	687	F区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
626	596	F区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	(1.1)	青みを帯びた白	乳白	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟
629	633	F区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.7	(2.4)	やや青みを帯びた白	乳白	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟
631	595	F区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.7	(1.6)	青みがかった白	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟
47	611	592	F区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟
621	621	F区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	(2.0)	少し黄色を帯びた白	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟
614	629	F区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
615	613	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
616	616	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
617	681	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
618	618	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
619	713	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
620	712	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
621	711	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
622	714	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
623	691	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
624	691	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
625	691	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
626	693	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
627	690	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
628	703	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
629	694	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
630	695	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
631	696	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
632	697	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
633	702	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
634	701	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
635	698	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
636	699	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
637	700	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
638	704	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
639	698	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
640	695	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
641	706	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
642	705	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
644	708	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
645	710	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
646	709	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
647	710	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	
648	709	H区 八ヶ岳自然公園	森林	森林	0.5	0.5	0.5	白色	白色	砂質	良	0.5	0.5	0.5	0.5	近畿	新潟	

第2節 木製品・漆器・石製品・金属製品・土製品・錢貨 (第48~57図)

木製品 第48図はいずれもA区凹地出土の遺物である。1・2は刷毛である。1の側面に漆が付着していることから、漆塗に用いられた可能性がある。3~10は桶もしくは樽の底板である。7には矧ぎ合わせに用いた木釘の穴が見られる。11・12は桶・樽の側板である。16は柄杓で、柄が失われている。

第49図の17・21は楕円形の曲物の底板である。18は舟形木製品である。19・20は浅い結桶の側板である。21~31はA区凹地から出土したもので、27は楕円形曲物の底板である。

第50図は、F区の石組井戸SE 1の井戸側として用いられた結桶の側板である。42・43・45は折損していないものである。この寸法を見ると、高さ93cmの結桶で、側板の幅は均一ではなく、最も広い41が12.1cm、最も狭い45が5.4cmである。側面は平滑に仕上げられており、台カンナの使用が想定される。

漆器 第51図1~18は漆器類である。1、2、18は内外面黒色の総黒色漆器で、外面には赤色漆による加飾が施される。9、11は総赤色漆器で9は茶色味が強い。11は高台内のみを黒色とし、赤で「吉」字を入れる。残りは内面赤色外面黒色漆器である。10の高台疊付付近には8つの小孔が等間隔に巡る。目的等は不明。13、14の外面には家紋状の文様が入る。19は縁部に木釘穴がみられる折敷状の板片である。内面赤色で、ほとんど黒色漆の剥がれた外面には刀子傷のような直線的な切り痕が残る。俎板として転用されたものか。なお、漆器の多くは、凹地内からの出土である。時期的には16世紀代の製品が多いように思われる。

石製品 ここでは砥石、行火のほか、本来は石造遺物として報告すべき遺物を報告する。

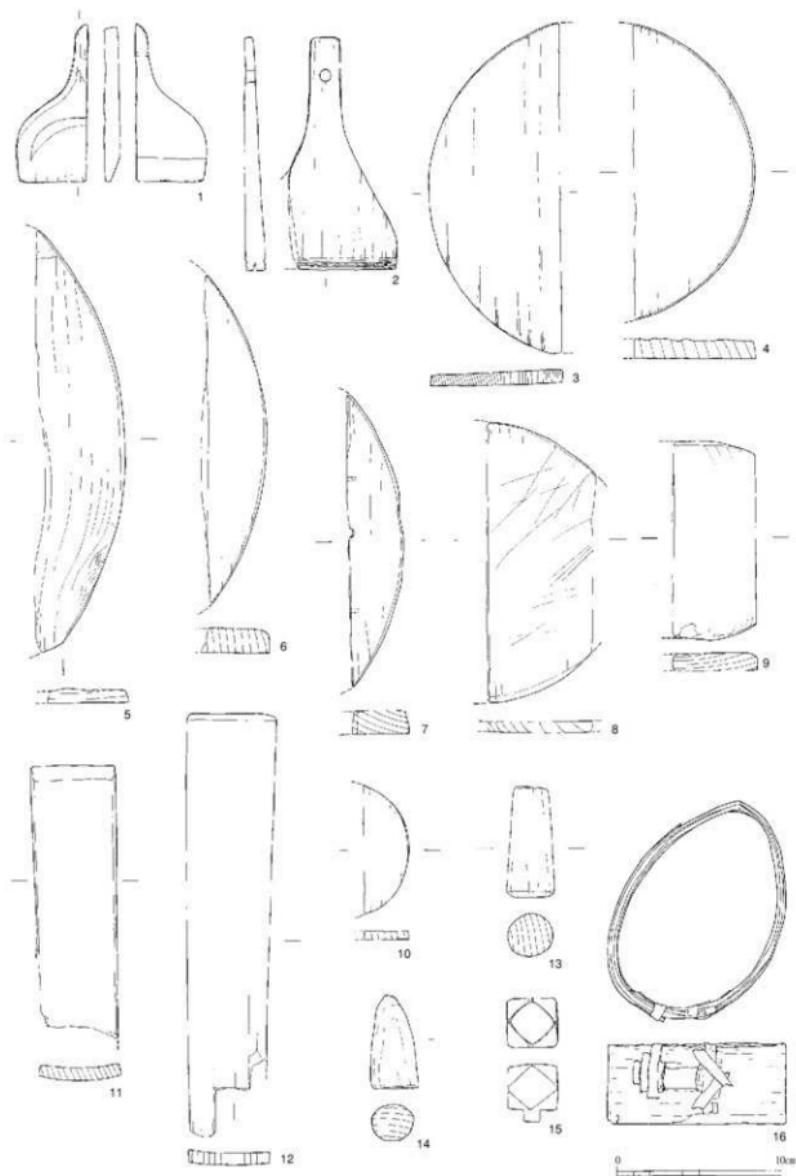
第52図の1~5は、D、E、F各区出土の砥石である。3は中央に溝が入っており、おもり等に転用されたものであろうか。6~9はF区SK14出土で、6・7は石鉢、8・9は行火である。いずれも凝灰岩製である。12~14・16・17はSK21出土である。12・13は荒砥石、14・15は仕上砥石と見られる。

第53図の18はF区SK28出土の茶臼である。19・20はSD 1出土で、19は粘板岩製の硯である。21はSD 5出土の砥石で、仕上砥石であろう。22~24はF区SD 7出土で、22・23が砥石、27~29はF区SF 1の石鉢である。30~34は包含層出土遺物である。30は硯で、滋賀県高島産の可能性がある。31・32は砥石、33・34は凝灰岩製の行火である。

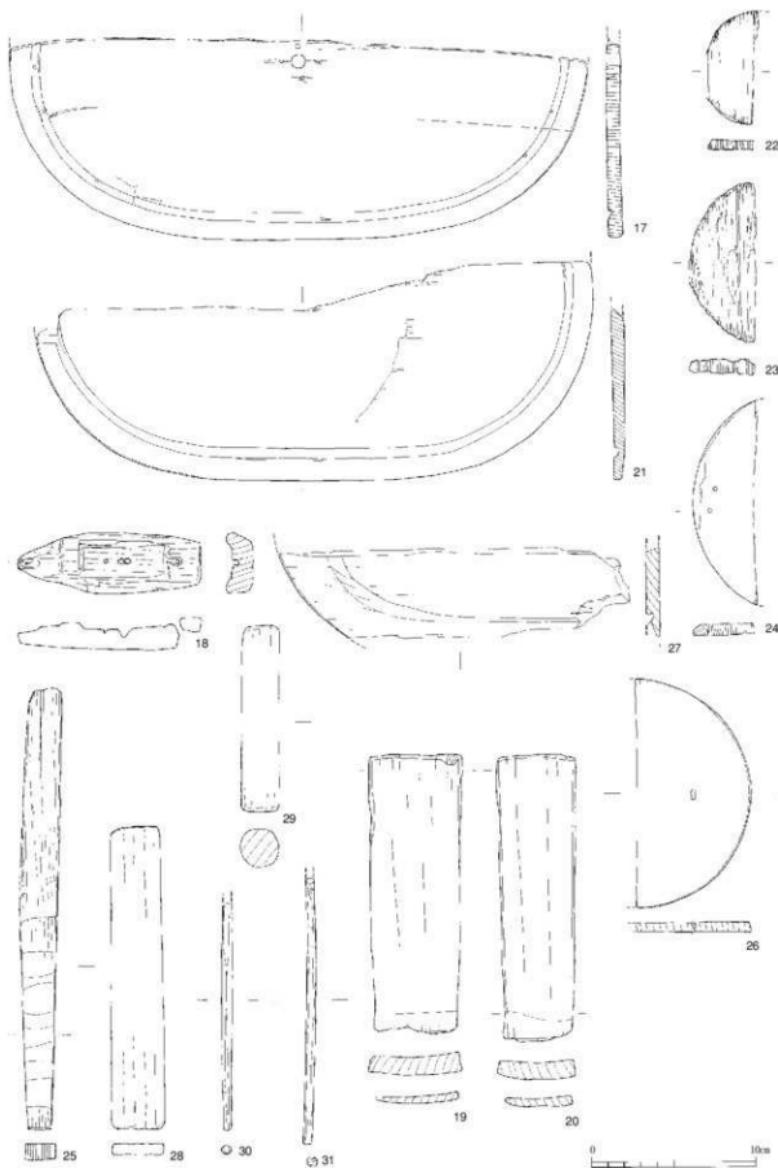
第54・55図には石臼、石造遺物を示した。第54図の35・36はD区大溝出土である。35は石臼の上臼で、目は8分画である。38はF区SK 7出土の下臼で、8分画である。39~43はF区SK14出土で、39~42が上臼、43が下臼である。いずれも8分画である。45はSK15出土、46はSK19出土の下臼、44・47はSK21出土の上臼である。48~50はSK46出土の石臼。52・53はSD 4出土で、53は板碑である。五輪塔陽刻板碑で、上部を五輪塔の火輪のように造り、頂部には宝珠を造り出す。下半は欠失している。金沢西部地区には、15世紀後半から16世紀前半にかかる小型の板碑が確認されており、金石の久昌庵にはかつて五輪塔陽刻板碑が存在した。しかし、本例は、金沢西部地区はもとより石川県内でも例を見ないものである。

第55図には井戸SE 1から出土した石臼と石造遺物を示した。いずれも井戸に投棄されたものであろう。55~64は臼である。このうち、55~62が上臼で、63・64が下臼である。55が6分画、64が8分画で、63は4分画のように見える。65~72は石塔である。65・66は宝篋印塔の笠で、67・68が五輪塔の火輪である。69は水輪で、70~72が宝篋印塔もしくは五輪塔の基礎・地輪である。前述の板碑も含めて当遺跡でまとまった石塔が出土していることから、近くに中世後期の墓域が存在したと考えられる。

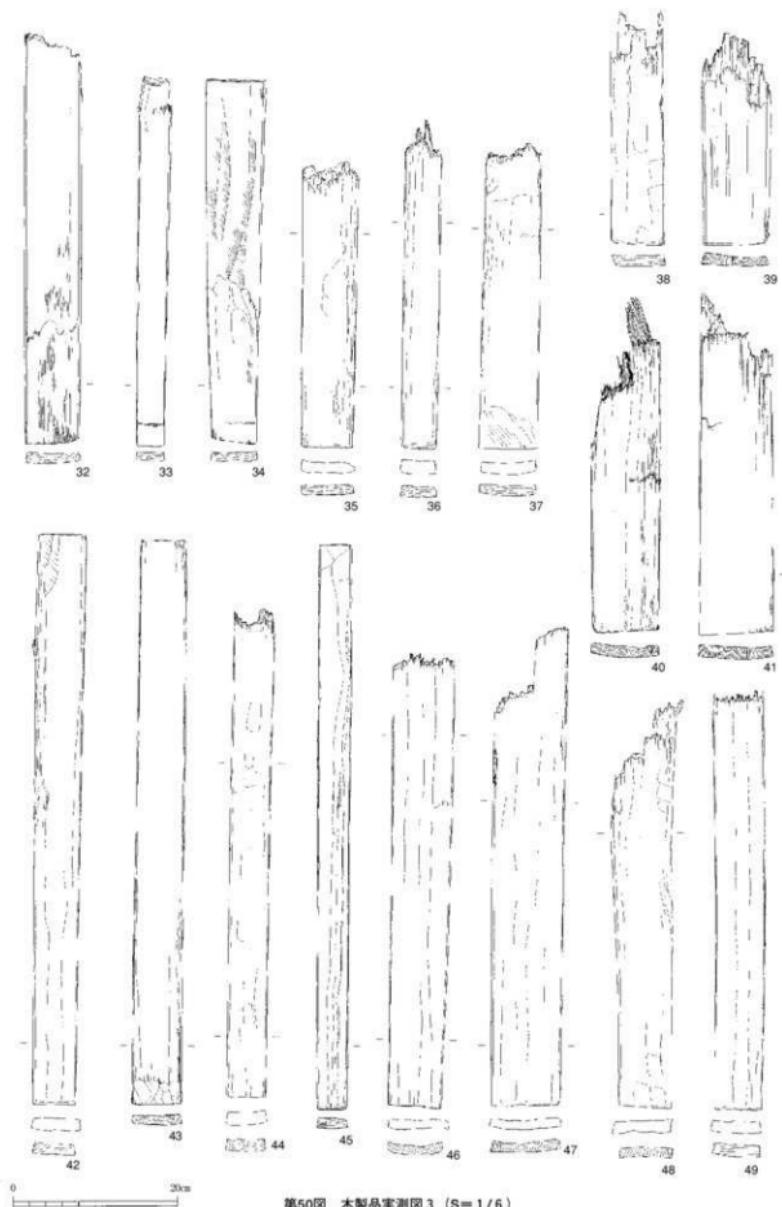
金属製品・土製品・錢貨 金属製品として鉄滓と銅製品・鉄製品を報告する。第56図の1~6・8~15は鉄滓である。鉄滓はF区で20点以上出土しており、フイゴの羽口も出ていることから、小鍛冶が行われていたと考えられる。16は銅製で椀の底部か。土製品には第56図7・第57図の1~5に示したフイゴの羽口と6のルツボがある。錢貨は5点出土している。第57図7~10は、北宋錢であろう。



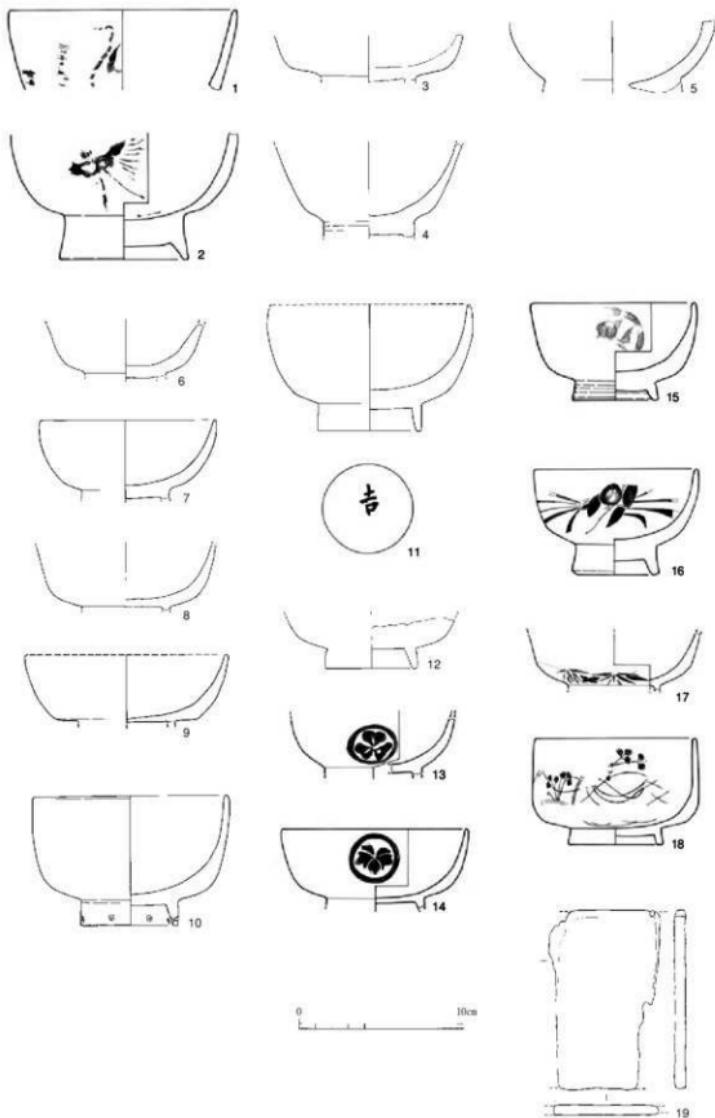
第48図 木製品実測図1 (S=1/3)

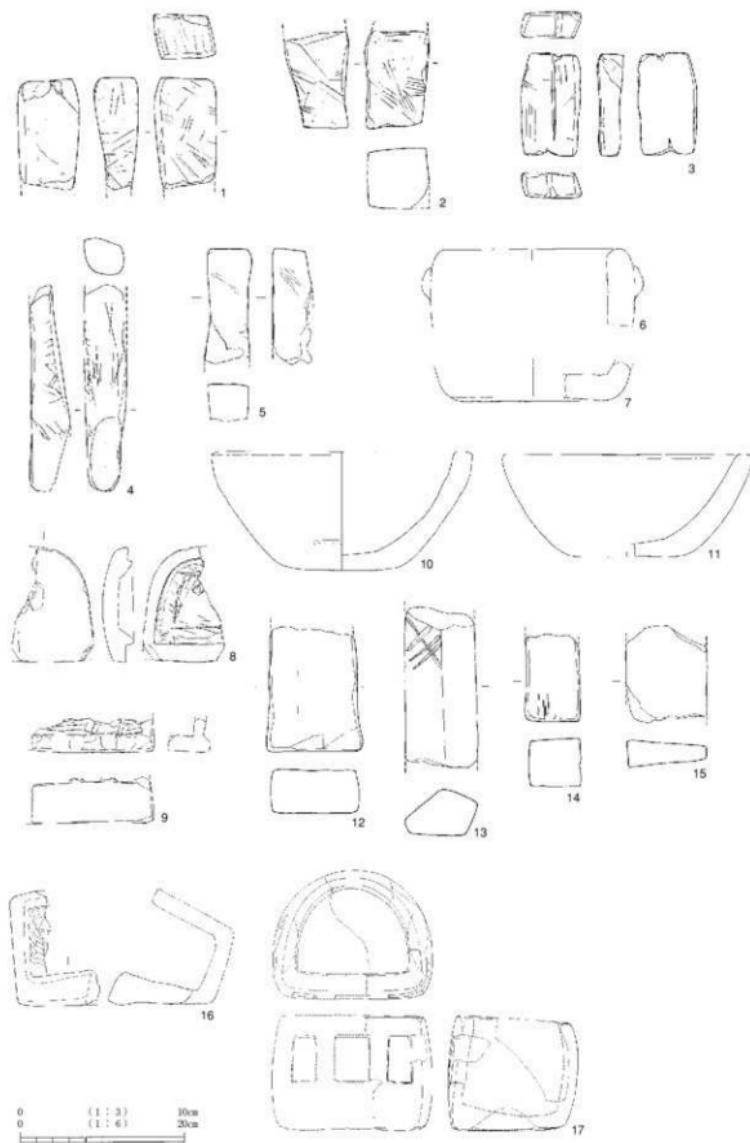


第49図 木製品実測図 2 (S=1/3)



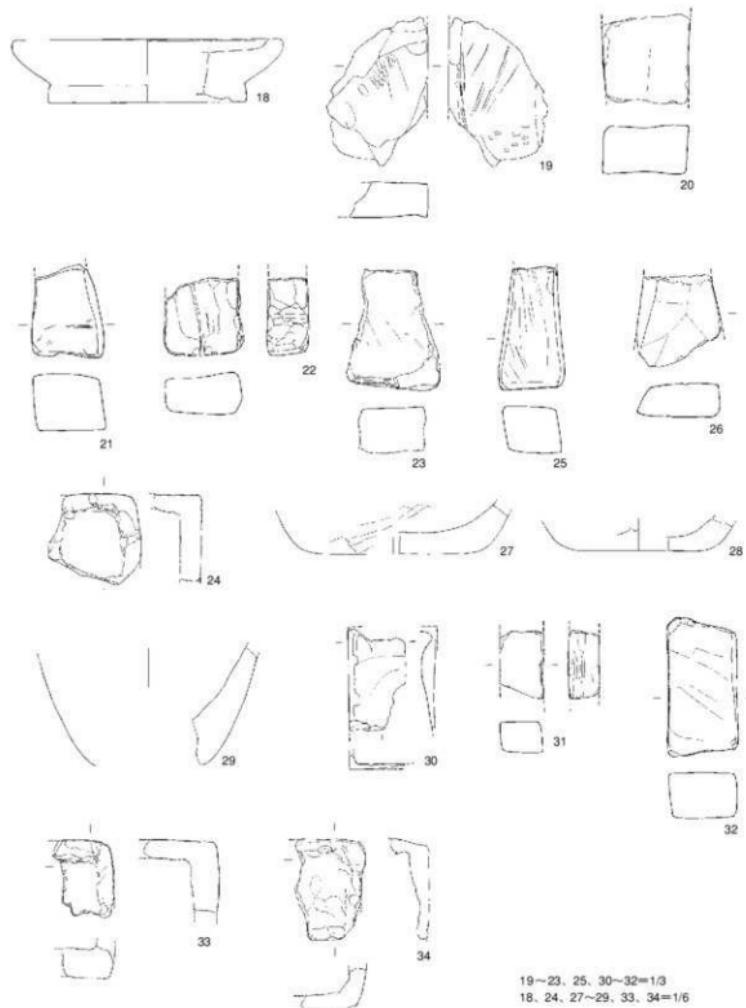
第50図 木製品実測図 3 (S=1/6)

第51図 漆器実測図 ($S=1/3$)



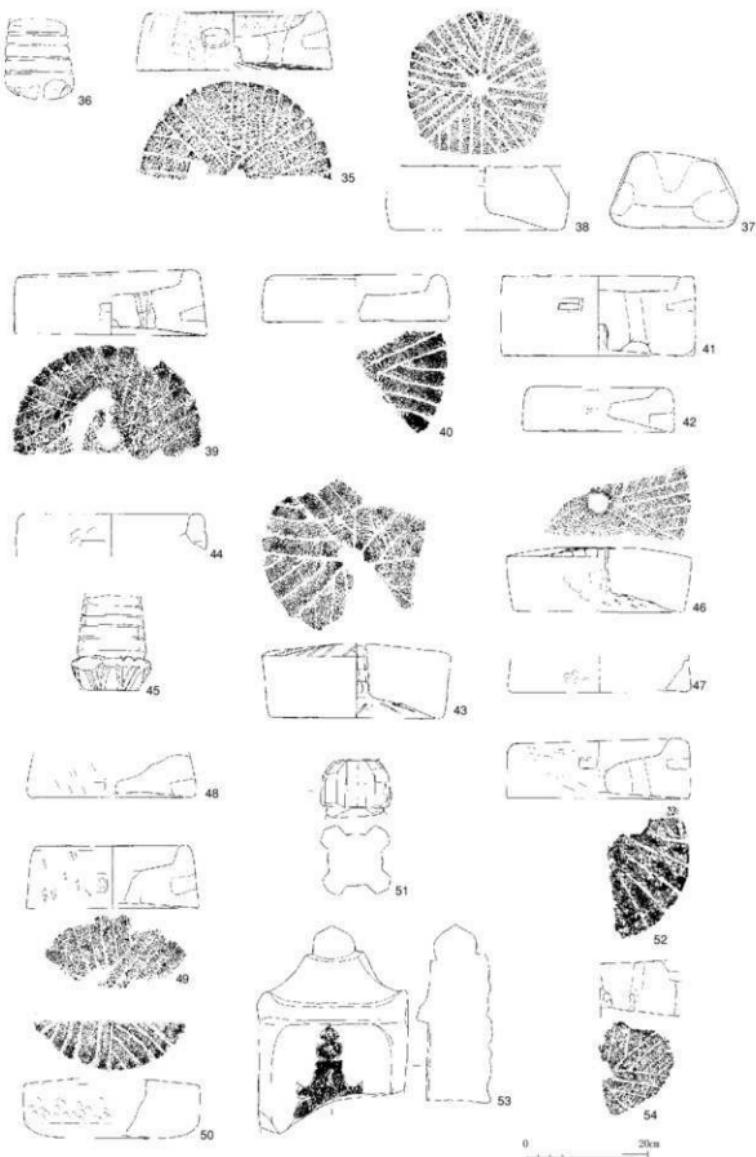
第52図 石製品実測図1 (S=1/3・1/6)

1~5, 12~15=1/3
6~11, 16, 17=1/6

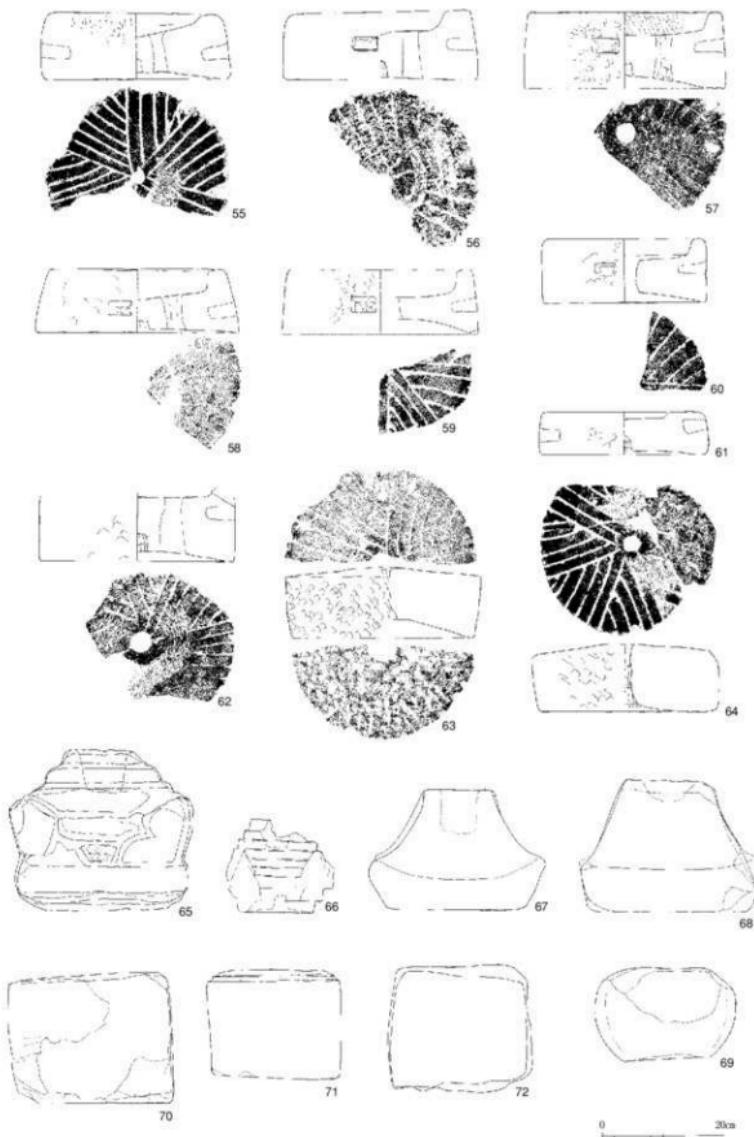


0 (1 : 3)
0 (1 : 6)
10cm
20cm
3

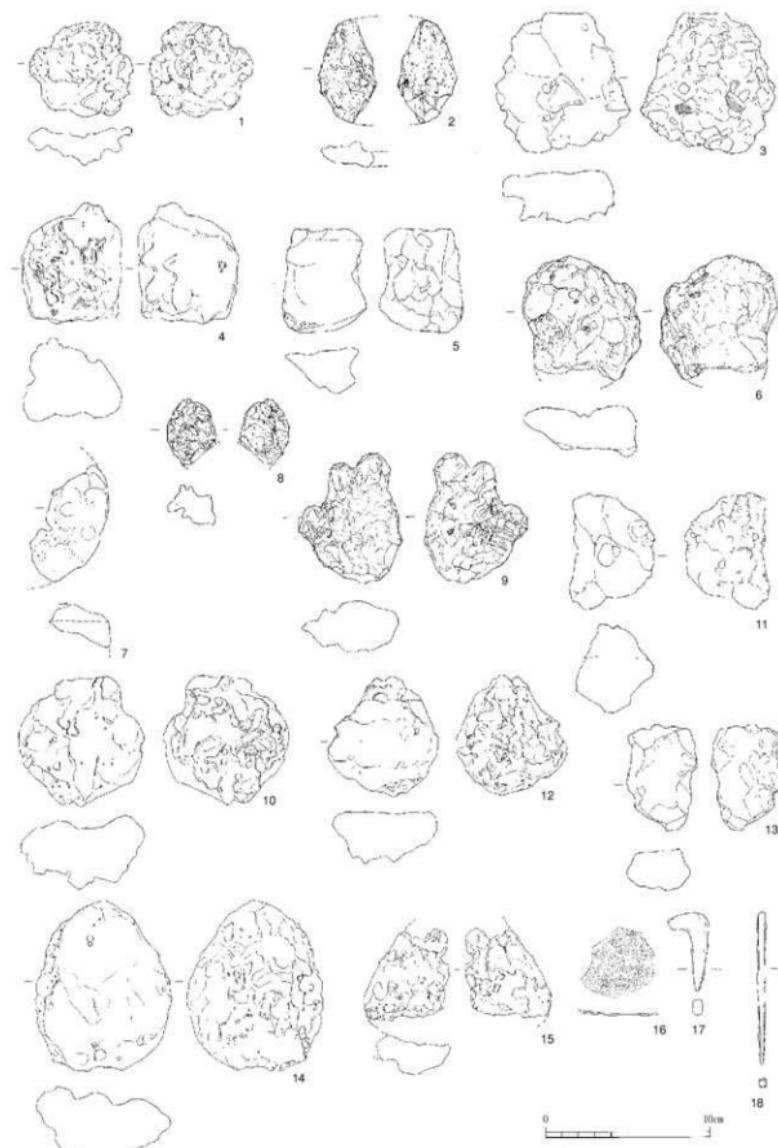
第53図 石製品実測図 2 (S=1/3 + 1/6)



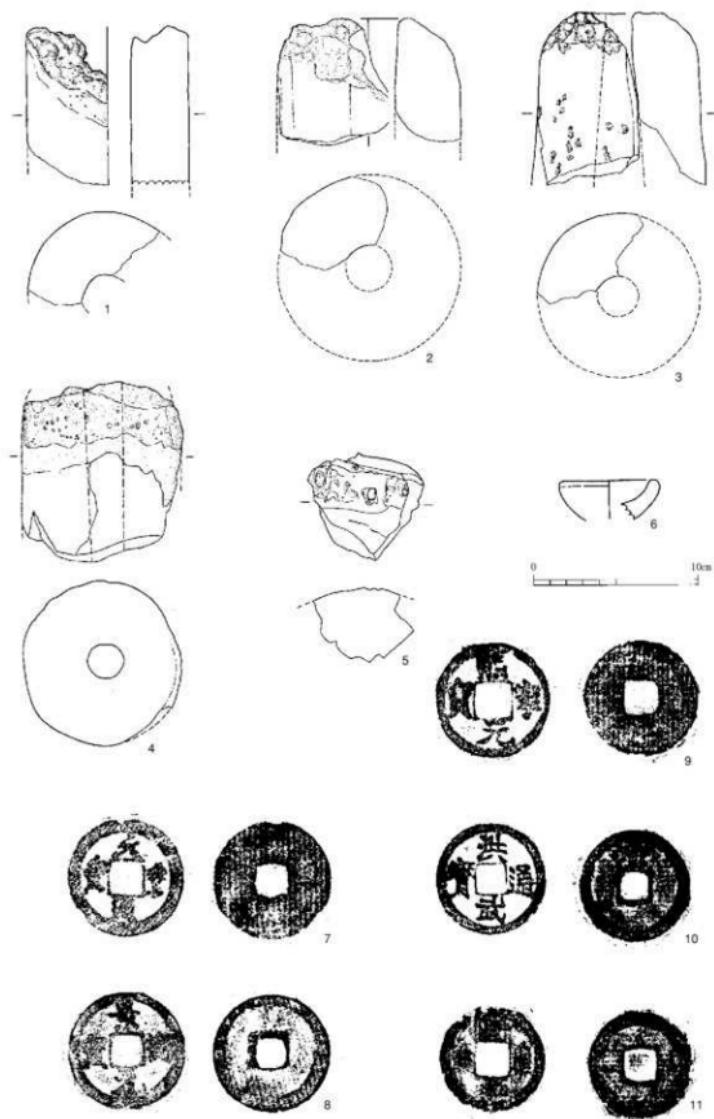
第54図 石製品実測図3 (S=1/8)



第55図 石製品実測図 4 (S=1/8)



第56図 金属製品実測図 ($S = 1/3$)



第57図 土製品・銭貨実測図 (S=1/1・1/3)

1~6=1/3
7~11=1/1

第18表 木製品観察表

拂団番号	報告番号	実測番号	調査区	出土地点	種別	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)	備考
48	1	229	A区	A-5区 囗地内	刷毛	14.3	6.5	1.2	
	2	232	A区	A-5区 囗地内	刷毛	9.7	10.2		側面に漆痕
	3	211	A区	A-5区 囗地内	刷毛	20.4	8.1	0.8	
	4	214	A区	A-5区 囗地内	刷毛	18.2	7.5	1.3	
	5	237	A区	A-5区 囗地内	刷毛	26.0	4.9	1.4	
	6	233	A区	A-5区 囗地内	刷毛	20.1	4.5	1.6	
	7	209	A区	A-5区 囗地内	刷毛	18.0	3.4	1.5	
	8	234	A区	A-5区 囗地内	刷毛	17.4	7.7	6.5	
	9	208	A区	A-5区 囗地内	刷毛	(12.2)	5.1	1.1	
	10	216	A区	A-5区 囗地内	刷毛	7.9	2.8	0.5	表面に漆様の付着あり
	11	207	A区	A-5区 囗地内	刷毛	(16.9)	5.2	0.9	内部全面に漆様の付着あり
	12	218	A区	A-5区 囗地内	刷毛	26.0	5.6	0.7	
	13	221	A区	A-5区 囗地内	栓	6.8	2.9	2.6	
	14	220	A区	A-5区 囗地内	栓	5.7	2.9	2.2	
	15	210	A区	A-5区 囗地内	栓	3.5	3.1		
	16	特17	A区	B-4区 囗地内	柄杓	口径12.2	器高4.9		
49	17	1	D区	A-1~19区 大溝	舟型木製品	口径21.3	器高(2.6)	全面漆	
	18	270	D区	A-1~19区 大溝	舟型木製品	11.2	3.7	1.6	
	19	4	D区	A-1~19区 大溝	刷毛	17.4	6.6	1.0	
	20	269	D区	A-1~19区 大溝	刷毛	17.4	4.9	1.0	
	21	13	A区	A-B-5区 囗地内	曲物	34.3	12.4	0.8	
	22	9	A区	A-B-5区 囗地内	刷毛	7.0	2.8	6.5	
	23	8	A区	A-B-5区 囗地内	刷毛	9.8	4.1	0.9	
	24	244	A区	A-5区 囗地内	刷毛	12.6	3.7	7.5	
	25	12	A区	A-B-5区 囗地内	刷毛	27.2	2.3	1.0	
	26	246	A区	B-4区 囗地内	刷毛	14.0	7.0	0.7	
	27	260	A区	B-4区 囗地内	曲物	21.0	5.4	0.8	
	28	259	A区	B-4区 囗地内	刷毛	18.6	3.2	0.7	
	29	247	A区	B-4区 囗地内	刷毛	11.4	2.3	2.4	
	30	264	A区	B-4区 囗地内	刷毛	14.0	0.6	0.6	
	31	262	A区	B-4区 囗地内	刷毛	16.4	0.6	0.6	
50	32	196	F区	SE1	刷毛	67.3	9.4	2.2	
	33	195	F区	SE1	刷毛	60.4	5.1	1.6	
	34	190	F区	SE1	刷毛	59.4	9.8	1.7	
	35	14	F区	SE1	刷毛	49.9	9.6	2.0	
	36	199	F区	SE1	刷毛	53.8	6.0	2.3	
	37	184	F区	SE1	刷毛	46.7	9.1	1.8	
	38	189	F区	SE1	刷毛	38.2	8.7	2.3	
	39	192	F区	SE1	刷毛	34.8	11.1	1.9	
	40	194	F区	SE1	刷毛	54.4	11.3	1.9	
	41	193	F区	SE1	刷毛	55.9	12.1	2.0	
	42	203	F区	SE1	刷毛	92.9	8.4	2.0	
	43	201	F区	SE1	刷毛	92.1	8.1	1.7	
	44	204	F区	SE1	刷毛	80.2	6.5	2.1	
	45	202	F区	SE1	刷毛	82.3	5.4	2.3	
	46	205	F区	SE1	刷毛	74.4	10.1	1.6	
	47	206	F区	SE1	刷毛	78.2	11.7	1.8	
	48	191	F区	SE1	曲物	66.6	9.9	2.1	
	49	198	F区	SE1	刷毛	68.5	8.2	2.1	

第19表 漆器観察表

拂団監査番号	報告番号	実測番号	調査区	出土地点	種別	器種	口径(cm)	周径・高さ(cm)	器高(cm)	色調(内)	色調(外)	備考
51	1	2020	D区	A-19区 大溝下部	漆器	壺	13.8	(4.9)	黒			漆検
	2	98	D区	A-19区 大溝下部	漆器	壺		7.8	黒			漆検
	3	特13	A区	A-5区 琉灰色土中央上	漆器	壺			黒			
	4	特15	A区	A-5区 黄皮魚鱗土中央上	漆器	壺		5.4	赤			
	5	特14	A区	A-4区 東端壁櫛土層整理中	漆器	壺			赤			
	6	特12	A区	B-5区 (暗灰色粘土)	漆器	壺		5.0	赤			
	7	特91	A区	A-5区 (暗灰色下部)	漆器	壺	10.7		赤			
	8	特11	A区	A-4区 囗地内	漆器	壺		5.4	赤			
	9	特93	A区	B-5区 (暗緑色)	漆器	壺	(12.3)		赤茶	赤茶		高台剥離
	10	特92	A区	B-5区 (暗緑色)	漆器	壺	11.8	5.9	8.0	赤		高台に孔8ヶ所
	11	特97	A区	B-4区 囗地内	漆器	壺	(12.2)	6.3	1.7	赤	赤、墓台内裏	外底面に赤色漆で「吉」字
	12	特10	A区	B-4区 囗地内	漆器	壺		5.6	(3.5)	黒		
	13	特94	A区	B-4区 囗地内	漆器	壺			(3.2)	赤		漆検
	14	特99	A区	B-4区 囗地内	漆器	壺	10.4		(5.1)	赤		漆検
	15	特96	A区	B-5区 (暗灰色)	漆器	壺	9.9	5.2	6.0	赤		漆検
	16	特95	A区	B-5区 囗地内	漆器	壺	(9.9)	5.3	6.5	赤		漆検
	17	特98	A区	B-4区 囗地内	漆器	壺			(3.7)	赤		漆検
	18	特16	A区	A-B-5区 (凹地内)	漆器	壺	9.8	5.7	6.6	黒		漆検
	19	特19	A区	A-4区 凹地内	漆製品	折敷	最大長10.9	最大巾6.8	0.6	赤	黒	外面に傷痕

第20表 石製品観察表

博団 番号	報告 番号	測定 番号	調査区	出土地点	種別	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)
52	1	3	D区	A・イ-19区 大溝	砥石	6.9	3.8	2.6
	2	4	D区	A・イ-19区 大溝	砥石	5.0	4.0	3.9
	3	2	D区	A・イ-19区 大溝	砥石	6.4	3.7	1.6
	4	11	E区	B・C-17~18区 東西方中世溝	砥石	12.7	2.7	2.4
	5	49	F区	SK6	砥石	7.1	2.7	
	6	98	F区	SK14	石鉢	口径20.6		
	7	20	F区	SK14	石鉢		底径17.0	器高4.8
	8	99	F区	SK14	行火	14.2	10.0	3.4
	9	19	F区	SK14	行火	4.2	15.0	2.0
	10	44	F区	SK1, SK18, SK21	石鉢	30.0	9.0	14.6
	11	26	F区	SK19	石鉢	口径29.8	底径10.7	器高12.5
	12	41	F区	SK21	砥石	7.7	5.4	2.7
	13	42	F区	SK21	砥石	9.7	4.4	2.9
	14	43	F区	SK21	砥石	5.4	3.3	3.0
	15	45	F区	SK20	砥石	5.7	4.9	1.7
	16	37	F区	SK21	行火	14.1	10.2	4.3
	17	201	F区	SK21, SK23	行火		15.8	
53	18	31	F区	SK28	石臼	上径31.9	下径24.0	7.7
	19	56	F区	SD1	硯	8.5	6.2	2.2
	20	59	F区	SD1	砥石	5.2	5.3	3.0
	21	171	F区	SD5	砥石	5.2	4.4	3.5
	22	61	F区	SD7	砥石	4.8	4.9	2.6
	23	62	F区	SD7	砥石	7.3	5.7	2.7
	24	168	F区	SD7	行火	10.6	11.3	2.6
	25	55	F区	SD9	砥石	7.5	4.0	1.8
	26	64	F区	SD10	砥石	5.5	5.2	2.1
	27	117	F区	SF1	石鉢		底径17.0	器高(6.1)
	28	112	F区	SF1	石鉢		底径15.0	器高(4.0)
	29	180	F区	SE1	石鉢			器高(14.5)
	30	18	F区	イ～ハ-21～23区包含層	硯	(6.2)	(3.5)	(0.8)
	31	124	F区	イ-23区包含層	砥石	4.1	2.7	1.9
	32	130	F区	包含層	砥石	8.5	4.4	3.0
	33	127	F区	包含層	行火	9.3	7.3	
	34	128	F区	包含層	行火	12.3	8.2	
54	35	8	D区	A-19区 大溝	石臼	上径28.3	下径32.0	9.5
	36	9	D区	イ-19区 大溝	宝鏡印塔	13.3	11.2	
	37	170	E区	東西方中世溝	五輪塔	12.5	21.0	
	38	15	F区	SK7	石臼	上径(23.5)	下径(28.2)	10.5
	39	16	F区	SK14	石臼	上径29.8	下径30.5	10.0
	40	17	F区	SK14	石臼	上径29.3	下径29.0	7.8
	41	21	F区	SK14	石臼	上径31.0	下径30.8	13.0
	42	18	F区	SK14	石臼	上径23.6	下径24.6	7.3
	43	25	F区	SK14, SK19	石臼	上径31.0	下径27.7	12.1
	44	40	F区	SK21	石臼	上径29.1		器高5.8
	45	46	F区	SK15	宝鏡印塔	15.4	13.0	9.3
	46	27	F区	SK19	石臼	上径30.0	下径27.9	10.5
	47	39	F区	SK21	石臼		下径28.5	器高(5.2)
	48	51	F区	SK46	石臼		下径25.7	(6.9)
	49	32	F区	SK46	石臼	上径25.9	下径27.9	10.3
	50	34	F区	SK46	石臼	上径28.3	下径18.0	9.5
	51	58	F区	SD1	宝鏡印塔	9.5	11.5	
	52	164	F区	SD4	石臼	上径23.0	下径29.8	10.0
	53	165	F区	SD4	板磚	(34.0)	24.8	10.5
	54	115	F区	SE1	石臼	上径(10.3)	下径(12.0)	8.8
55	55	146	F区	SE1	石臼	上径26.0	下径29.0	10.8
	56	182	F区	SE1	石臼	上径28.0	下径31.0	11.5
	57	163	F区	SE1	石臼	上径31.7	下径32.9	12.5
	58	155	F区	SE1	石臼	上徑28.5	下徑33.0	10.4
	59	154	F区	SE1	石臼	上徑29.8	下徑(32.2)	(10.5)
	60	144	F区	SE1	石臼	上徑24.7	下徑26.5	10.5
	61	152	F区	SE1	石臼	上徑26.0	下徑26.5	7.0
	62	145	F区	SE1	石臼		下徑31.5	10.4
	63	162	F区	SE1	石臼	上徑32.0	下徑29.0	11.6
	64	149	F区	SE1	石臼	上徑29.0	下徑27.3	11.0
	65	183	F区	SE1	宝鏡印塔	30.9	30.0	26.4
	66	150	F区	SE1	宝鏡印塔	12.7	17.7	
	67	186	F区	SE1	五輪塔		28.6	高さ19.6
	68	188	F区	SE1	五輪塔	21.6	推定29.0	
	69	177	F区	SE1	五輪塔		22.0	高さ15.0
	70	175	F区	SE1(石組)	五輪塔		26.5	21.5
	71	178	F区	SE1(石組)	五輪塔		22.0	高さ17.8
	72	185	F区	SE1	五輪塔	20.6	23.5	

第21表 金属製品観察表

検査番号	報告番号	実測番号	調査区	出土地点	種別	最大長	最大幅	重さ
						(cm)	(cm)	(g)
56	1	85	F区	SK11	鉄津	5.6	6.3	82.4
	2	88	F区	SK13	鉄津(模型)	6.3	3.5	43.3
	3	79	F区	SK14	鉄津	8.4	7.8	173.0
	4	108	F区	SK14	鉄津	7.2	6.1	260.4
	5	78	F区	SK14	鉄津	6.2	5.1	95.4
	6	75	F区	SK19	鉄津	7.0	6.8	205.7
	7	76	F区	SK20	フイゴ羽口	(7.9)	(3.6)	(45.5)
	8	69	F区	SK27	鉄津	4.0	2.9	40.5
	9	87	F区	SK30	鉄津	7.8	6.2	179.8
	10	89	F区	SD1	鉄津	7.7	7.6	279.3
	11	95	F区	SD1	鉄津	7.1	5.0	160.3
	12	93	F区	SD3	鉄津	7.4	6.7	178.8
	13	92	F区	SD5	鉄津(模型)	6.4	4.1	106.7
	14	172	F区	SD6	鉄津	10.3	8.2	4.2
	15	91	F区	SD7	鉄津	5.2	5.0	65.4
	16	109	H区	SD1	銅碗底部か			(4.5) (6.7)
	17	136	F区	包含層	鉄釘	4.8	2.5	8.6
	18	120	F区	□-29区 包含層	鉄釘か	9.4	2.6	0.5

第22表 土製品観察表

検査番号	報告番号	実測番号	調査区	出土地点	種別	径(cm)
57	1	270	F区	SK11	フイゴ羽口	9.8
	2	332	F区	SK45	フイゴ羽口	11.5
	3	487	F区	SD1	フイゴ羽口	10.8
	4	459	F区	SE1	フイゴ羽口	9.9
	5	303	F区	SK29	フイゴ羽口	
	6	401	A区	A-B-4区 凹地	坩堝	口径5.6

第23表 銭貨観察表

検査番号	報告番号	実測番号	調査区	出土地点	銭種	銭文	径(cm)
57	7	5	D区	A-イ-19区 大溝	銅銭	元豐通寶	2.4
	8	6	D区	A-イ-19区 大溝	銅銭	景祐元寶	2.4
	9	7	D区	A-イ-19区 大溝	銅銭	熙寧元宝	2.3
	10	12	A区	B-4区 包含層	銅銭	洪武通寶	2.2
	11	13	A区	B-4区 包含層	銅銭	不明	2.2



A区凹地作業風景（南西から）



A区凹地作業風景（西から）



A区凹地板出土状況



A区凹地漆器出土状況



A区凹地下駄出土状況



A区凹地曲物出土状況



A区凹地西侧肩部（南西から）



A・B区完掘状況（南西から）



C区完掘状況（南西から）



C・D区遺構（北東から）



C区溝（西から）



C区肥溜め（北から）



D区遠望（北東から）



D区ピット列（南西から）



D区大溝（北から）



D区大溝遺物出土状況



E区発掘状況（北東から）



E区埴砂検出状況（北から）



D～F区全景（北東から）



F区全景（北東から）



F区作業状況（北から）



F区包含層掘り下げ作業



F区SK1・2土層断面（南西から）



F区SK1・2発掘状況（西から）

写真図版 4



F 区SK3土層断面（西から）



F 区SK3完掘状況（西から）



F 区SK4土層断面（西から）



F 区SK4完掘状況（南西から）



F 区SK5土層断面（北から）



F 区SK10～13（南東から）



F 区SK14遺物出土状況（南東から）

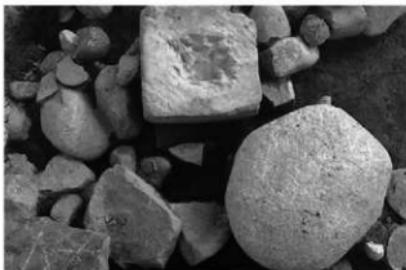


F 区SK14遺物出土状況（北から）

F 区遺構 2



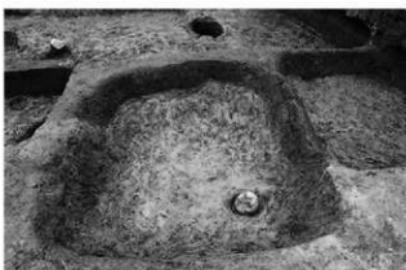
F区SK14遺物出土状況（北から）



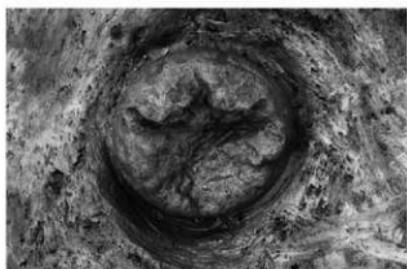
F区SK14遺物出土状況（北から）



F区SK16~18土層断面（南東から）



F区SK18発掘状況（北から）



F区SK18遺物出土状況



F区SK19~21実測風景（北東から）



F区SK19土層断面（北から）



F区SK19・20土層断面（北から）

写真図版 6



F 区SK21砾出土状況（北から）



F 区SK21砾出土状況（南から）



F 区SK23土層断面（北から）



F 区SK23完掘状況（北から）



F 区SK27土層断面（東から）



F 区SK27土層断面（西から）



F 区SK30土層断面（南から）



F 区SK35完掘状況（西から）

F 区遺構 4



F区SK37完掘状況（南東から）



F区SK37・38完掘状況（南東から）



F区SK39完掘状況（西から）



F区SK40完掘状況（北から）



F区SK45土層断面（東から）



F区SK45・46土層断面（北から）



F区SK45・46土層断面（西から）



F区SK48土層断面（東から）

写真図版 8



F 区SK50・SD10土層断面（東から）



F 区SK51土層断面（南から）



F 区SK53土層断面（東から）



F 区SK54土層断面（南から）



F 区SK56土層断面（東から）



F 区SK63土層断面（東から）



F 区SK65完掘状況（北西から）



F 区SK66完掘状況（南東から）

F 区遺構 6

F区遺構 7



F区SD1作業風景（南から）

写真図版 9



F区SD1周辺噴砂検出状況（北から）



F区SD1東壁断面（西から）



F区SD1遺物出土状況



F区SD1完掘状況（東から）



F区SD1完掘状況（西から）



F区SD2土層断面（北から）



F区SD8・9完掘状況（南から）

写真図版10



F区SD9土層断面 (南から)



F区SD9土層断面 (南から)



F区SE1完掘状況 (南東から)



F区SE1完掘状況 (西から)



G区全景 (南から)



G区噴砂検出状況 (東から)



H区作業風景 (北から)



H区全景 (北から)

F区造構8・G区造構・H区造構1



H区全景（南から）



H区SK1土層断面（北から）



H区SK2土層断面（東から）



H区SD1完掘状況（西から）



H区SD2周辺噴砂検出状況（北から）



H区SD2完掘状況（西から）



H区SD2西壁土層断面（東から）



H区SD3完掘状況（東から）

写真図版12



I区作業風景（北から）



I区全景（北から）



I区全景（南から）



I区SK1土層断面（東から）



I区SK1完掘状況（北から）



I区SK3~6土層断面（東から）



I区SK3~6土層断面（南から）



I区SK4~5土層断面（南から）

I区造構1



I区SK8土層断面（南から）



I区SK9・10土層断面（東から）



I区SK9・10土層断面（南から）



I区SK11土層断面（北から）



I区SK11完掘状況（南から）



I区SK12完掘状況（南から）



I区SK13土層断面（南から）



I区SK14・16土層断面（西から）



I区SK17土層断面（南から）



I区SK17噴砂跡（西から）



I区SK12~27完掘状況（西から）



I区SK22完掘状況（東から）



I区SK23土層断面（北西から）



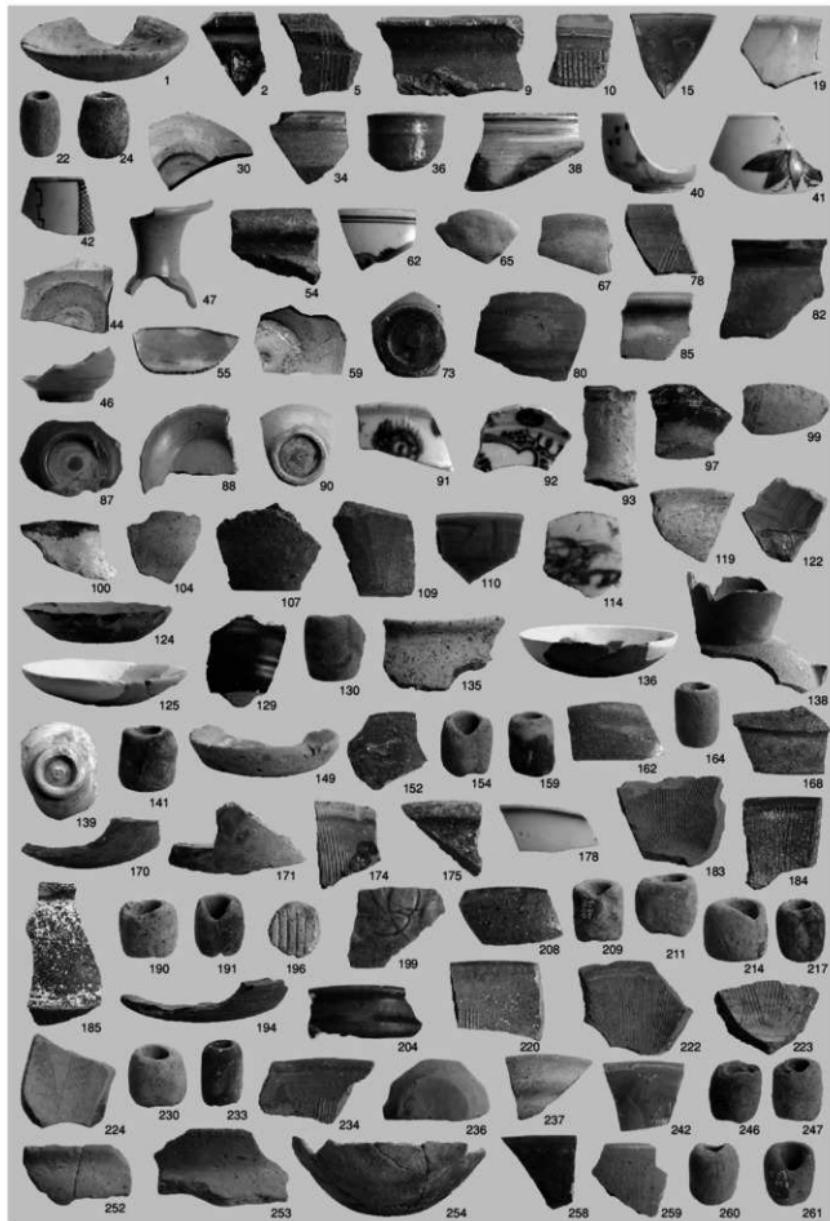
I区SK24土層断面（東から）



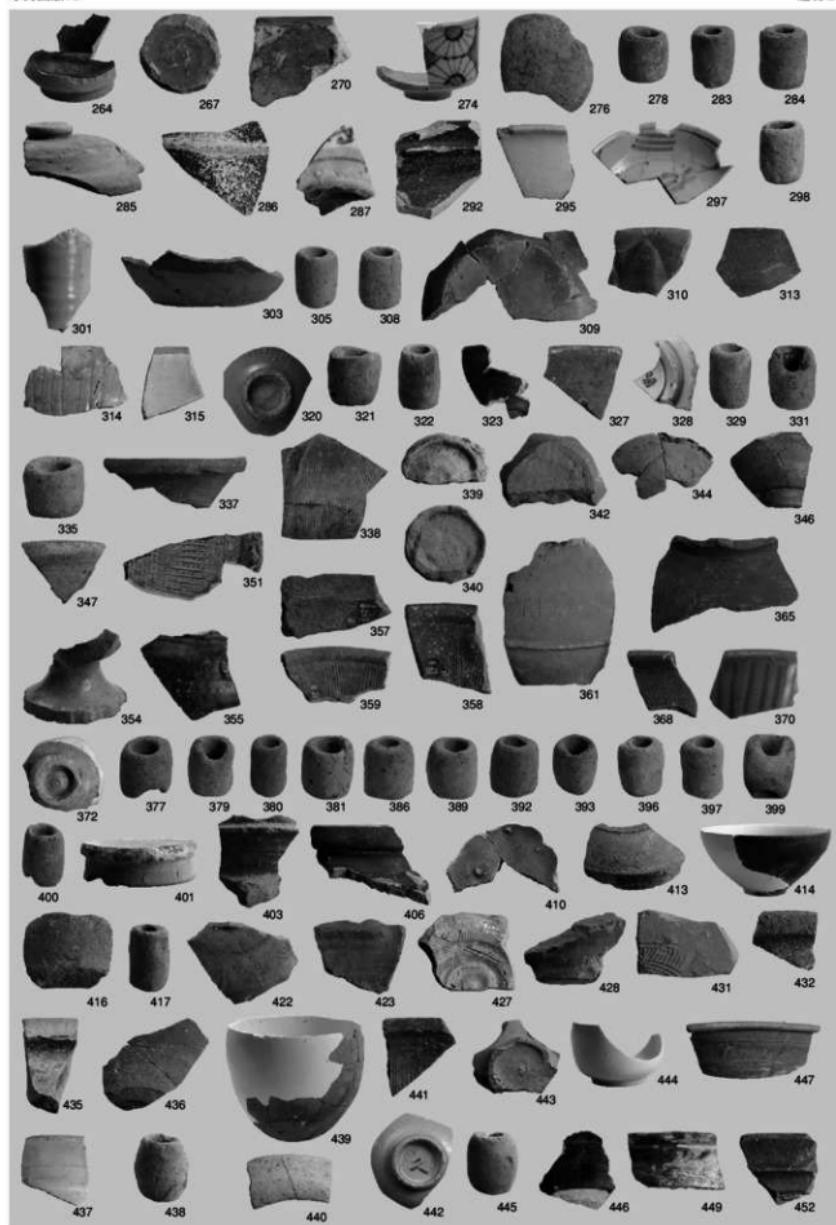
I区SK24完掘状況（北から）



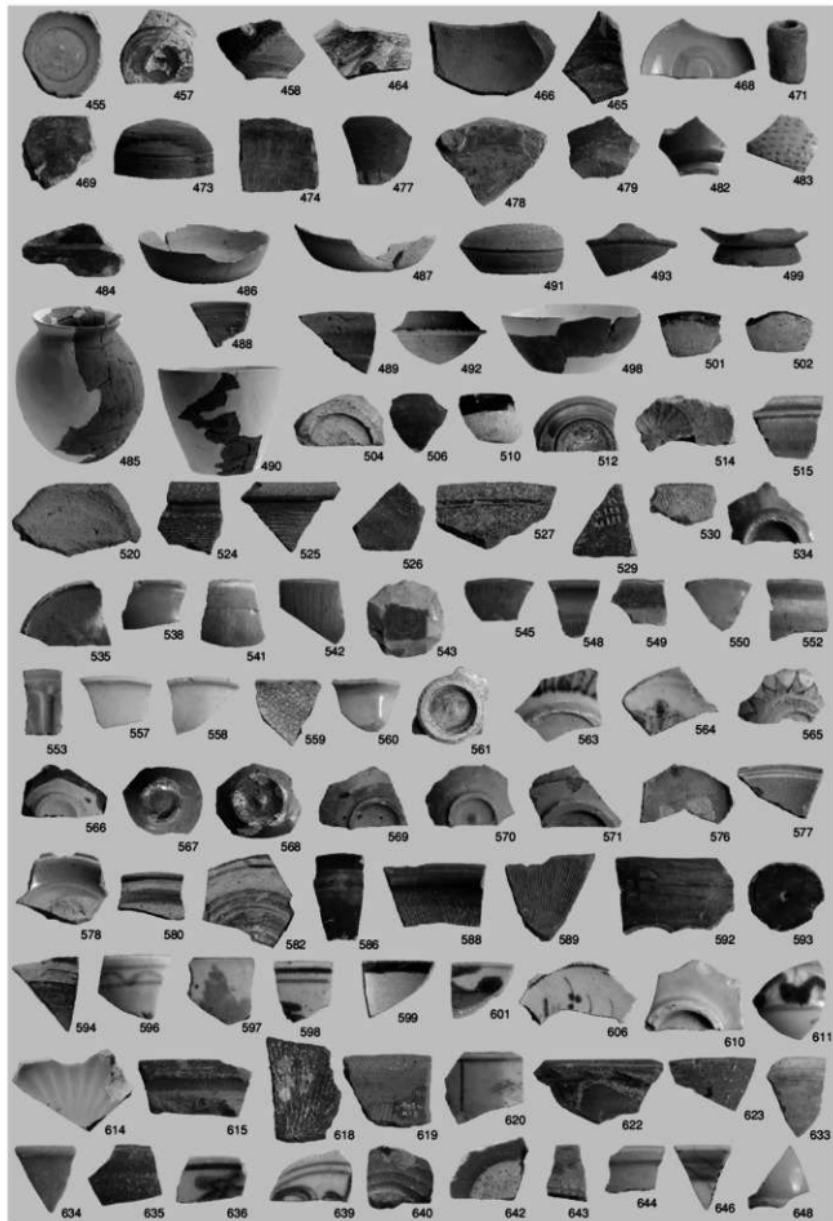
I区SK25土層断面（南から）

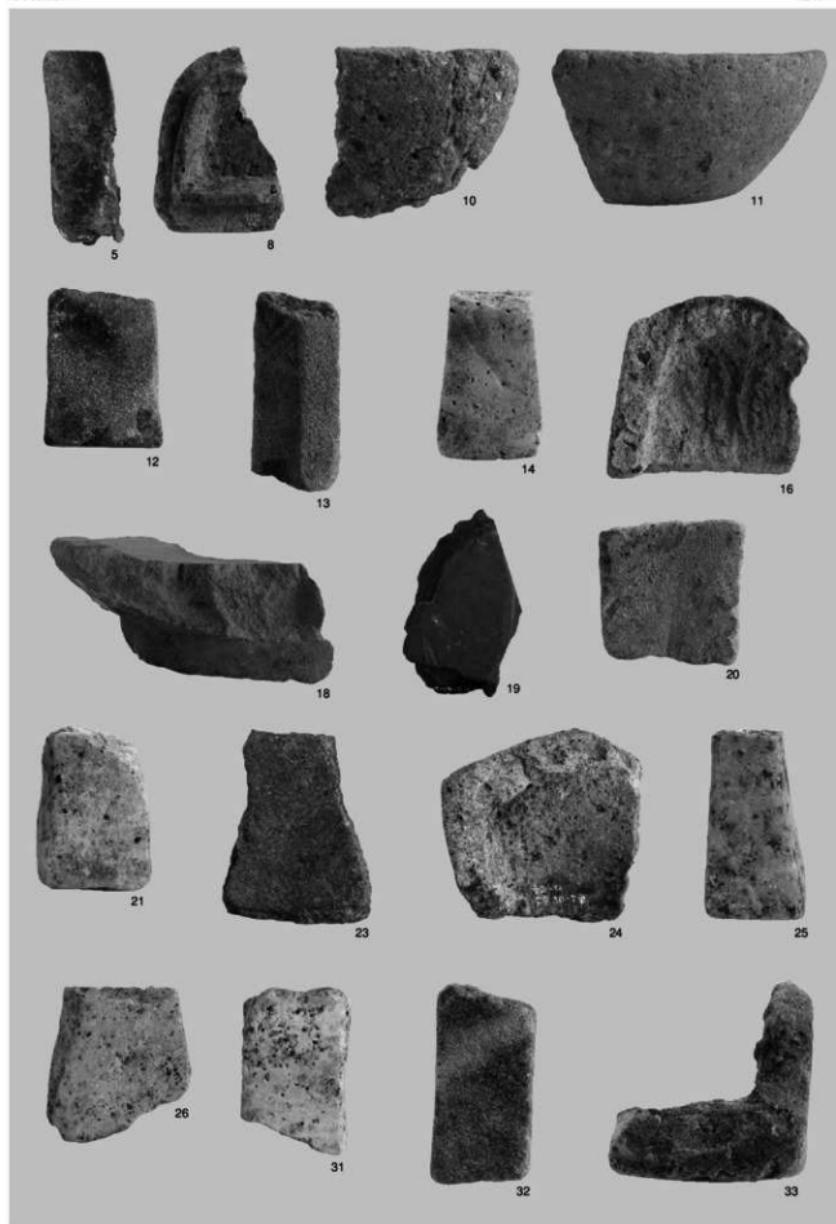


土器・陶磁器 1

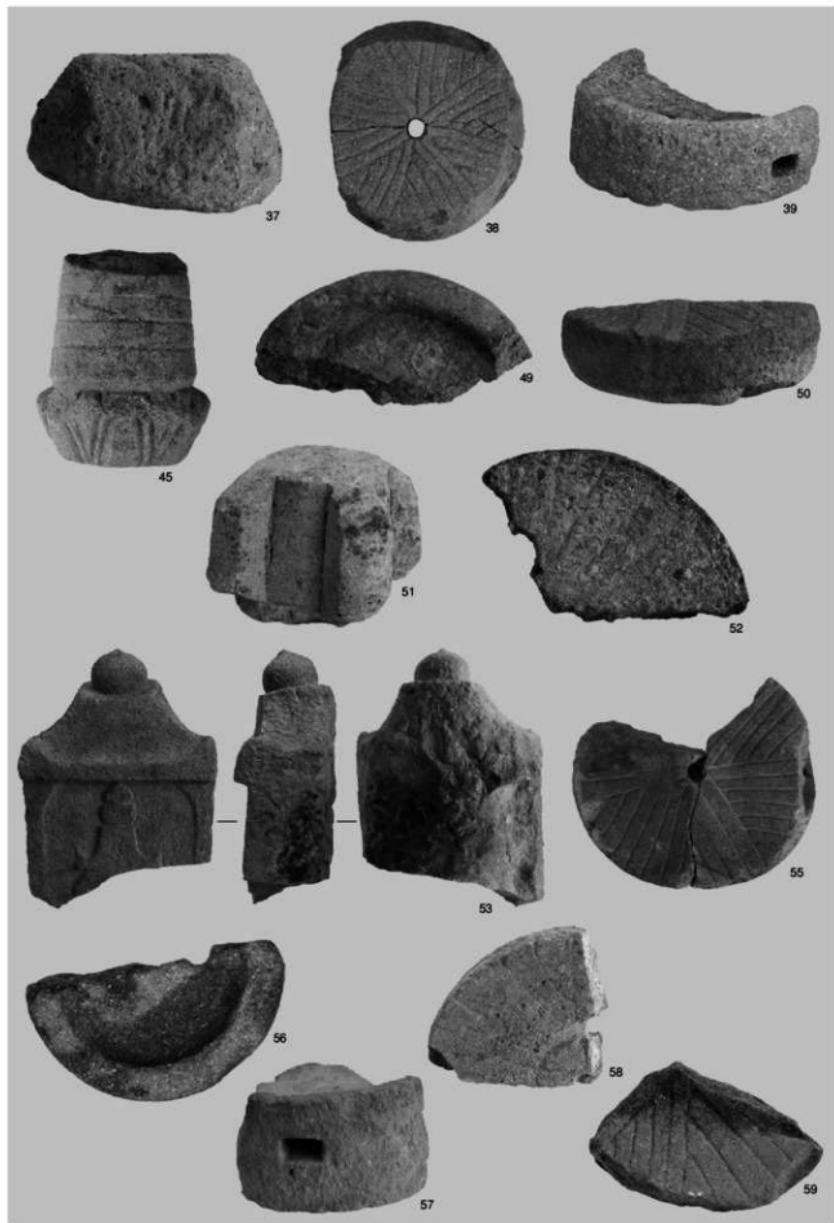


土器・陶磁器2

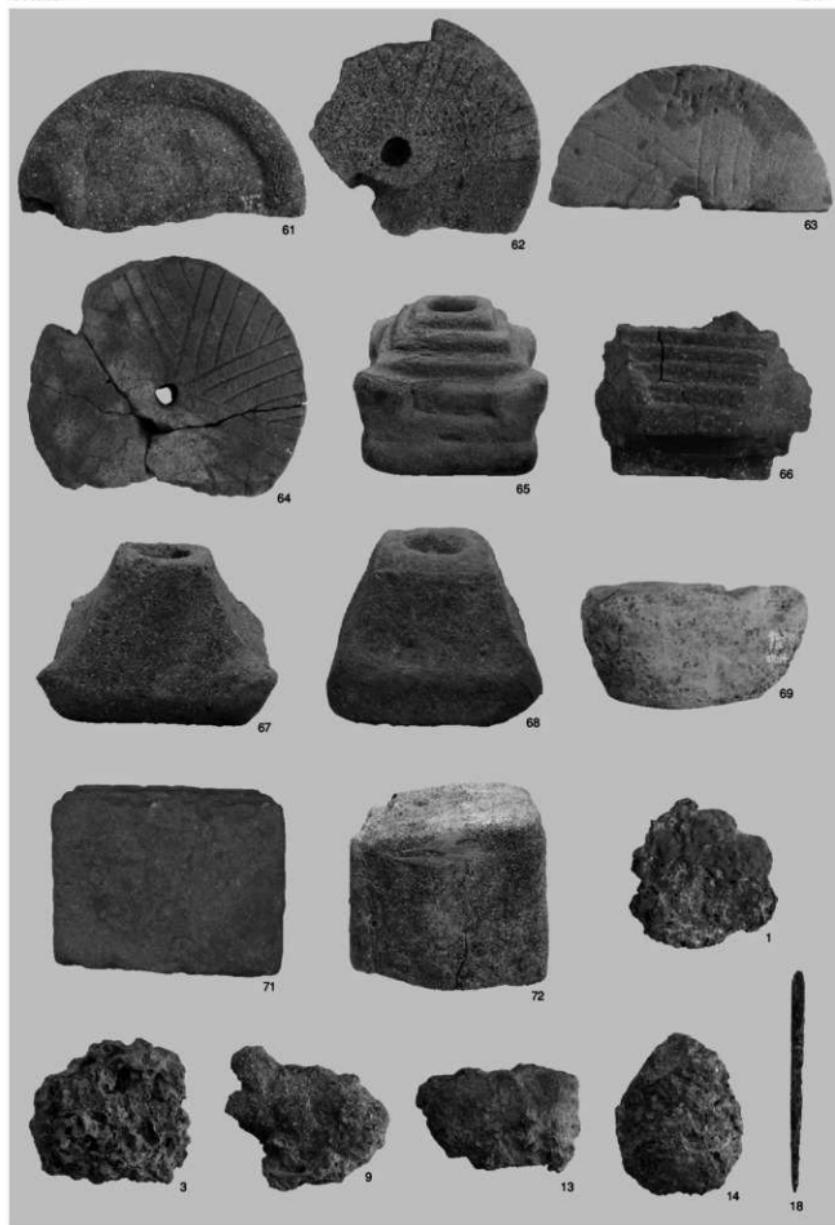




石製品 1



石製品 2



石製品 3・金属製品

報告書抄録

ふりがな	かなざわし ふしょうじたかばたけいせき							
書名	金沢市 普正寺高畠遺跡							
副書名	県単街路整備事業(3.3.2臨港線)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	湯尻修平、三浦純夫、藤田邦雄、岩瀬由美、坂下博見							
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18-1 TEL 076-229-4477							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	平成21年3月31日							
所収遺跡名	所 在 地	コード		北緯 (新)	東経 (新)	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
普正寺高畠遺跡	石川県金沢市普正寺町	17201	01255	36度 35分 31秒	136度 35分 26秒	19900426 ～ 19910206	5,300m ²	県単街路整備
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
普正寺高畠遺跡	集落跡	古墳・平安 中世・近世		竪穴建物、大溝 井戸、土坑		土師器、須恵器 陶磁器、石製品		
要約	古墳・平安時代の小規模な集落と中世後半～近世初頭にかけての集落及び縁辺部の調査を実施した。中世では、井戸跡や竪穴状遺構などから構成される屋敷地を検出した他、溝や土坑から五輪塔や坂碑などの石造遺物が多く出土した。近接地に中世後半の墓域が存在したと考えられる。PDFあり。							

金沢市 普正寺高畠遺跡

発行日 平成21(2009)年3月31日
 発行者 石川県教育委員会
 〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
 電話 076-229-4477

財団法人 石川県埋蔵文化財センター
 〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
 電話 076-229-4477
 E-mail address mail@ishikawa-mabun.or.jp
 印刷 株式会社小林太一印刷所

普正寺高畠遺跡遺構図

